

ワイヤレスハンディターミナル

XIT-200-G

ユーザーズマニュアル



株式会社ウェルキャット

商標について

- ・ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc. の登録商標であり、株式会社ウェルキャットはライセンスに基づいて使用しています。
- ・ 本製品には、株式会社リコーによって開発されたビットマップフォントが搭載されています。
- ・ 本製品には、株式会社京都ソフトウェアリサーチによって開発されたファイルシステム「Fugue」が搭載されています。



Fugue ©1999–2011 Kyoto Software Research, Inc. All rights reserved.

- ・ 各マニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
- ・ 各マニュアルの一部または全てを無断で使用、複製することはできません。
- ・ その他記載されている会社名、製品名、規格名は、それぞれの企業の登録商標または商標です。

正しく安全にお使い頂くために

弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前にこのユーザーズマニュアルをよくお読みになり、製品の適正な使用および保守することが重要です。製品の仕様・機能・内容の確認に努め、使用する際には表示・マニュアルをよく読み、事故につながるような使い方をしないように心がけましょう。製品の保守・点検をこまめに行うことも大切です。表示内容が無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。表示は危険の程度で分類されています。

危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される緊急性が高い内容を示しています。

警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

以下の絵表示は、お守り頂く内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。図の中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずして頂く「強制」であることを示します。図の中に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注意の表示を厳守してください。

XIT-200-G 本体、バッテリーパック (BP-004) 共通

危険

必ず専用の周辺機器をご使用ください。



- ・バッテリーパック (BP-004)
- ・シングルチャージャ (QC-006)
- ・マルチチャージャ (QC-007)
- ・USB 通信ユニット (IU-004)
- ・USB 通信/充電ユニット (IU-004C)
- ・LAN 通信/充電ユニット (IU-004CL)



高温になる場所（火やストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生する場所での使用、放置、充電はしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



電子レンジや高圧容器などの中に入れてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



レーザーを人に向けてください。

レーザー光が目に入ると視力に障害をきたす恐れがあります（『レーザー安全基準について』（P.8）参照）。



バッテリーパックの端子や、本体のバッテリーパック用端子/充電端子をショートさせたり、ハンダ付けしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



バッテリーパックの (+) と (-) の向きを逆に使用、充電しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



水や海水などに浸けたり、濡らしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

警告



バッテリーパックの充電の際、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



落下させる、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



発熱・発煙・異臭などが発生した時は、電源を切りバッテリーパックを外してください。

そのまま使用すると、発熱、発火の原因となります。バッテリーパックではさらに漏液、破裂の原因ともなります。



分解、改造をしないでください。

けがや感電、火災などの事故または故障の原因となります。内部の点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。万一、改造などにより生じた問題については、一切の責任を負いかねます。



バッテリーパックの端子や、本体のバッテリーパック用端子/充電端子に手や指など身体の一部が触れないようにしてください。

感電、傷害、故障の原因となる場合があります。



薬品に近づけないでください。

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、保管しないでください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。



バッテリーパックの充電は専用充電器を使用してください。

他の充電器で充電すると、バッテリーパックが発熱、破裂、発火する原因となります。

注意

高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください。



火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください。火災などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使用や保管は避けてください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。

不安定なところに置かないでください。



機器が落ちたり倒れたりして、けがや機器の故障の原因となります。

乳幼児の手の届くところに置かないでください。



けがなどの原因となります。

本製品は、事務用、産業用などの一般的用途を想定したものであり、以下のような高度な安全性が要求される用途での使用を想定した製品ではありません。



・陸上、海上、航空輸送ならびに交通の運行制御管理、原子力核施設の制御管理、生命維持装置の制御管理など

弊社は、このような生命、人体、環境に対し重大な危険性を伴う用途での使用により発生した損害に対し、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

XIT-200-G 本体について

警告

持ち運びの時には、ハンドストラップが引っ掛からないようにしてください。



ハンドストラップの取扱いには十分注意してください。ハンドストラップが他の物に引っ掛かると、けがや事故の原因となります。

高精度な制御や微弱な信号を扱う電子機器の近くでは使用しないでください。



電子機器(医療用電子機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など)が誤動作するなどの影響を与えることがあります。

異物を本体の内部に入れないでください。



もし本体の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。

注意

コンピュータや蛍光灯、電子レンジなどのノイズを発する機器からはなるべく離して使用してください。



ノイズの影響により正常に通信できなくなる場合があります。

必ず手に取って操作してください。



床や机に置いたまま、あるいは充電器に置いたままの状態ですると機器の故障や誤作動の原因となります。

強い衝撃を与えないでください。



本体を落とす、投げる、叩くなどしないでください。故障の原因となります。

水中に入れたり、強い勢いで水をかけたりしないでください。



本体は水没、噴射水に対し保護されません。内部に水が入り感電、火災などの事故または故障の原因となります。

磁石、ブザー、スピーカ、ブラウン管や、RFID のアンテナ近くなど、強い磁界が発生する恐れがあるところで使用、保管しないでください。



本体の誤動作や故障の原因となります。

バッテリーパック (BP-004) について



Li-ion

使用済みバッテリーパック (BP-004) について

XIT-200-G 本体にはリチウムイオン二次電池（バッテリーパック：BP-004）を使用することができます。リチウムイオン二次電池は、「資源有効利用促進法」により、電池メーカーおよび電池を使用する機器メーカーに回収・リサイクルが義務付けられた小型二次電池です。弊社では一般社団法人 JBRC の会員として、使用済み小型二次電池の回収・リサイクルを実施しております。寿命となったバッテリーパックは一般のゴミと一緒に捨てず、回収に関しては弊社までお問合せください。

⚠ 危険



バッテリーパックが漏液して液が皮膚、衣服に付着した時は、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、液が目に入った時は、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

放置すると、失明やその他傷害を起こす原因となります。



バッテリーパックを火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



バッテリーパックを水や海水などに浸けたり、濡らしたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。

⚠ 警告



バッテリーパックが漏液、変形・変色した時には使用しないでください。

そのまま使用すると、バッテリーパックの発熱、破裂、発火、または漏液の原因となります。また火気に近づけると漏液した電解液に引火する恐れがあります。

レーザー安全基準について

本製品はレーザー製品の安全基準 JIS C 6802 に準拠しています。

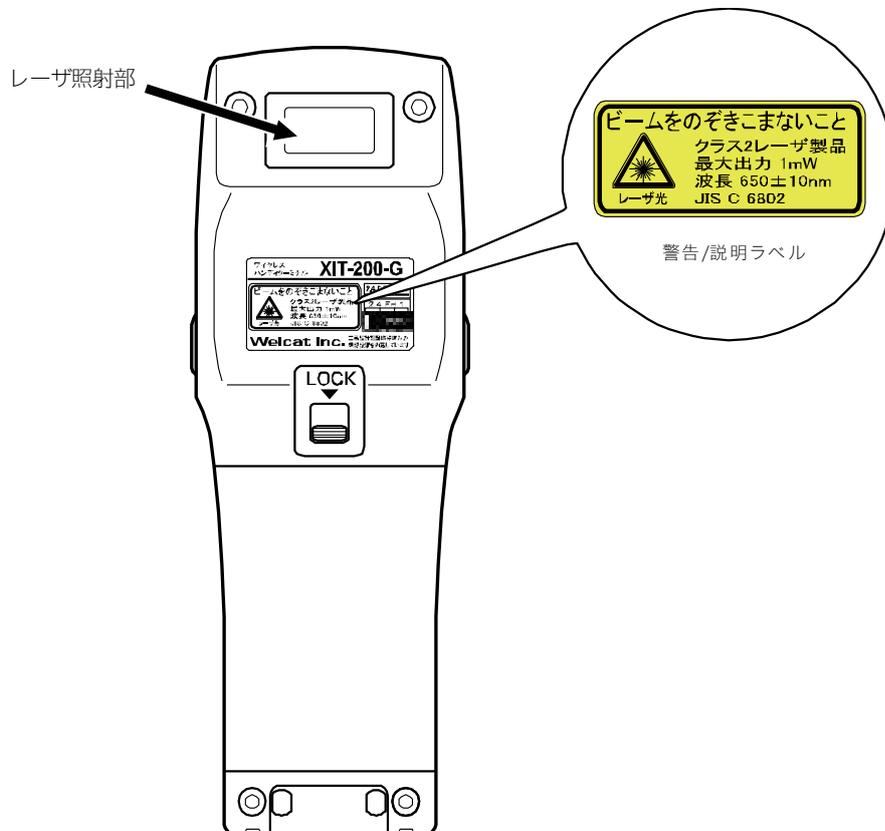
レーザークラス：クラス 2

最大出力：1mW

波長：650±10nm

クラス 2 ではまばたき等の嫌悪反応で目が保護されますが、レーザー光をのぞき込んだり直接目に入れたりしないでください。

レーザーに関する警告ラベル



注意

ユーザーズマニュアルに反した使用や、製品の分解はしないでください。危険なレーザー照射の被ばくを招くことがあります。

液晶画面について

製品によって、赤、青、緑などの輝点が点灯したままになったり、小さな黒点が発生したりすることがあります。また、低温環境下でご使用の場合、若干表示の切替わりが遅く見えることがあります。これは液晶の特性によるバラつきであり不良ではありません。

microSD カードに関する注意

動作確認済みの microSD カードをご使用ください（「1-2-3 microSD カードの取扱い」(P.38) 参照）。
microSD カードの取扱いについては、microSD カード付属の取扱説明書をご覧ください。

電波に関する注意

- 本機は電波法に基づく工事設計の認証を受けた無線設備を内蔵しています。
- 本機を分解したり、本機の内部に触れたりすることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

- ・心臓ペースメーカーや医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。
医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、アマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業担当にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- ・その他、この機器から移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきた時は、弊社営業担当へお問合せください。

製品銘板に記載されている **2.4DS/OF4** は、次の内容を意味しています。

| | | |
|---|----------|--------------------------------------|
| 2.4 | 使用周波数帯域 | 2.4GHz 帯 |
| DS/OF | 変調方式 | DS-SS 方式、OFDM 方式 |
| 4 | 想定与干渉距離 | 40m 以下 |
|  | 周波数変更の可否 | 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。 |

製品銘板に記載されている **2.4FH1** は、次の内容を意味しています。

| | | |
|---|----------|--------------------------------------|
| 2.4 | 使用周波数帯域 | 2.4GHz 帯 |
| FH | 変調方式 | FH-SS 方式 |
| 1 | 想定与干渉距離 | 10m 以下 |
|  | 周波数変更の可否 | 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。 |

注意

本機は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 商標について | 1 |
| 正しく安全にお使い頂くために | 2 |
| 必ずお守りください..... | 3 |
| レーザ安全基準について..... | 8 |
| レーザに関する警告ラベル..... | 8 |
| 液晶画面について..... | 9 |
| microSD カードに関する注意..... | 9 |
| 電波に関する注意..... | 9 |
| 目次..... | 11 |
| 本書の見方 | 18 |
| ■本書の構成 | 18 |
| ■表記上の注意..... | 19 |
| システム体系 | 20 |
| ■製品構成..... | 20 |
| ■WLAN 通信システム構成..... | 21 |
| ■Bluetooth 通信システム構成..... | 22 |
| ■赤外線通信 (IrDA) システム構成 | 23 |
| 第 1 章 ハードウェア..... | 25 |
| 1-1 製品について..... | 26 |
| 1-1-1 同梱品の確認..... | 26 |
| 1-1-2 別売品..... | 27 |
| 1-1-3 各部の名称と機能..... | 29 |
| ■LED 表示..... | 31 |
| ■操作キーの名称..... | 32 |
| ■液晶画面ステータスバー..... | 33 |
| 1-2 本体の使い方..... | 34 |
| 1-2-1 ハンドストラップの取付け..... | 34 |
| 1-2-2 バッテリーパックの取扱い..... | 35 |
| ■バッテリーパックの取付け..... | 35 |
| ■バッテリーパックの取外し..... | 37 |
| 1-2-3 microSD カードの取扱い..... | 38 |
| ■動作確認済み microSD カード..... | 38 |
| ■microSD カードの取付け..... | 39 |
| ■microSD カードの取外し..... | 41 |
| 1-2-4 バッテリーパックの充電..... | 43 |
| ■1 台を充電する..... | 44 |

| | |
|---|----|
| ■複数台を充電する | 46 |
| 1-2-5 バッテリーパックの残量表示とアラーム | 48 |
| ■バッテリーパックの残量表示 | 48 |
| ■バックアップ用電池の充電 | 49 |
| 1-2-6 メモリのバックアップ | 50 |
| ■メモリのバックアップ | 50 |
| ■バックアップ用電池の充電 | 51 |
| 1-2-7 長期保管 | 52 |
| ■本製品の長期保管 | 52 |
| ■バッテリーパックの長期保管 | 52 |
| 1-3 基本的な使い方 | 53 |
| 1-3-1 電源の ON/OFF | 53 |
| 1-3-2 バーコードの読取りかた | 54 |
| ■読取りかた | 54 |
| 1-3-3 使用時に役立つ機能 | 55 |
| ■システムメニューの強制起動 | 55 |
| ■自動調光設定 | 55 |
| ■ブザー音量の調整 | 55 |
| ■レジューム機能（電源 OFF 時の状態保持） | 56 |
| ■オートウェイクアップ（設定した時間に電源 ON） | 56 |
| ■オートパワーオフ（自動的に電源 OFF） | 56 |
| 1-4 お手入れのしかた | 57 |
| | |
| 第 2 章 ソフトウェア | 58 |
| 2-1 ソフトウェアについて | 59 |
| 2-1-1 データについて | 59 |
| ■ドライブの構成 | 59 |
| ■ファイル名について | 60 |
| ■拡張子について | 60 |
| ■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル | 61 |
| ■R ドライブ（microSD カード）フォルダ構成 | 61 |
| 2-2 レジストリ | 62 |
| 2-3 アプリケーションソフトの作成 | 63 |
| ■周辺ソフトウェア | 63 |
| | |
| 第 3 章 通信環境の設定 | 64 |
| 3-1 通信の種類 | 65 |
| ■WLAN 通信 → 「3-2 WLAN 通信環境の構築」(P.60) | 65 |
| ■Bluetooth 通信 → 「3-3 Bluetooth 通信環境の構築」(P.68) | 66 |
| ■赤外線 (IrDA) 通信 → 「3-4 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P.71) | 66 |

| | | |
|-------|--------------------------------------|-----|
| 3-2 | WLAN 通信環境の構築 | 68 |
| 3-2-1 | パソコン側の準備 | 68 |
| 3-2-2 | 本製品側の準備 | 69 |
| ■ | 設定ウィザードによる WLAN 通信設定 | 70 |
| ■ | システムメニューでの WLAN 通信設定 | 73 |
| ■ | DHCP による WLAN 通信設定 | 74 |
| 3-2-3 | WLAN 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード | 75 |
| 3-3 | Bluetooth 通信環境の構築 | 77 |
| 3-3-1 | パソコン側の準備 | 77 |
| ■ | COM ポートの確認 | 77 |
| 3-3-2 | 本製品側の準備 | 77 |
| 3-3-3 | Bluetooth 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード | 78 |
| 3-4 | 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築 | 81 |
| 3-4-1 | パソコン側の準備 | 82 |
| 3-4-2 | 赤外線通信 (IrDA) 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード | 83 |
| ■ | 機器の準備 | 83 |
| ■ | 使用前の準備 | 83 |
| ■ | 転送ユーティリティ BluePorter-V の起動 | 84 |
| ■ | 通信設定 | 84 |
| ■ | ファイルのダウンロード | 85 |
| 3-5 | アプリケーションソフトの実行方法 | 87 |
| ■ | ファイルリストから選択して実行 | 87 |
| ■ | 起動時に自動実行 | 89 |
| 第 4 章 | システムメニュー | 90 |
| 4-1 | システムメニューの使い方 | 91 |
| 4-1-1 | 操作キー | 91 |
| ■ | キーの文字割当て一覧 | 92 |
| 4-1-2 | システムメニューの起動 | 93 |
| 4-1-3 | 初めてシステムメニューを起動する時 | 93 |
| 4-1-4 | システムメニューの操作方法 | 94 |
| ■ | 設定項目の選択 | 94 |
| ■ | キーでデータを入力する | 95 |
| ■ | その他の操作 | 97 |
| ■ | バーコードでデータを入力する | 98 |
| 4-2 | システムメニュー一覧 | 99 |
| 4-3 | システム：快適にご使用頂くための設定 | 101 |
| 4-3-1 | 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行 | 102 |
| 4-3-2 | 時計：時刻の設定 | 103 |
| ■ | 現在の時刻 | 103 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| ■マニュアル設定：マニュアルで時刻を設定..... | 103 |
| ■サーバ設定：サーバから自動的に時刻を設定..... | 104 |
| 4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定..... | 105 |
| ■レジューム機能：電源 OFF 時の状態を保持..... | 105 |
| ■オートウェイクアップ：決められた時間に起動..... | 107 |
| ■オートパワーオフ：自動的に電源 OFF..... | 109 |
| 4-3-4 パスワード：パスワードの設定・解除..... | 110 |
| ■設定：パスワードの設定..... | 111 |
| ■解除：パスワードの解除..... | 111 |
| 4-4 WLAN：WLAN 通信の設定..... | 112 |
| 4-4-1 SSID：SSID の設定..... | 112 |
| 4-4-2 ローミングレベル：ローミングレベルの設定..... | 113 |
| 4-4-3 省電力タイムアウト：タイムアウト時間の設定..... | 113 |
| 4-4-4 セキュリティ：WLAN 通信のセキュリティ設定..... | 114 |
| ■暗号化..... | 114 |
| ■認証..... | 119 |
| ■注意表示..... | 124 |
| 4-4-5 詳細設定：WLAN 通信に関する詳細な設定..... | 125 |
| 4-4-6 MAC アドレス：MAC アドレスの表示..... | 127 |
| 4-5 ネットワーク：ネットワーク接続の設定..... | 128 |
| 4-5-1 TCP/IP：TCP/IP の設定..... | 129 |
| 4-5-2 DHCP：DHCP の設定..... | 131 |
| ■スタートアップの種類..... | 132 |
| ■更新禁止項目..... | 133 |
| ■サーバポート番号..... | 133 |
| 4-5-3 FTP：FTP の設定..... | 134 |
| ■サーバアドレス..... | 134 |
| ■ユーザ名..... | 135 |
| ■パスワード..... | 135 |
| ■詳細設定..... | 136 |
| 4-5-4 DNS：DNS サーバの設定..... | 138 |
| ■プライマリ..... | 138 |
| ■セカンダリ..... | 139 |
| ■詳細設定..... | 139 |
| 4-5-5 SNMP：SNMP の設定..... | 140 |
| ■コミュニティ (R/Only)..... | 140 |
| ■コミュニティ (R/W)..... | 141 |
| ■Trap..... | 141 |
| ■詳細設定..... | 142 |
| 4-6 受信：ファイルの受信..... | 144 |

| | |
|--|-----|
| 4-6-1 受信：WLAN/Bluetooth/赤外線 (IrDA) 通信でファイルを受信..... | 144 |
| ■ファイルの受信 (WLAN) | 146 |
| ■ファイルの受信 (Bluetooth/IrDA) | 148 |
| 4-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など | 150 |
| ■実行：アプリケーションソフトの実行..... | 154 |
| ■再生：音声データの再生..... | 154 |
| ■閲覧：画像データの表示..... | 155 |
| ■情報：ファイル詳細情報を表示..... | 155 |
| ■送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信 | 156 |
| ■削除：ファイルを削除..... | 158 |
| ■全てチェックをつける：全てのファイルを選択..... | 159 |
| ■全てチェックをはずす：全てのファイルの選択を外す..... | 159 |
| ■指定したドライブにコピー | 160 |
| 4-8 端末 ID：端末識別用 ID を設定 | 161 |
| 4-9 デバイス：ハードウェアの機能を設定..... | 162 |
| 4-9-1 バーコード：バーコードスキャナの設定..... | 162 |
| ■トリガモード | 163 |
| ■デコードレベル | 165 |
| ■反転バーコード | 166 |
| 4-9-2 キー | 167 |
| ■キーリピートの設定..... | 167 |
| ■キーバックライトの設定..... | 168 |
| 4-9-3 Bluetooth：Bluetooth の登録設定 | 169 |
| ■ローカルデバイス | 169 |
| ■リモートデバイス | 171 |
| 4-9-4 画面/バックライト輝度の設定..... | 177 |
| ■バックライト輝度..... | 177 |
| ■自動調光..... | 178 |
| 4-9-5 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定..... | 178 |
| ■ボリューム | 179 |
| ■インジケータ | 179 |
| ■キークリック音..... | 185 |
| 4-10 メンテナンス：基本情報とメンテナンスの設定..... | 186 |
| 4-10-1 システムバージョン：OS バージョンの確認..... | 186 |
| 4-10-2 フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット..... | 187 |
| 4-10-3 クローン：複製の作成 | 189 |
| ■クローン実行の手順..... | 189 |
| ■Bluetooth/IrDA の場合..... | 190 |
| ■microSD の場合 | 194 |
| 4-10-4 ドライブ：ドライブ情報の表示..... | 197 |

| | | |
|--------|---------------------------------|-----|
| 4-10-5 | 長期保管：長期間使用しない時の設定..... | 198 |
| 4-10-6 | ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動..... | 199 |
| 4-10-7 | OS 更新：本製品の OS の更新..... | 200 |
| 4-10-8 | BHCP：BHCP の設定..... | 202 |
| 4-11 | テスト：ハードウェアデバイスのテスト..... | 204 |
| 4-11-1 | WLAN：WLAN 通信のテスト..... | 204 |
| | ■条件設定..... | 205 |
| | ■無線/ping テスト..... | 206 |
| | ■AP 検索..... | 207 |
| 4-11-2 | Bluetooth：Bluetooth 通信のテスト..... | 208 |
| 4-11-3 | IrDA：赤外線通信のテスト..... | 209 |
| 4-11-4 | バーコード..... | 210 |
| | ■バーコードオプション..... | 210 |
| 4-11-5 | 画面：液晶画面のテスト..... | 211 |
| 4-11-6 | キー：キー動作とインジケータのテスト..... | 212 |
| 第 5 章 | 仕様..... | 213 |
| 5-1 | 製品の仕様..... | 214 |
| 5-1-1 | XIT-200-G ワイヤレスハンディターミナル..... | 214 |
| | ■外形寸法..... | 218 |
| 5-1-2 | QC-006 シングルチャージャ..... | 219 |
| 5-1-3 | QC-007 マルチチャージャ..... | 220 |
| 5-1-4 | IU-004 USB 通信ユニット..... | 220 |
| 5-1-5 | IU-004C USB 通信/充電ユニット..... | 221 |
| 5-1-6 | IU-004CL LAN 通信/充電ユニット..... | 222 |
| 5-2 | 読取仕様..... | 223 |
| 5-2-1 | バーコードの読み方..... | 223 |
| 5-2-2 | 読取深度..... | 223 |
| 5-2-3 | バーコードの傾きと読取り可能角度..... | 224 |
| 5-3 | 画面出力キャラクタ..... | 225 |
| | ■全角文字..... | 225 |
| | ■半角文字..... | 225 |
| 第 6 章 | よくある質問と回答..... | 226 |
| 6-1 | よくある質問と回答..... | 227 |
| 6-2 | 読取りが困難なバーコード..... | 235 |
| 製品保証 | | 237 |
| | ■製品保証について..... | 237 |

| | |
|---------------------|-----|
| 消耗品..... | 238 |
| ■保守について..... | 238 |
| ■修理について..... | 238 |
| ■消耗品..... | 238 |
| 付録..... | 239 |
| 付録-1 出荷時設定一覧..... | 240 |
| 付録-2 サンプルバーコード..... | 244 |
| 付録-3 用語集..... | 248 |

本書の見方

■本書の構成

本書は、次の内容で構成されています。

| | |
|-------------------------------|--|
| システム体系 | 本製品のシステム構成の全体を説明しています。製品のご理解にお役立てください。 |
| 第1章 ハードウェア | 本製品各部の使い方、バッテリーパックの取付け・充電、バーコードの読取りかたなど、ハードウェアの使い方について説明しています。 |
| 第2章 ソフトウェア | ソフトウェアについて説明しています。 |
| 第3章 通信環境の設定 | アプリケーションソフトを作成するための環境、作成方法、インストール手順、実行方法について説明しています。 |
| 第4章 システムメニュー | 基本的な機能の操作方法とシステムメニューについて説明しています。 |
| 第5章 仕様 | 製品の仕様一覧です。 |
| 第6章 よくある質問と回答 | よくある質問やトラブル、それらを解決するために確認する必要がある項目について説明しています。 |
| 製品保証 | 製品保証およびユーザ登録方法について説明しています |
| 消耗品 | 消耗品について説明しています。 |
| 付録 | 出荷時設定、サンプルバーコードが記載されています。 |

■表記上の注意

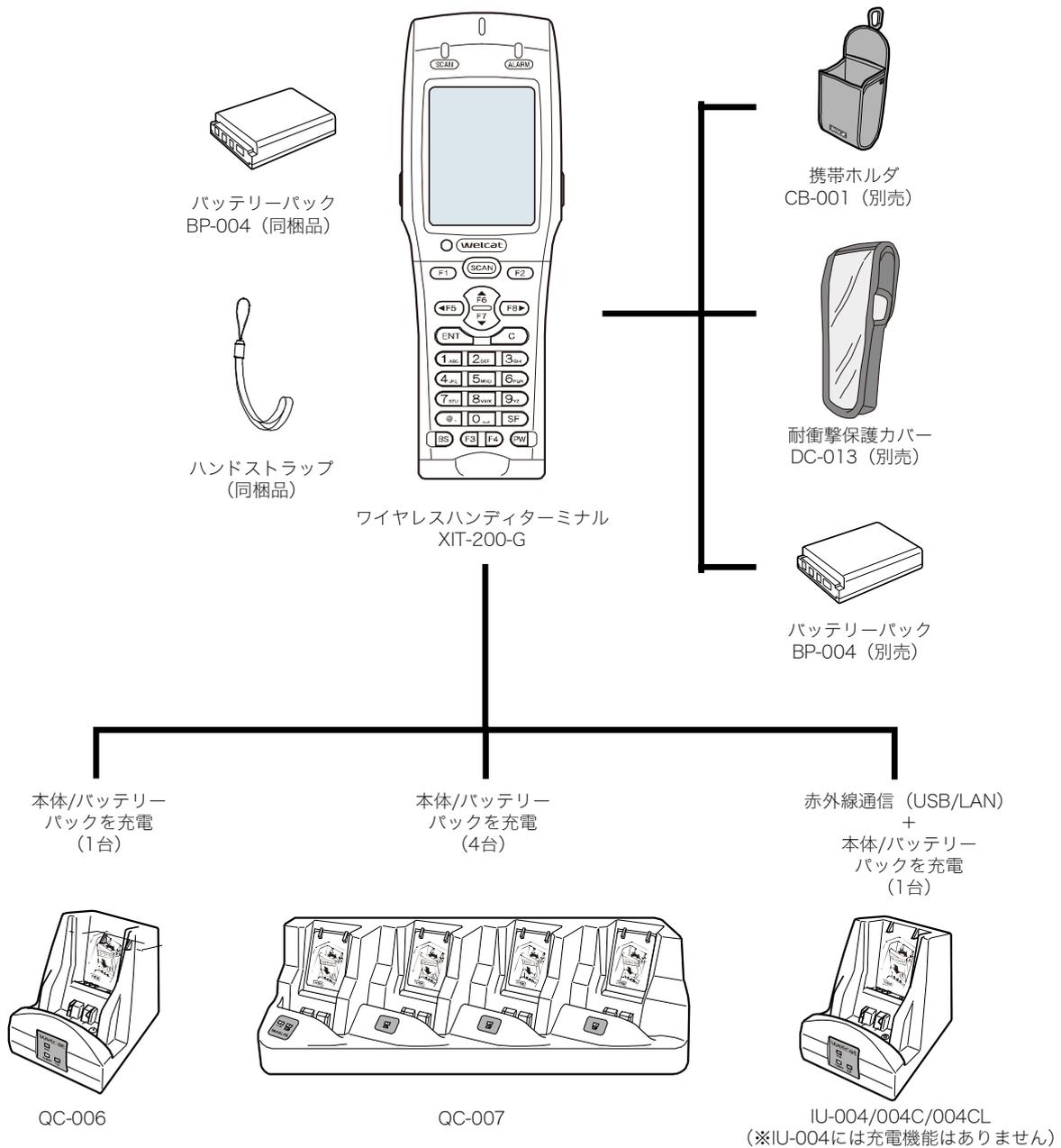
本書では、次の表記が使用されています。

| | |
|--|---|
|  | <p>守って頂きたい事項、操作上の注意を要する事項を記載しています。この記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。</p> |
|  | <p>役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。</p> |
|  | <p>関連する情報が記載されているページや他のマニュアルを紹介しています。</p> |
| <p>本製品/本体</p> | <p>XIT-200-G 本体のことです。</p> |
| <p>【 】キー</p> | <p>操作パネルのキー名称は【 】で記載しています。（例）【PW】キー</p> |
| <p>[]</p> | <p>画面に表示される項目は[]で記載しています。（例）[システムメニュー]</p> |
| <p></p> | <p>システムメニューの操作方法を説明しています。</p> |
|  | <p>システムメニューの一部の操作では、実行時のバッテリーパック残量が規定値（操作により異なります）を下回る場合、操作が制限されます。それらの操作説明には、このマークを記載しています。</p> |
|  | <p>一部のシステムメニューの操作は、DHCP クライアント機能を使ってパソコンから一括して設定することができます。DHCP クライアント機能の操作説明には、このマークを記載しています。</p> |

システム体系

■製品構成

本製品を使用するための基本的な製品構成です。必要に応じてご用意ください。



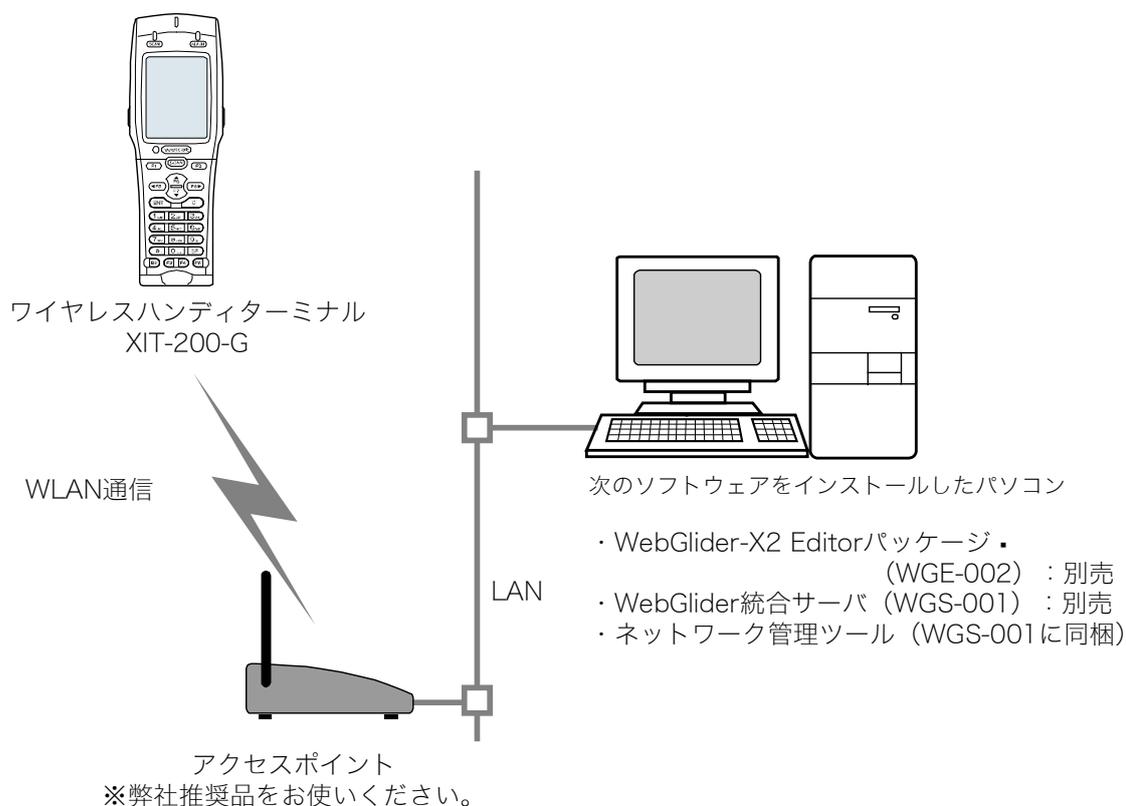
■WLAN 通信システム構成

アクセスポイントをイーサネット LAN に接続し、WLAN 通信設定と TCP/IP 設定を行うと、パソコンとの間で通信することができます。

パソコンで作成したアプリケーションソフトのダウンロード、データの送受信、またはパソコンから本製品の設定を行うことができます。

この通信には、別売のアクセスポイント、イーサネットケーブル、HUB が必要です。

WLAN 通信設定に関する詳細は、アクセスポイントのマニュアルと「3-2 WLAN 通信環境の構築」(P. 68) 「4-4 WLAN : WLAN 通信の設定」(P. 112)、「4-5 ネットワーク : ネットワーク接続の設定」(P. 128)を参照してください。

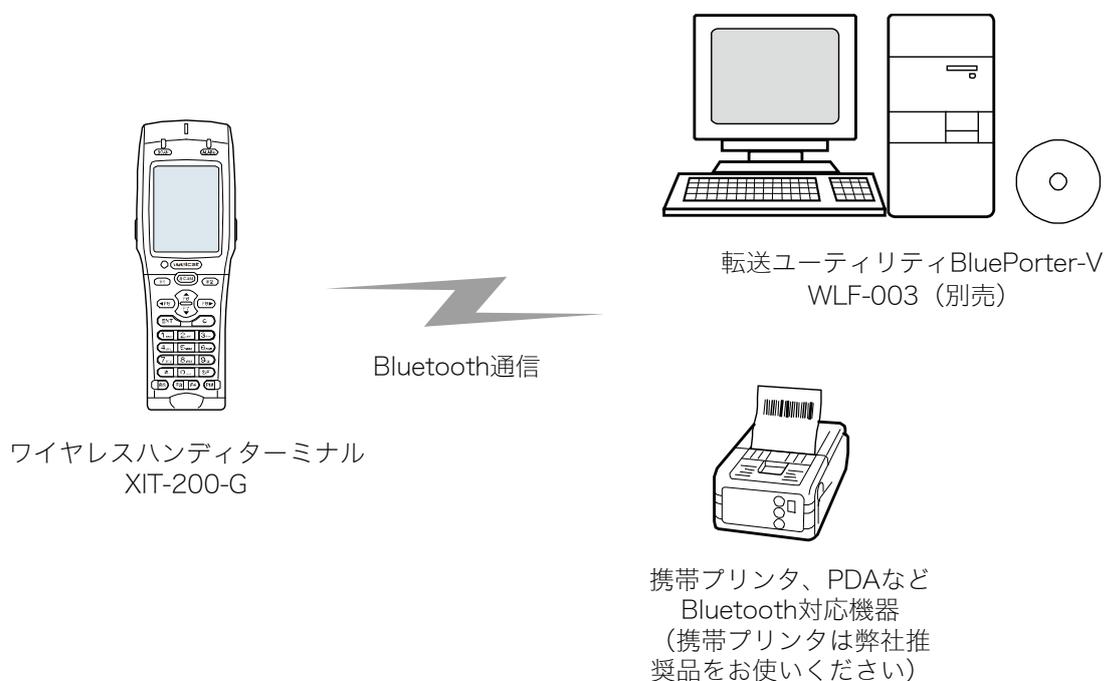


- ・ 本製品からパソコンにファイルを送信する場合
「4-7 ファイル : ファイルの実行・送信・削除など」(P.150)
- ・ 本製品がパソコンからファイルを受信する場合
「4-6 受信 : ファイルの受信」(P.144)

■Bluetooth 通信システム構成

パソコンのUSBポートにBluetooth通信アダプタを接続すると、本製品との間でファイルの送受信ができます。この通信には、別売の転送ユーティリティBluePorter-V (WLF-003) が必要になります。

また、Bluetooth通信機能を持つ携帯プリンタにデータを送信して印刷する、などの利用方法もあります。



Bluetooth通信には、次の設定が必要です。

| 項目 | 説明 | 参照ページ |
|---------------|--|--|
| 端末 ID | 識別用の ID を設定します。 BluePorter-V を使ってファイルを送受信する時に設定します。 | 「4-8 端末 ID : 端末識別用 ID を設定」(P. 161) |
| Bluetooth の登録 | Bluetooth の通信に必要な接続先の登録やセキュリティなどの設定をします。 | 「4-9-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」(P. 169) |

■赤外線通信 (IrDA) システム構成

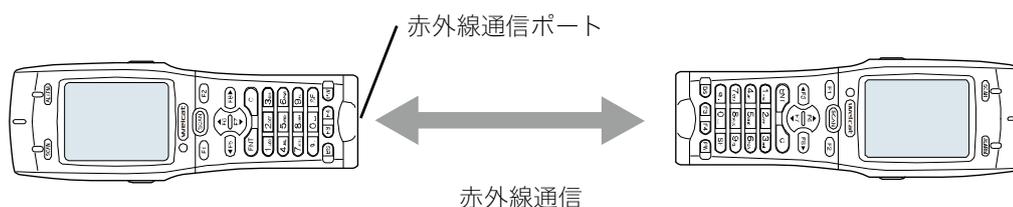
赤外線 (IrDA) を使って、本製品同士の通信、または USB 通信ユニット経由でパソコンと通信することができます。

●本体間通信

本製品同士でファイル転送ができます。一方の赤外線通信ポートと他方の赤外線通信ポートを直線上に並べて通信します。

赤外線通信ポート同士の距離は、0~15cm以内としてください。

詳細は、「●赤外線 (IrDA) 通信を使用する場合」(P. 156) を参照してください。



注意

赤外線通信は、光の影響により通信に支障をきたすことがあります。

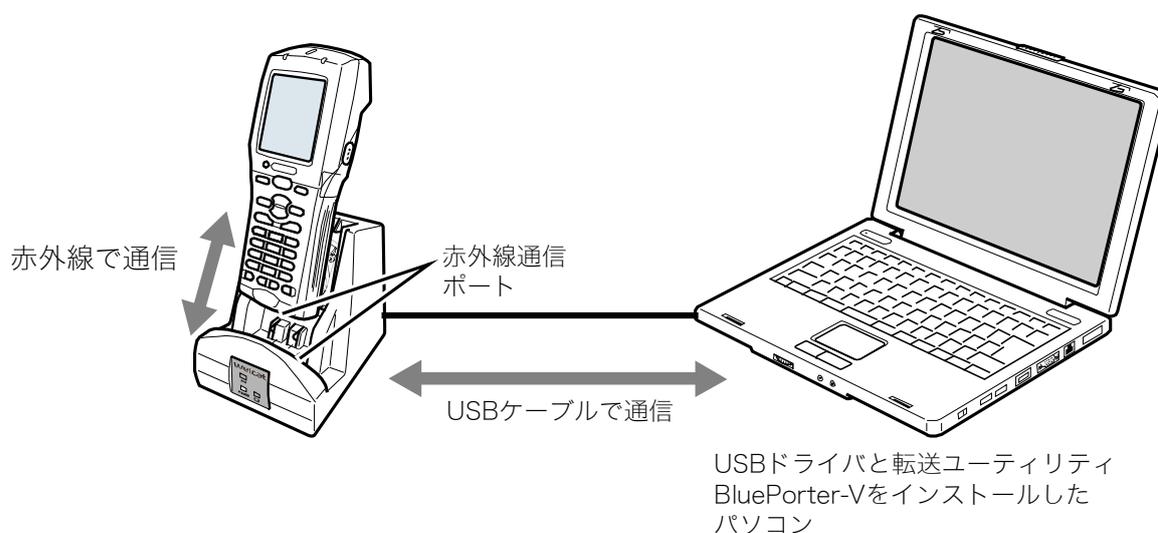
赤外線通信時は赤外線通信ポートに光が入らないようにご注意ください。

●USB 通信ユニットによる通信

USB 通信ユニット (IU-004) または USB 通信/充電ユニット (IU-004C) を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

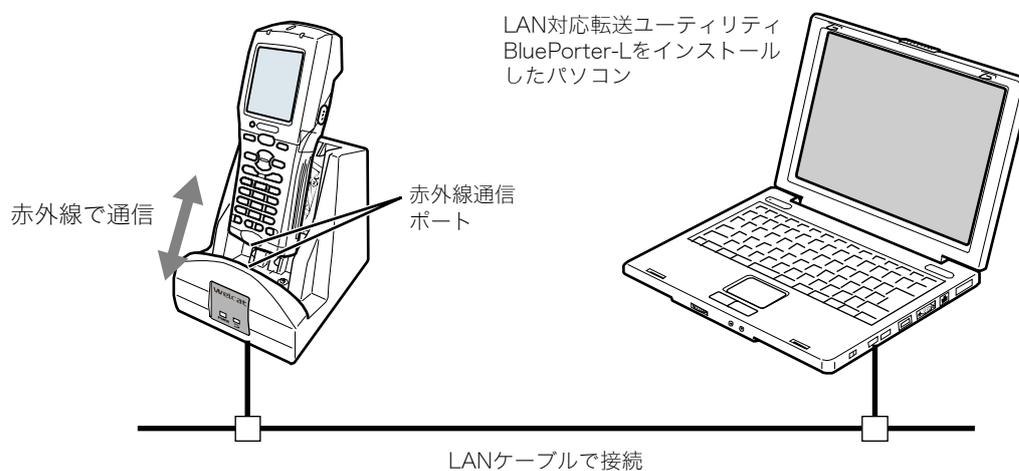
この通信には、別売の IU-004 または IU-004C、および転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。

詳細は、「3-4 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P. 81) を参照してください。



●LAN 通信ユニットによる通信

LAN 通信/充電ユニット (IU-004CL) を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。この通信には、別売の IU-004CL、および LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L が必要です。詳細は、BluePorter-L のヘルプマニュアルを参照してください。



第

1

章

ハードウェア

1-1 製品について

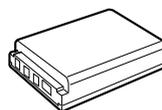
1-1-1 同梱品の確認

本製品には、次の製品が同梱されています。全てが揃っていることをご確認ください。

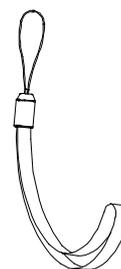
もし不足品、不良品等ありましたら、弊社までご連絡ください。



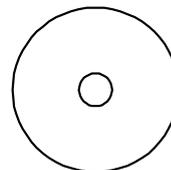
ワイヤレスハンディターミナル
XIT-200-G



バッテリーパック
BP-004



ハンドストラップ



ユーザーズマニュアル
CD-ROM



ユーザーズマニュアル CD (本書) は、1 オーダーにつき 1 枚同梱されています (ご購入台数によらず、1 回のオーダーにつき 1 枚が付属します)。

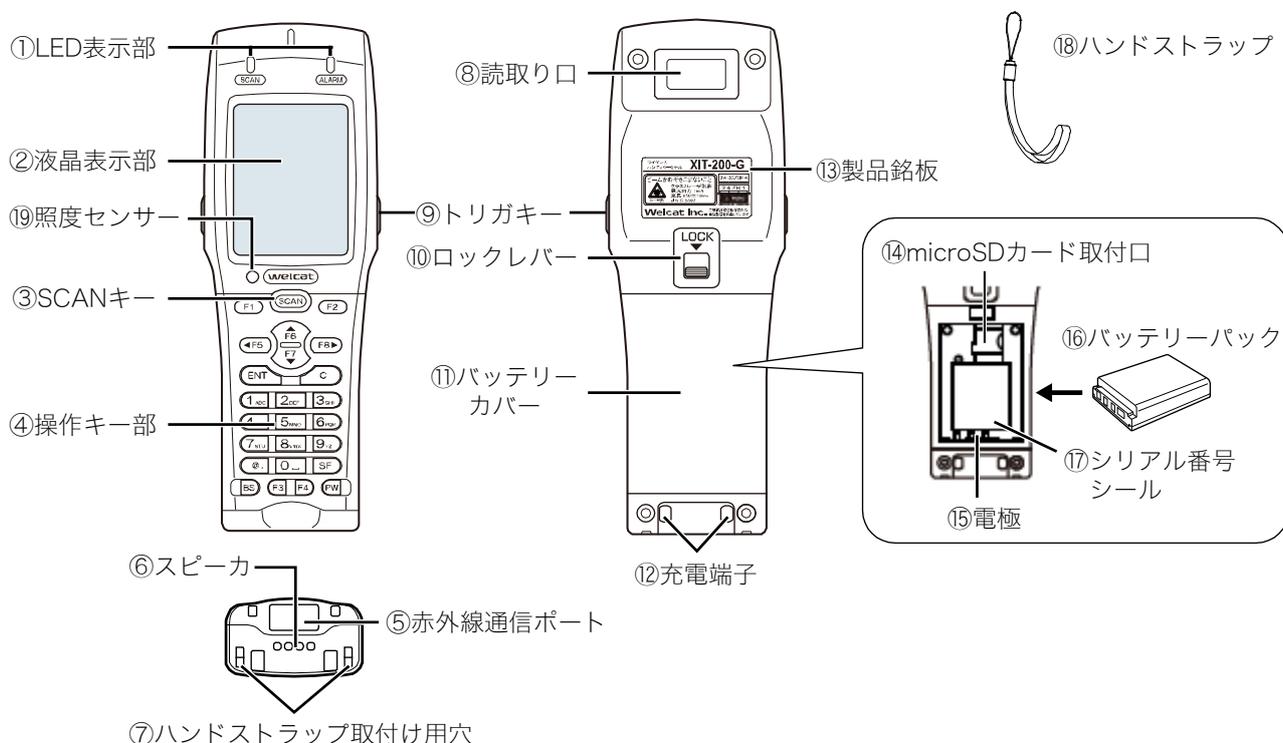
1-1-2 別売品

本製品には、以下の関連製品があります。必要に応じてご用意ください。

| 製品名 | 型番 | 説明 |
|-------------------------------|----------|---|
| バッテリーパック | BP-004 | 充電式のリチウムイオンバッテリーです。 |
| シングルチャージャ | QC-006 | 本体充電およびバッテリーパック充電をする充電器です。本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。 |
| マルチチャージャ | QC-007 | 本体充電およびバッテリーパック充電をする充電器です。本製品4台、バッテリーパック4台を充電可能です。 |
| USB 通信ユニット | IU-004 | 本製品とパソコン間を結ぶ充電機能のない通信ユニットです。本製品とIU-004間は赤外線、IU-004とパソコン間はUSBで通信します。 |
| USB 通信/充電ユニット | IU-004C | 本製品とパソコン間を結ぶ充電機能付き通信ユニットです。本体充電およびバッテリーパック充電をする充電機能がついており、本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。本製品とIU-004C間は赤外線、IU-004Cとパソコン間はUSBで通信します。 |
| LAN 通信/充電ユニット | IU-004CL | 本製品とパソコン間を結ぶ充電機能付き通信ユニットです。本体充電およびバッテリーパック充電をする充電機能がついており、本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。本製品とIU-004CL間は赤外線、IU-004CLとパソコン間はLANで通信します。 |
| 耐衝撃保護カバー | DC-013 | 傷、ほこり、衝撃から本体を保護するためのカバーです。 |
| 携帯ホルダ | CB-001 | 本製品を収納して、腰に装着するホルダです。 |
| 転送ユーティリティ BluePorter-V | WLF-003 | パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティです。USB 通信ユニットによりファイル送受信が可能です。IU-004/004Cを使用する時に必要です。 |
| WebGlider -X2 Editor パッケージ | WGE-002 | パソコンとのデータ通信や、WebGlider-X2 Browser を使って、システム構築をする場合に必要です。 |
| WebGlider 統合サーバ | WGS-001 | XIT-200-G と HTTP 通信するシステムを構築する際に必要です。 WebGlider 統合サーバと通信を行うためには、本製品に WebGlider-X2 Browser をインストールする必要があります。 WebGlider 統合サーバの CD-ROM には、ネットワーク管理ツールが含まれています。ネットワーク管理ツールは、ファイル転送や DHCP 設定を行う際に必要です。 |

| 製品名 | 型番 | 説明 |
|------------------------------|---------|---|
| LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L | WLF-004 | パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティです。LAN 通信/充電ユニットによりファイル送受信が可能です。 IU-004CL を使用する時に必要です。 |

1-1-3 各部の名称と機能

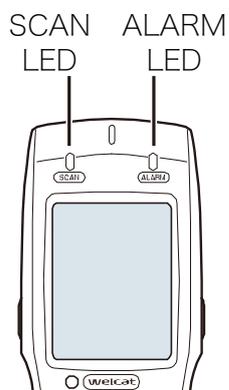


| 番号 | 名称 | 説明 |
|----|---------------|---|
| ① | LED 表示部 | SCAN、ALARM の 2 種類の LED が情報を表示します（次項「 ■LED表示 」参照）。 |
| ② | 液晶表示部 | 文字、画像を表示します。 |
| ③ | SCAN キー | バーコードを読取る時に押します。または、システムメニューを強制的に起動する時に使用します（「1-3-3 使用時に役立つ機能」（P.55）を参照）。 |
| ④ | 操作キー部 | 各キーの名称は「 ■操作キーの名称 」（P.32）、各キーの働きは、「4-1-1 操作キー」（P.91）を参照してください。 |
| ⑤ | 赤外線通信ポート | 赤外線（IrDA）により他のハンディターミナルやUSBまたはLAN 通信/充電ユニットと通信します。 |
| ⑥ | スピーカ | ブザー等の音を鳴らします。 |
| ⑦ | ハンドストラップ取付け用穴 | ハンドストラップを取付けます。 |
| ⑧ | 読取り口 | バーコードの読取り口です。 ※レーザーが照射されるので、のぞき込まないでください。 |
| ⑨ | トリガキー | バーコードを読取る時に押します。 |

| 番号 | 名称 | 説明 |
|----|--------------------|--|
| ⑩ | ロックレバー | バッテリーカバーのロック/解除をします。矢印の方向にレバーを移動するとロックされます。 |
| ⑪ | バッテリーカバー | バッテリーパック収納部のカバーです。バッテリーカバーが閉まっていることを検知する機能があるため、正しく取付けないと本製品は起動しません。 |
| ⑫ | 充電端子 | シングルチャージャ、マルチチャージャの充電用端子です。 |
| ⑬ | 製品銘板 | 製品名や製造元、レーザ警告等が記載されます。 |
| ⑭ | microSD カード 取付口 | microSD カードを取付けます。カバーを持上げ、その奥にカードを差込みます。 |
| ⑮ | 電極 | バッテリーパック用の電極です。 |
| ⑯ | バッテリーパック | 同梱のリチウムイオン二次電池です。 |
| ⑰ | シリアル番号シール | シリアル番号が記載されています。 問合せ等の際は、このシリアル番号をご連絡ください。 |
| ⑱ | ハンドストラップ | ⑦ハンドストラップ取付け用穴に装着して使用します。 |
| ⑲ | 照度センサー | 液晶表示部や操作キー部のバックライトの明るさを最適に調整するために、周囲の明るさをモニターします。 |

■LED表示

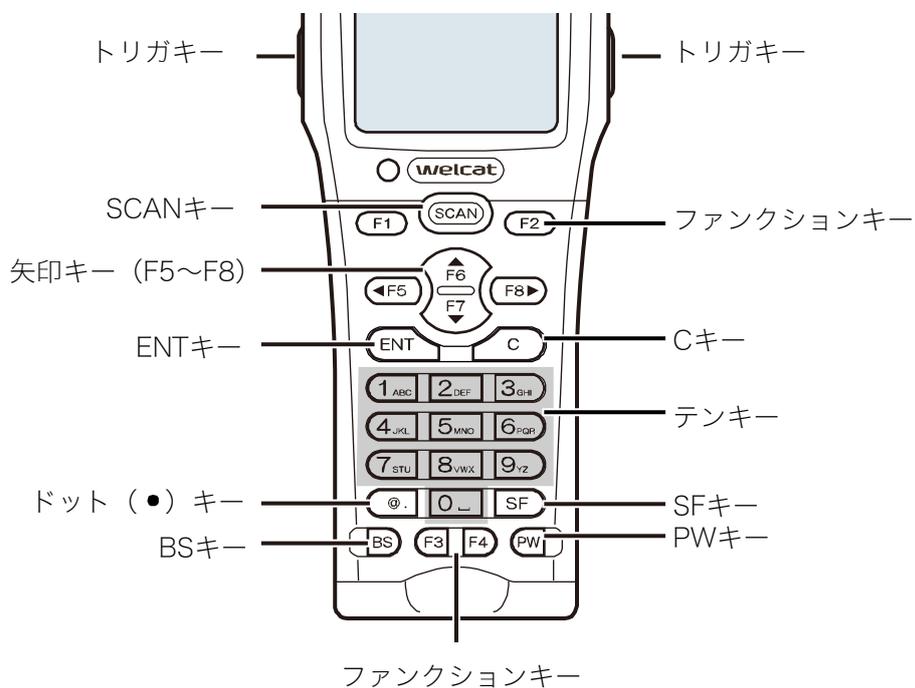
各LED表示は、次のような動作状態を表します。



| 名称 | 説明 |
|-----------|---|
| SCAN LED | <p>アプリケーションソフトから、任意のタイミングで点灯/点滅/消灯の制御ができます。</p> <p>充電器に設置中は、充電中および充電完了状態を通知します。</p> <p>【充電時】</p> <p>緑色：充電完了</p> <p>赤色：充電中</p> <p>消灯：充電エラー</p> |
| ALARM LED | <p>WLAN 使用中に通信状態を表示します。</p> <p>橙点灯：WLAN オープン中で圏外</p> <p>橙点滅：WLAN オープン中で、AP との間で認証処理中</p> <p>消灯：WLAN オープン中で圏内</p> <p>WLAN クローズ中は、アプリケーションソフトから任意のタイミングで点灯/点滅/消灯の制御ができます。</p> |

■操作キーの名称

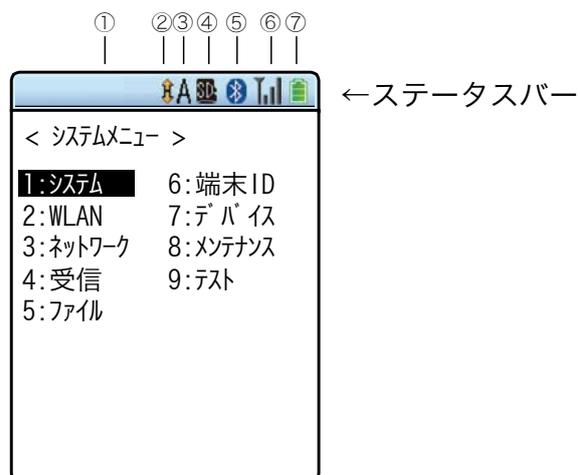
操作キーの名称は、次のようになっています。



システムメニュー操作時のキーの働きは、「4-1-1 操作キー」(P.91)を参照してください。

■液晶画面ステータスバー

液晶画面上部には、本製品の状態を示すステータスバーがあります。



ステータスバーには、次の情報が表示されます。

| No. | 名称 | アイコン | 説明 |
|-----|----------|------|--|
| ① | 文字列表示領域 | — | アプリケーションソフトによって、文字列を表示させる場合に使用します。 |
| ② | スクロール | | アプリケーションソフトによっては、上下にスクロール可能な時に表示されます。 |
| ③ | 入力文字種別 | | テンキーからの入力文字種別を表示します。英字入力時は「A」、数字入力時は「1」が表示されます。 |
| ④ | SD カード | | microSD カード装着時に表示されます。 |
| ⑤ | 通信状態 | | Bluetooth が他の機器に接続済みであり、送受信中できる状態の時に表示されます。 |
| | | | Bluetooth がオープン中で他の機器に接続していない時に表示されます。 |
| | | | 赤外線通信 (IrDA) が送受信できる状態の時に表示されます。 |
| ⑥ | WLAN 状態 | | WLAN 通信中の電波強度を表示します。電波強度が弱くなるに従って本数が減っていきます。 |
| ⑦ | バッテリーパック | | バッテリーパック残量を表示します。バッテリーパック残量が少なくなるに従って本数が減っていきます (「1-2-5 バッテリーパックの残量表示とアラーム」(P.48) 参照)。 |
| | | | 充電中は充電状態がアイコンで表示されます。 |

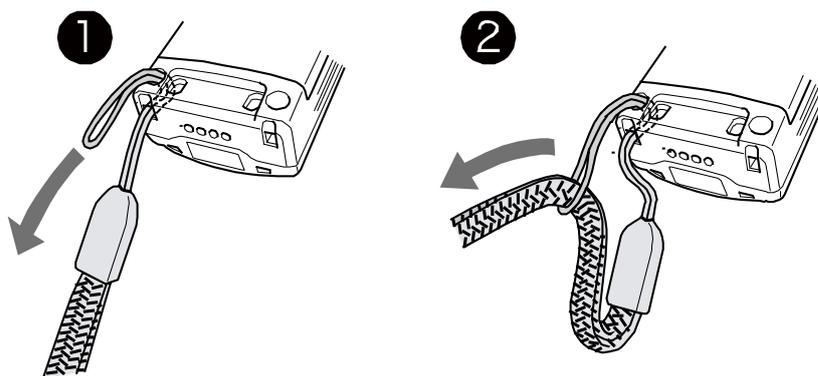
1-2 本体の使い方

1-2-1 ハンドストラップの取付け

ハンドストラップの取付け用穴は、背面の下部にあります。

①細いほうのひもを、取付け用穴に通します。

②太いほうのひもを、取付け用穴に通した細いひもに通して固定します。



- ・ハンドストラップを持って本体を振り回さないでください。細いひもの部分が摩耗し、切れる恐れがあります。
- ・ハンドストラップに腕を通した状態で本体が可動機器などに挟まれるなどした場合、手を引き込まれ、思わぬ事故の原因となりますので十分注意してください。
- ・マルチチャージャ（QC-007）で本体を充電する場合、ハンドストラップは上図のように左側に装着し、充電端子に巻き込まないようにしてください。

注意

1-2-2 バッテリーパックの取扱い

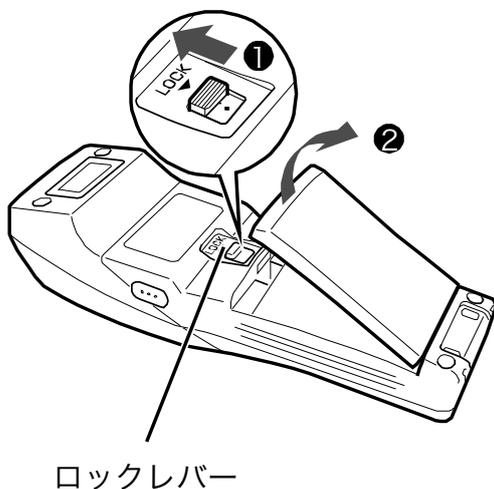
■バッテリーパックの取付け

注意

- ・指定されたバッテリーパック以外は使用しないでください。
- ・初めて使用する時は、必ず充電してからお使いください。

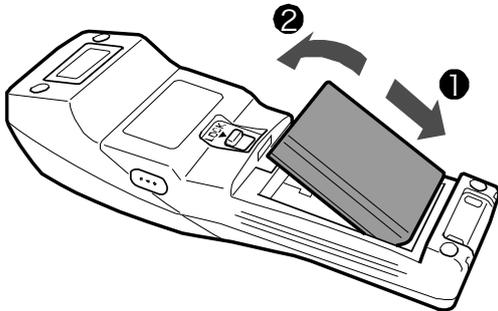
①ロックレバーを矢印の方向（読取り口の方向）に動かし、ロックを解除します。

②バッテリーカバーをロックレバー側から手前に引いて外します。

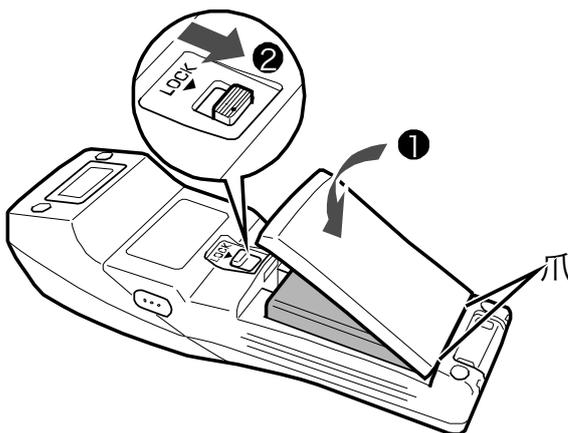


③バッテリーパックのラベル面を上にして、バッテリーパックの端子側を電極側へ押し込みます。

- ④バッテリーパックの端子とバッテリーパック用電極が正しく接触したことを確認し、反対側を押込みます。



- ⑤バッテリーカバーの爪を本体に差込み、反対側を本体に密着するまで押し下げた状態で、ロックレバーがカチッと音がするまで押込みます。ロックレバーは確実に下まで押し下げてください。



- ・ロックレバーが完全に矢印方向（バッテリーパックの方向）に下がり、隙間がないことを確認してください。ロックが不完全な場合、バッテリーパックが外れたり落下したりした時の破損の原因になります。
- ・バッテリーカバーが正常に閉まっていないと、本体は起動できません。
- ・バッテリーカバーには、水の浸入を防ぐためのパッキンが取り付けられています。装着する際は、パッキンが外れていないか、ゴミが付着していないか確認してください。ゴミが付着している場合は、乾いた清潔な布などで拭き取ってください。
- ・電極を触ったり、引っ張ったりしないでください。ゴミの付着や、変形による接触不良の原因になります。ゴミが付着したり、汚れたりした場合は清潔な乾いた布で清掃してください（「1-4 お手入れのしかた」(P.57) 参照）。

注意

■バッテリーパックの取外し

バッテリーパックを本体から取外します。

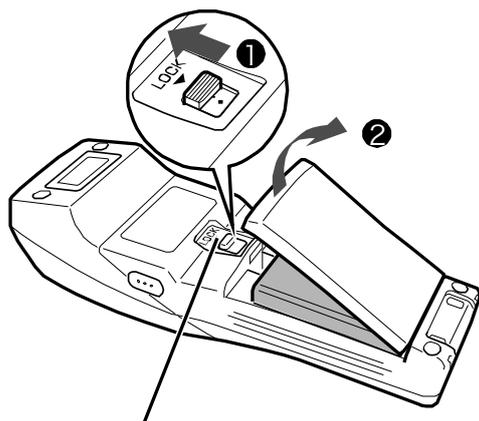
- ・電源が完全に OFF になっていることを確認してから取外してください。
- ・使用中にバッテリーカバーを開けると、警告メッセージが表示されます。バッテリーパックを交換する前に、データを保存してアプリケーションソフトを終了して電源を OFF にしてください。

注意

- ・ファイルの書き込み中（データ交信中、ファイル受信中、バックアップ中等）またはデフラグ中に、バッテリーパックを取外すと、ファイルが壊れる恐れがあります。ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。

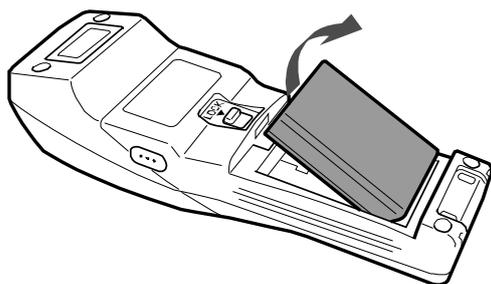
①ロックレバーを矢印の方向（読取り口の方向）に動かし、ロックを解除します。

②バッテリーカバーをロックレバー側から手前に引いて外します。



ロックレバー

③バッテリーパックの後端（読取り口側）を浮かせて取外します。



1-2-3 microSD カードの取扱い

本製品では、microSD カードを取付けて R ドライブとしてデータを保存することができます。

-
- ・動作確認済みの microSD カードをお使いください。

注意

- ・バッテリーカバーを開けると、警告メッセージが表示されます。バッテリーカバーを開ける前に、データを保存してアプリケーションソフトを終了して電源を OFF にしてください。
-

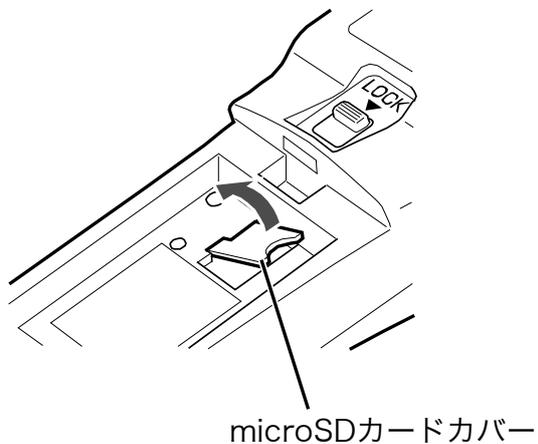
■動作確認済み microSD カード

動作確認済みの microSD カードは、弊社窓口までお問合せください。

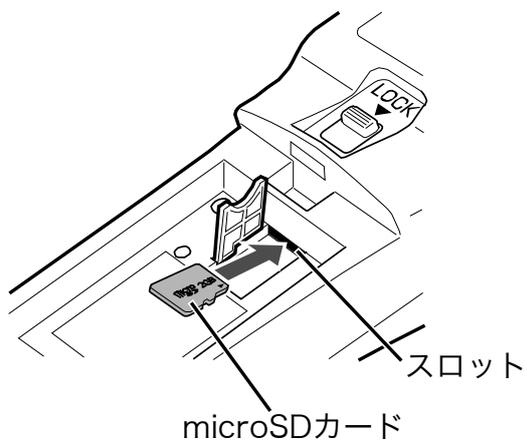
■microSD カードの取付け

①バッテリーパックを取外します（「■バッテリーパックの取外し」(P. 37) 参照）。

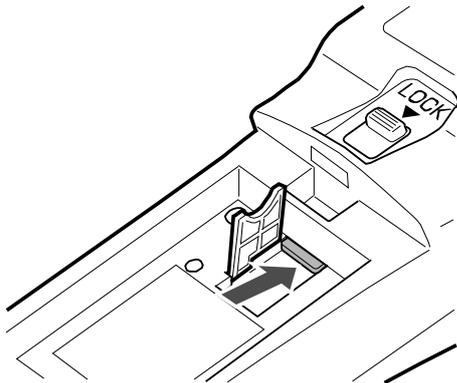
②microSD カードカバーを持上げます。



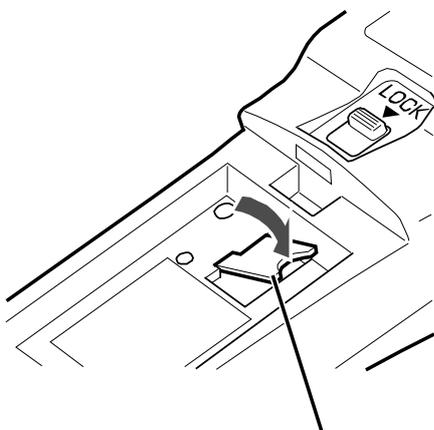
③microSD カードをスロットに差込みます。このとき、microSD カードの電極面を下にして、カードの矢印（▲）をスロット方向に向けます。



④ microSD カードを「カチッ」と音がするまでスロットの奥まで押し込みます。



④ microSD カードカバーを元に戻します。



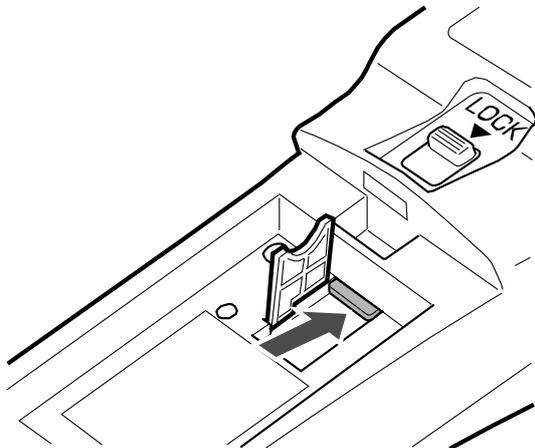
microSDカードカバー

⑤ バッテリーパックを装着してバッテリーカバーを元に戻します（「**■** バッテリーパックの取付け」
(P. [35](#)) 参照)。

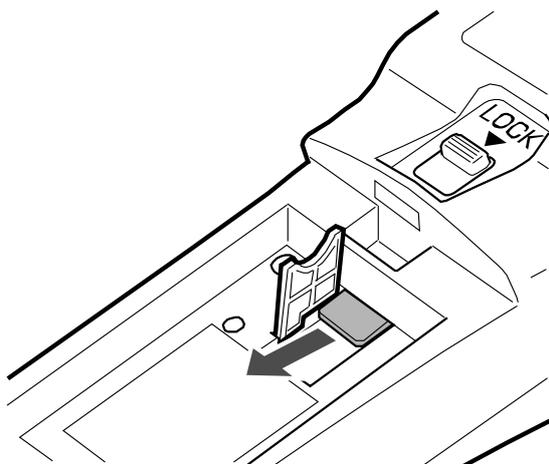
■microSD カードの取外し

①バッテリーパックを取外します（「■バッテリーパックの取外し」(P. 37) 参照）。

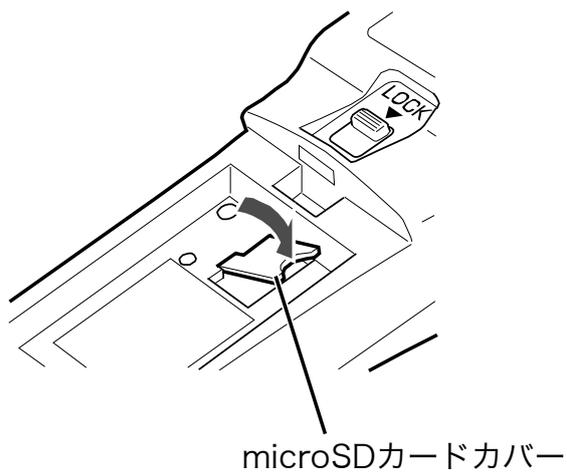
②microSD カードカバーを持上げて、microSD カードを「カチッ」と音がするまで奥に押し込みます。



③ロックが外れて microSD カードが少し飛出してくるので、指でカードを引抜きます。



④ microSD カードカバーを元に戻します。



⑤ バッテリーパックを装着してバッテリーカバーを元に戻します（「**■** バッテリーパックの取付け」
(P. [35](#)) 参照)。

1-2-4 バッテリーパックの充電

本製品は専用の充電器（別売）で充電します。充電方法には、本体充電とバッテリーパック充電の2種類があります。

- ・本体充電：本体にバッテリーパックを装着した状態で充電
- ・バッテリーパック充電：バッテリーパック単体で充電

充電器には、次の種類があります。

- ・1台を充電：シングルチャージャ（QC-006）、USB通信/充電ユニット（IU-004C）、LAN通信/充電ユニット（IU-004CL）
- ・複数台（最大4台）を充電：マルチチャージャ（QC-007）

- ・チャージャで充電中にキー操作をすると、充電端子の接触不良を起こす恐れがあります。充電停止やファイル転送停止の原因になりますので、充電中はキー操作をしないでください。
- ・充電は0°C～40°Cの環境で行ってください。この温度範囲外の場合、充電エラーになり充電が停止します。
充電エラーになっても、適正温度になると充電が再開されますが、故障の原因となりますので、0°C～40°Cの範囲外では使用しないでください。
- ・本体やバッテリーパックの端子が正しく接触されていない場合や充電が規定時間を過ぎても完了しない場合、またはバッテリーパックの電圧が異常な場合は、充電エラーになることがあります。
その場合は、直ちに充電を中止してください。本体の充電電極とバッテリーパックの端子を清掃しても充電エラーになる場合は、弊社にお問合せください。
- ・充電しても本体が起動しない、極端に短い時間でローバッテリーが発生するなどの場合は、以下のことが考えられます。

注意

□バッテリーパックの劣化

バッテリーパックは、充放電を繰り返すうちに劣化し、充電可能な容量が低下します。使用時間が短くなり運用に耐えられなくなった場合は、新しいバッテリーパックに交換してください。

□充電端子電極の接触不良

バッテリーパックまたは本製品の充電端子の電極がゴミなどで汚れている場合は、接触不良により正常に充電できない場合があります。その場合は、清潔な布で拭いて清掃してください。

●充電状態

本体充電の充電状態は、本体の LED に表示されます。バッテリーパック充電の充電状態は、充電器の LED に表示されます。

| 充電状態 | 本体のLED | 充電器のLED |
|-------|--------|---------|
| 充電中 | 赤色点灯 | 赤色点灯 |
| 充電完了 | 緑色点灯 | 緑色点灯 |
| 充電エラー | 消灯 | 消灯 |

●本体充電時間

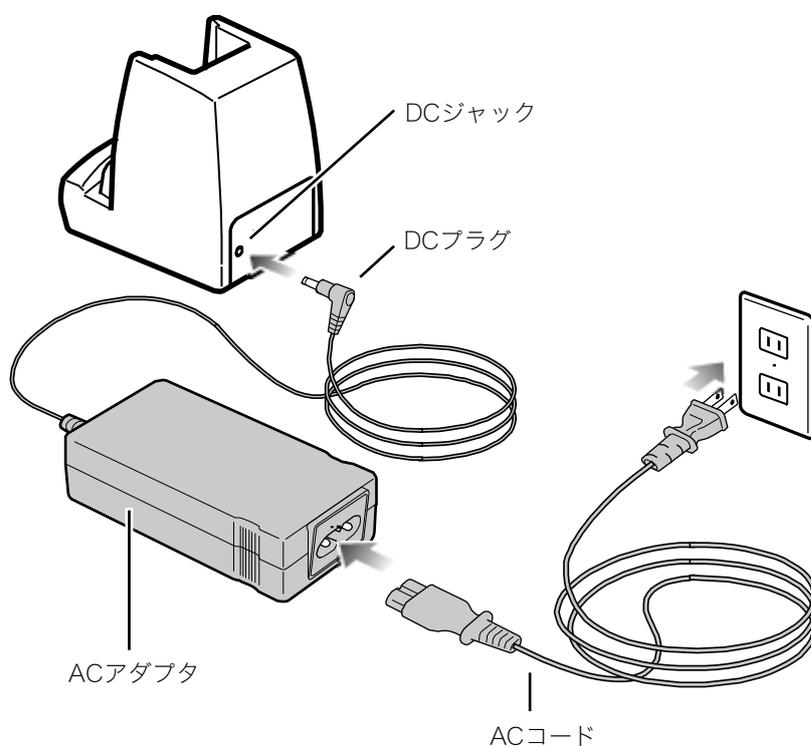
約2.5時間

■1 台を充電する

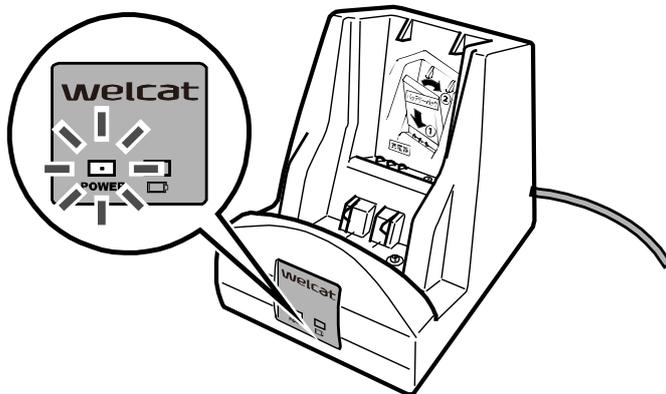
次の手順で充電します。

①充電器の背面にある DC ジャックへ AC アダプタの DC プラグを差込みます。

AC アダプタに AC コードを接続し、AC コードのプラグをコンセントに接続します。



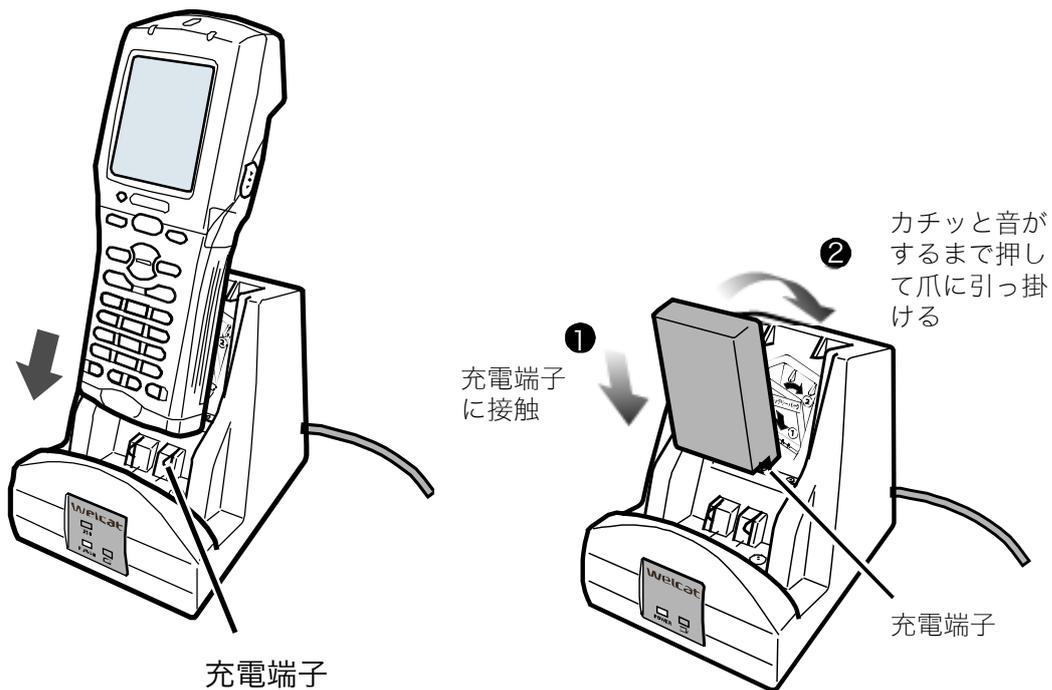
接続後、充電器の前面にある POWER LED が赤く点灯していることを確認してください。



②本製品またはバッテリーパックを充電器に装着します。

参考

本製品とバッテリーパックを同時にセットした場合は、本製品の充電が優先されます。本製品の充電が完了すると、バッテリーパックの充電が開始されます。



図は、シングルチャージャ (QC-006) の例です。

バッテリーパックは、端子側を下にして製品型番 (BP-004) などが印刷されている面を手前にして装着します。バッテリーパックの端子部を、充電器の充電端子に接触させ、カチッと音がするまで押して爪に引っ掛けます。

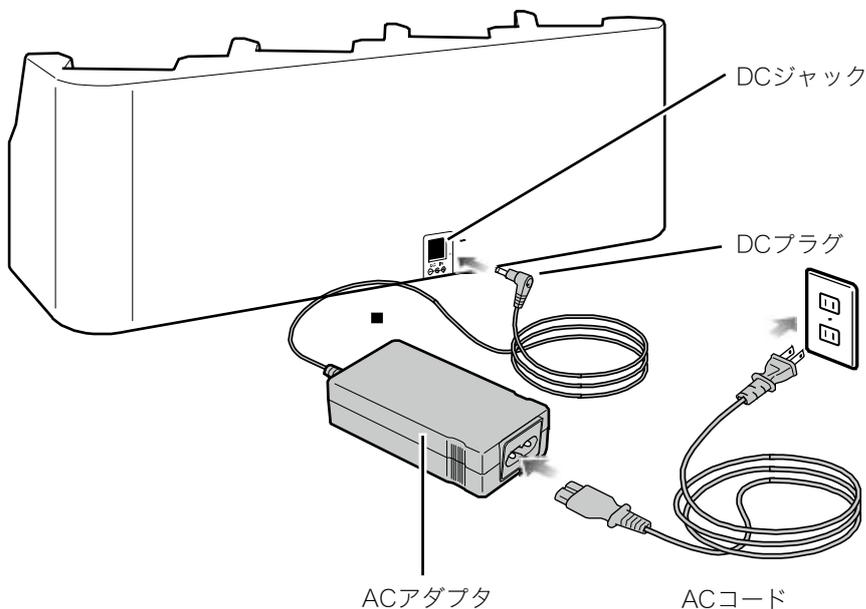
本製品とバッテリーパックを同時に充電する場合は、バッテリーパックを先に装着します。

■複数台を充電する

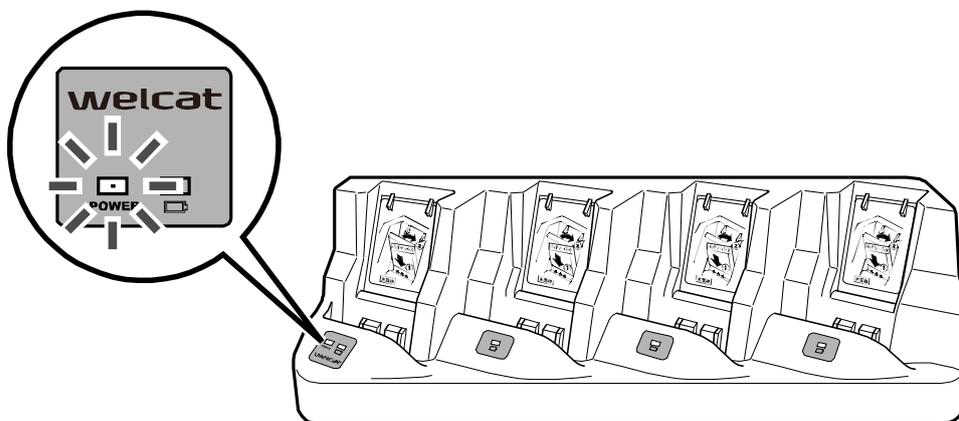
マルチチャージャ (OC-007) を使って、複数台を充電します。

①充電器の背面にある DC ジャックへ AC アダプタの DC プラグを差込みます。

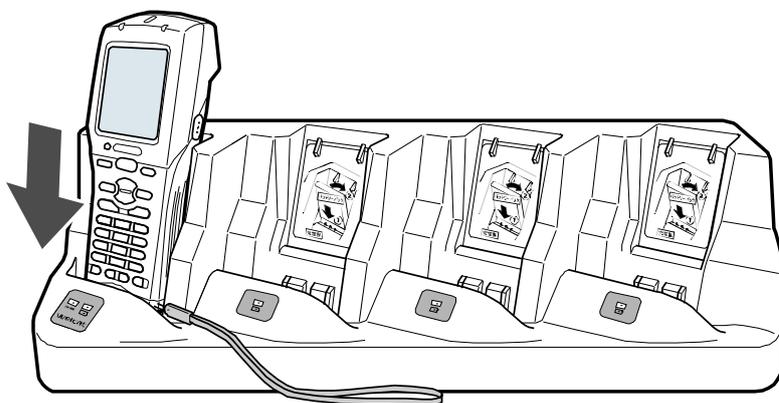
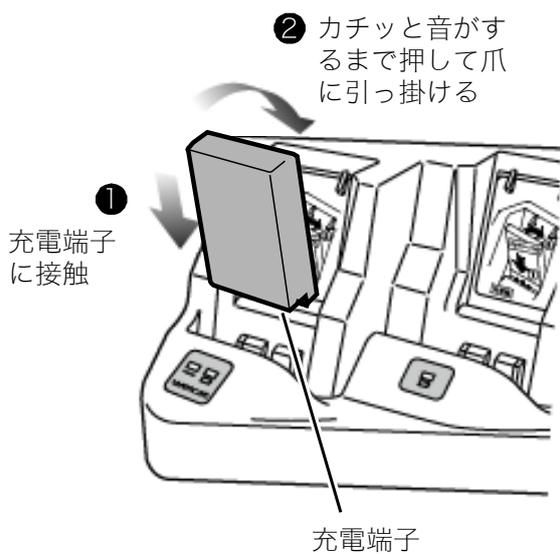
AC アダプタに AC コードを接続し、AC コードのプラグをコンセントに接続します。



接続後、充電器の前面にある POWER LED が赤く点灯していることを確認してください。



②本製品またはバッテリーパックを充電器に装着します。



バッテリーパックは、端子側を下にして製品型番（BP-004）などが印刷されている面を手前にして装着します。バッテリーパックの端子部を、充電器の充電端子に接触させ、カチッと音がするまで押して爪に引っ掛けます。

本製品とバッテリーパックを同時に充電する場合は、バッテリーパックを先に装着します。

注意

マルチチャージャ（QC-007）で本体を充電する場合、ハンドストラップは本体正面右側に装着し、充電端子部分に巻き込まないようにしてください。

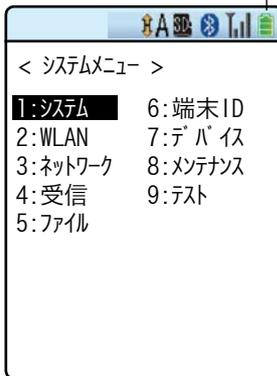
1-2-5 バッテリーパックの残量表示とアラーム

■バッテリーパックの残量表示

バッテリーパックの残量が少なくなると操作が制限され、その後、電源が OFF になります。

バッテリーパック残量は、液晶画面上部のステータスバーに表示されます。

バッテリーパック残量アイコン



バッテリー残量が十分残っています



バッテリー残量が少なくなってきています。



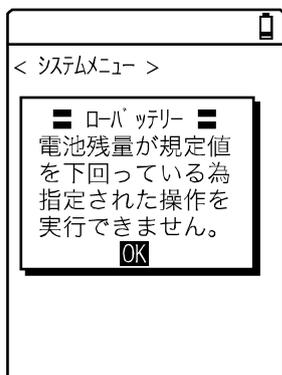
バッテリー残量が残り僅かです。充電をしてください。



バッテリー切れです。すぐに充電するか、充電されたバッテリーパックに交換してください。

●バッテリーパック残量が少ない場合の制限

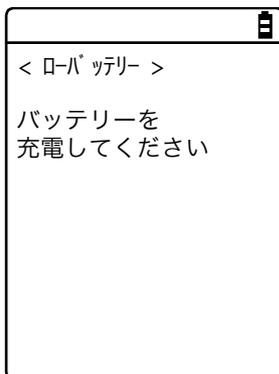
システムメニューの一部の操作は、バッテリーパック残量アイコンが 1 本または 0 本以下（操作により異なる）になると、次の画面が表示され操作が制限されます。



本マニュアルでは、制限対象の操作には  が表示されています。

●ローバッテリー表示

バッテリーパック残量アイコンが空（0本）になった後、さらに電圧が低下すると、次の画面が表示されて、約5秒後に強制的に電源がOFFになります。



■バックアップ用電池の充電

本製品には、システム情報をバックアップするためのバックアップ用電池が内蔵されています。次の方法で、バックアップ用電池を充電します。

- ①満充電されたバッテリーパックを用意します。
- ②本製品にバッテリーパックを装着すると、バックアップ用電池への充電が開始されます。
バックアップ用電池が完全に消耗していた場合、充電には最低24時間かかります。その間、バッテリーパックを取外さないでください。

1-2-6 メモリのバックアップ

本製品は、ファイル保存領域としてFドライブ（不揮発性）、Sドライブ（揮発性）の2つのドライブを持っています。パソコンからダウンロードしたアプリケーションデータはFドライブに保存されますので、バッテリーパックが消耗してもデータは消失しません（「2-1-1 データについて」－「■ドライブの構成」(P. 59) 参照）。

バックアップは、バッテリーパックとバックアップ用電池で行われます。

■メモリのバックアップ

●バッテリーパックによるメモリバックアップ

| | |
|----------|--|
| バックアップ期間 | <p>満充電のバッテリーパックを装着した場合のデータ保存期間は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sドライブのデータとレジューム情報：約19日 |
| 使用上の注意 | <p>動作中にバッテリーパックを取外した場合や、システムメニューのメモリバックアップ機能が無効になっている場合は、Sドライブのデータとレジューム情報が消失します。一時保存する場合は、必ずメモリバックアップ機能を有効にし、【PW】キーを押して電源をOFFにしてからバッテリーパックを取外してください。レジューム機能については「■レジューム機能：電源OFF時の状態を保持」(P.105)を参照してください。</p> <p>本製品を使用しない時にバッテリーパックを外す（バックアップ用電池によるメモリバックアップを活用する）ような運用を毎日繰返すと、約半年でバックアップ期間が極端に短くなります。この場合、バックアップ用電池の交換（有償）が必要となりますので、交換時以外は常にバッテリーパックを装着しておくことをお奨めします。</p> |

●バックアップ用電池によるメモリバックアップ

| | |
|----------|---|
| 用途 | 本製品内蔵の時計データを保持します。また、バッテリーパック交換時等、ある一定期間内のみ S ドライブデータを保存します。 レジューム機能を有効にしている場合は、レジューム情報を保存します。 |
| バックアップ期間 | 通常終了 ^{※1} 後にバッテリーパックを取外した場合のデータ保存期間は以下の通りです。 ・ S ドライブのデータとレジューム情報（レジューム機能有効時）：15 時間以上 ・ 内蔵時計データ：約 6 ヶ月 長期保管の設定 ^{※2} による終了をした場合のデータ保存期間は以下の通りです。 ・ 内蔵時計データ：約 1 年（バッテリーパックの有無を問わず） 上記は実力値であり、保証値ではありません。 |
| 使用上の注意 | 本製品の長期保管については「1-2-7 長期保管」(P.52) を参照してください。 バックアップ用電池の消耗により消失したデータは復元できません。一時保存以外のデータは F ドライブに保存するようにしてください。 |

※1 通常終了：【PW】キー押下後にバッテリーパックを取外す終了方法

※2 長期保管の設定による終了：システムメニューから長期保管を選択する終了方法

■バックアップ用電池の充電

本製品には、メモリと内蔵時計をバックアップするためのバックアップ用電池が内蔵されています。次の方法で、バックアップ用電池を充電します。

- ①満充電されたバッテリーパックを用意します。
- ②本製品にバッテリーパックを装着すると、バックアップ用電池への充電が開始されます。

バックアップ用電池が完全に消耗していた場合、充電には最低 24 時間かかります。その間、バッテリーパックを取外さないでください。

1-2-7 長期保管

■本製品の長期保管

本製品を長期間（6ヶ月以上）使用しない場合、システムメニューで長期保管の設定をすることをお奨めします。

長期保管を設定するとすぐに電源が切れます。

長期保管を設定すると S ドライブのデータとレジューム情報は消失しますが、内蔵時計のデータは保持し続けますので、バックアップ電池の消耗を抑えることができます。

長期保管の設定方法については「4-10-5 長期保管：長期間使用しない時の設定」(P. [198](#)) を参照してください。

■バッテリーパックの長期保管

長期間バッテリーパックを使用しない場合は、本製品を上記の長期保管設定にしてからバッテリーパックを取外し、50%程度の充電状態（バッテリーパック残量アイコンのバー表示が2本程度）で涼しい場所に保管することをお奨めします。満充電や高温環境下での保管はバッテリーパックの寿命を縮めることとなります。

1-3 基本的な使い方

1-3-1 電源の ON/OFF

注意

バッテリーカバーが完全に閉じられていないと電源は ON にできません。
使用中にバッテリーカバーを開けると、警告メッセージが表示されます。

【PW】 キーを 1 秒以上押しと電源が ON します。

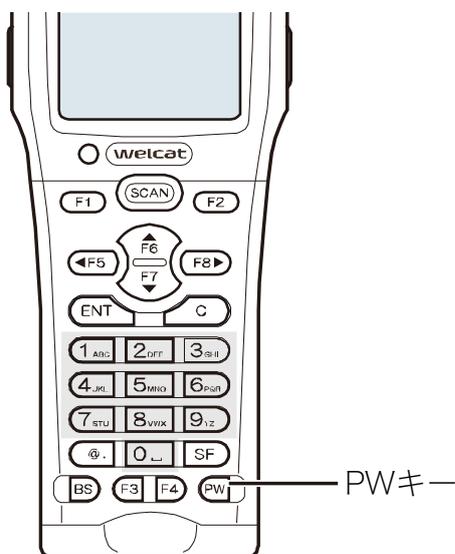
※バッテリーパックを取付けて最初に電源 ON する時は、【PW】 キーを 2 秒以上押ししてください。

アプリケーションソフトの自動実行が設定されている場合は、設定されているアプリケーションソフトがスタートします（「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」(P. 102) 参照）。

再度、【PW】 キーを押すと電源が OFF します。

参考

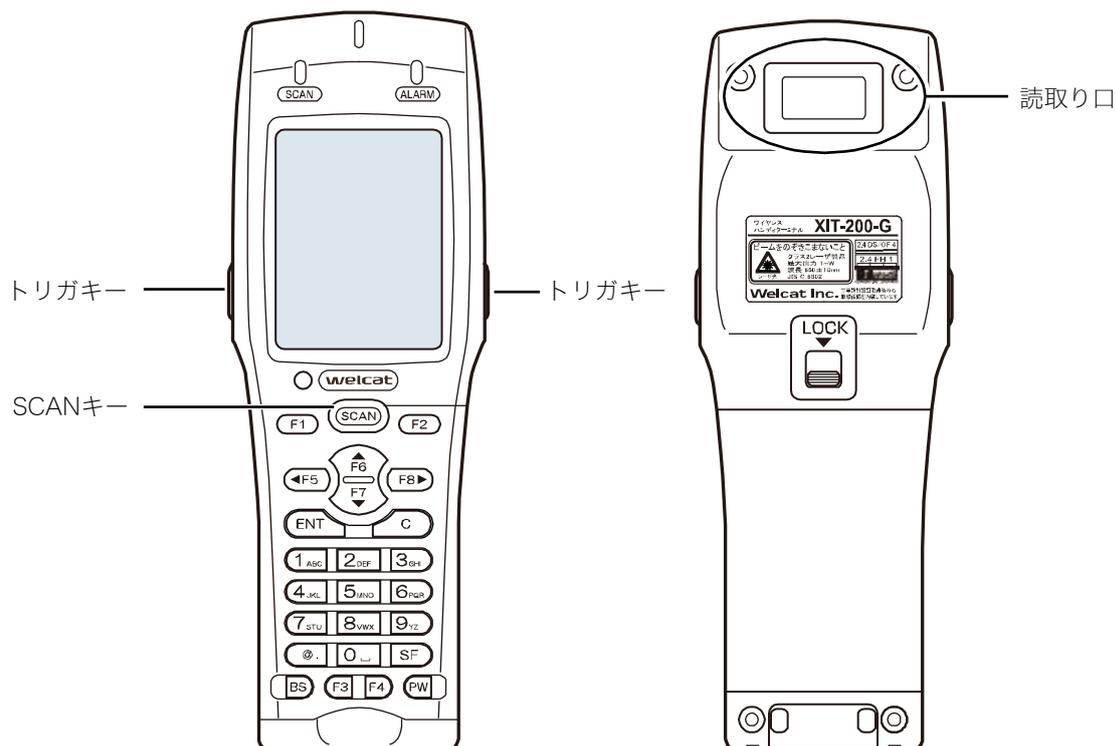
- ・システムメニューを起動する場合は、読取りキーを押しながら【PW】 キーを 1 秒以上押しします。
- ・アプリケーションソフトの自動実行が設定されている場合は、設定されているアプリケーションソフトがスタートします（「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」(P.102) 参照）。



1-3-2 バーコードの読取りかた

■読取りかた

バーコードを読取る時は、背面の読取り口をバーコードに向け、【SCAN】キーまたは左右にあるトリガキーを押します。



注意

読取り口からはレーザー光が照射されます。のぞき込んだり、レーザーを目に当てたりしないでください。

1-3-3 使用時に役立つ機能

■システムメニューの強制起動

電源 OFF 状態の時、【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを押して本製品を起動すると、アプリケーションソフトの「自動実行」が設定されている場合であっても強制的にシステムメニューが起動します。

■自動調光設定

本製品には照度センサーが内蔵されており、周囲の明るさを感知して液晶画面バックライトの調光やキーバックライト点灯を自動的に制御します。

システムメニューで [7:デバイス] - [4:画面] - [2:自動調光] を選択して設定します。

ただし、アプリケーションソフトで、キー入力後一定時間のみバックライトを明るくするように設定されている場合は、設定された明るさで一定時間点灯した後、暗くなります。

■ブザー音量の調整

ブザーの音量、キークリック音などを調整することができます。

システムメニューで [7:デバイス] - [5:音/バイブ] を選択して設定します。



詳しい設定方法は、「4-9-5 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定」(P.178)を参照してください。

■レジューム機能（電源 OFF 時の状態保持）

レジューム機能を有効にすると、電源を OFF にした時の状態が保存され、次回起動時にその続きから作業を継続することができます。

システムメニューで [1:システム] - [3:電源管理] - [1:レジューム] を選択すると、電源 ON 時の動作を選択することができます。



詳しい設定方法は、「4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定」(P.[105](#)) を参照してください。



・動作中にバッテリーパックを外すと、次回起動時は、レジューム機能の有効、無効に関係なく初期画面が立ち上がります。

・バックアップ用電池が消耗した場合、レジューム機能の有効、無効に関係なく最初から初期画面が立ち上がります。バックアップ用電池の充電については「1-2-6 メモリのバックアップ」(P.[51](#)) を参照してください。

■オートウェイクアップ（設定した時間に電源 ON）

オートウェイクアップ機能を設定すると、あらかじめ設定したスケジュールに従って、本製品を自動的に起動することができます。

オートウェイクアップ機能の設定は、システムメニューで [1:システム] - [3:電源管理] - [2:オートウェイクアップ] を選択します。



詳しい設定方法は、「4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定」 - 「オートウェイクアップ：決められた時間に起動」(P.[107](#)) を参照してください。

■オートパワーオフ（自動的に電源 OFF）

一定時間操作されなかった場合、自動的に電源を OFF にします。

システムメニューで [1:システム] - [3:電源管理] - [3:オートパワーオフ] を選択すると、電源 OFF までの時間を設定することができます。



詳しい設定方法は、「■オートパワーオフ：自動的に電源 OFF」(P.[109](#)) を参照してください。

1-4 お手入れのしかた

- ・ 読取り口

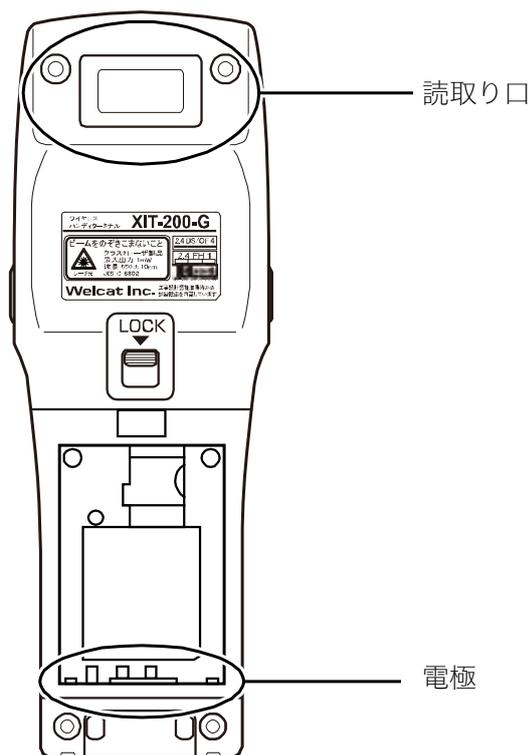
読取り口のフィルタが汚れていると、バーコードを正しく読取れない場合があります。

- ・ 電極

バッテリーパックの使用時間が短くなる、起動しにくくなる、突然電源が OFF になる等の症状が見られる場合、バッテリーパックの劣化以外に、電極の汚れによる接触不良が原因となることがあります。汚れが原因の場合、バッテリーパックと本体の電極を清掃することで症状が改善します。

- 清掃方法

清潔で乾いた柔らかい布、綿棒等で、読取り口のフィルタや電極の汚れを拭き取ります。汚れた布や指、固い物では決してこすらないでください。強く拭くと傷がつく恐れがありますので注意してください。特に本体側の電極は変形する恐れがありますので、軽く拭くように注意してください。



第2章

ソフトウェア

2-1 ソフトウェアについて

本製品のソフトウェアは、次の2種類で構成されています。

| | |
|-------------|--|
| システムプログラム | <p>本製品の基本動作を制御するプログラムです。</p> <p>パソコンのOS（基本ソフトウェア）に相当するもので、あらかじめ本製品に搭載されています。基本的な動作パラメータの設定や各種確認作業を行う「システムメニュー」はシステムプログラムの一部です。</p> |
| アプリケーションソフト | <p>業務処理に使用するプログラムです。</p> <p>バーコードの読取や、パソコンへのデータ転送などは、主にこのプログラムを使用します。「2-3 アプリケーションソフトの作成」（P63）の開発環境を用いてユーザ様が作成する必要があります。</p> |

2-1-1 データについて

■ドライブの構成

本製品にはデータを格納する領域として、本体のFドライブ/SドライブとmicroSDカードのRドライブがあります。

| ドライブ | データ保持 | 用途 | 最大保存数 |
|-------|---|---|-----------|
| Fドライブ | <p>不揮発性メモリ</p> <p>バックアップ用電池が消耗した後も、ドライブのデータは保持されます。</p> | <p>アプリケーションソフト、データベースマスターファイル、データファイル等、全てのファイルを格納するための領域として使用します。</p> | 128 ファイル |
| Sドライブ | <p>揮発性メモリ</p> <p>動作中に電池またはバッテリーパックが突然外されたり、バックアップ用電池が消耗したりすると、ドライブのデータは消失します。</p> | <p>アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル（テンポラリファイル）を格納するための領域として使用します。</p> | 128 ファイル |
| Rドライブ | <p>microSD カード</p> <p>バックアップ用電池が消耗した後も、ドライブのデータは保持されます。</p> | <p>microSD カードにファイルを格納するための、外部拡張領域として使用します。</p> | カードにより異なる |

注意

- ・ファイルを受信する時は、まずSドライブで受信し、その後Fドライブに移動して格納されます。受信と格納のために、Sドライブ、Fドライブともに十分な空き領域があることを確認してください。
- ・受信時にSドライブに同名のファイルがある場合は、既にあるファイルが消去されます。

■ファイル名について

本製品で使用できるファイル名には、次の制限があります。

| 制限事項 | 詳細 |
|----------|---|
| ファイル名の長さ | 拡張子を含め 31 バイト以内 |
| 使用可能文字 | 次の文字を任意に組合せて使用可能 <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベット (A～Z) ・数字 (0～9) ・一部の記号 (!#%&' () @^_[]`.) ・半角スペース ・SHIFT JIS の全角文字 |
| その他の制限事項 | ファイル名の先頭にスペースと「.」（ピリオド）は使用不可 |

■拡張子について

本製品は、次の拡張子でファイル種別を認識しています。

| 拡張子 | 用途 |
|---------------------------|--------------------|
| OUT | アプリケーションソフト |
| JPG PNG BMP JPEG | 本製品で表示できる画像ファイルです。 |
| WAV SFL | 本製品で再生できる音声ファイルです。 |

■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル

本製品のシステムプログラムやアプリケーションソフトの一部は、テンポラリファイルや設定保存用のファイルを作成します。ファイル数が多すぎる、ドライブに空き容量がない等の理由でこれらのファイルが作成できない時、各プログラムは正常に動作できなくなります。

システムプログラムは、システムメニューの設定値を保存するために F ドライブにレジストリファイルを作成します。4つのファイルが作成されますが、隠しファイルとなっておりシステムメニューには表示されません。



レジストリに関しては「2-2 レジストリ」(P.62)を参照してください。

■R ドライブ (microSD カード) フォルダ構成

microSD カードを挿入して、R ドライブ (microSD カード) にファイルをコピーすると、R ドライブ (microSD カード) にフォルダが自動生成されます。

| フォルダ構成 | | 内容 |
|--------|----------|--|
| WELCAT | CLONE | クローン機能を使い、設定されたパラメータや F ドライブのデータを microSD カードにコピーする時に、データが格納されるフォルダです。 格納されるデータの内容により、以下のサブフォルダが生成されます。 |
| | F | F ドライブのデータ |
| | REGISTRY | 環境設定ファイル格納フォルダ ・システム ・セキュリティ ・ユーザ ・ユニーク |
| | DATA | アプリケーション/システムメニューでアクセス可能なフォルダ XIT-2xx シリーズでは R ドライブとして認識する。 なお、アプリケーション/システムメニューから、サブフォルダへのアクセスはできません。 |

2-2 レジストリ

システムメニューで設定される各種パラメータは「レジストリ」と呼ばれます。

レジストリファイルは隠しファイルのため、システムメニューには表示されません。また、Fドライブに保存されるため、バックアップ電池が消耗しても消えることはありません。

レジストリは以下の5つに分類されています。

| | |
|-------------|--|
| ユーザレジストリ | 一般的な設定値です。システムメニューで設定された項目の大部分はユーザレジストリになります。 |
| セキュリティレジストリ | WEP キーや SSID などセキュリティに関連する設定値です。 |
| ユニークレジストリ | IP アドレスや端末 ID といった、一般的に他の端末とは重複することのない、その端末に固有の設定値です。 |
| システムレジストリ | 本製品が独自に使用する設定値です。システムメニューから設定、参照することはできません。 |
| デバイスレジストリ | バッテリーパック残量や電波レベル等、端末動作中にリアルタイムに変化するパラメータを参照するための項目です。デバイスレジストリに属する設定値はアプリケーションソフトからの参照のみが可能で、システムメニューから設定することはできません。 |

デバイスレジストリを除く 4 種類のレジストリは、それぞれ独立したファイルに保存されます。このため、Fドライブには常に 4 つのファイルが格納されています。レジストリはファイルとして Fドライブに保存されますので、バックアップ電池の容量がなくなっても消えることはありません。

デバイスレジストリは本製品の動作状態により変化するレジストリのため、ファイルには保存されません。

クローン機能（「4-10-3 クローン：複製の作成」(P. [189](#)) 参照）を使用すると、他の端末にレジストリをコピーし、オリジナルの端末と同じ設定の端末を複製することができます。

初期化メニュー（「4-10-2 フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット」(P. [187](#)) 参照）を使用すると、レジストリを消去して工場出荷時の設定に戻すことができます。

2-3 アプリケーションソフトの作成

本製品を使用するためには、周辺ソフトウェアを使ってアプリケーションソフトの作成し、本製品へアプリケーションソフトを転送する必要があります。

次の周辺ソフトウェアが用意されています。必要に応じてご購入ください。

■周辺ソフトウェア

パソコンとのデータ通信や、システムを構築するために、次の別売ソフトウェアが必要です。

| 名称 | 型番 | 備考 |
|--|---------|---|
| WebGlider-X2 Editor パッケージ <正式名称> WebGlider-X2 Editor パッケージ WebGlider-X2 Editor WebGlider-X2 Browser WebGlider-X2 Emulator | WGE-002 | WebGlider-X2 Editor パッケージは、Web ベースのアプリケーションソフト開発ツールです。パッケージに同梱のエディタで、本製品で動かすアプリケーションソフト（HTML ファイル）とサーバサイドで動かすアプリケーションソフト（VBS ファイル）を作成することができます。本製品で HTML ファイルを動作させるために必要な Web ブラウザもパッケージに同梱されています。 詳細は WebGlider-X2 Editor のオンラインヘルプをご覧ください。 |
| WebGlider 統合サーバ | WGS-001 | WebGlider-X2 Browser と通信するための、簡易 Web サーバです。 詳細は WebGlider 統合サーバのオンラインヘルプをご覧ください。 |
| 転送ユーティリティ BluePorter-V | WLF-003 | パソコンとファイルを送受信する転送ユーティリティです。Bluetooth/赤外線通信を利用して、本製品とパソコン間でファイルを送受信します。 |
| LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L | WLF-004 | LAN を経由してパソコンとファイルを送受信する転送ユーティリティです。LAN 通信/充電ユニットを使用して、本製品とパソコン間でファイルを送受信します。 |



各ソフトウェアに関する詳細は、各ソフトウェアのヘルプマニュアルをご覧ください。

第 3 章

通信環境の設定

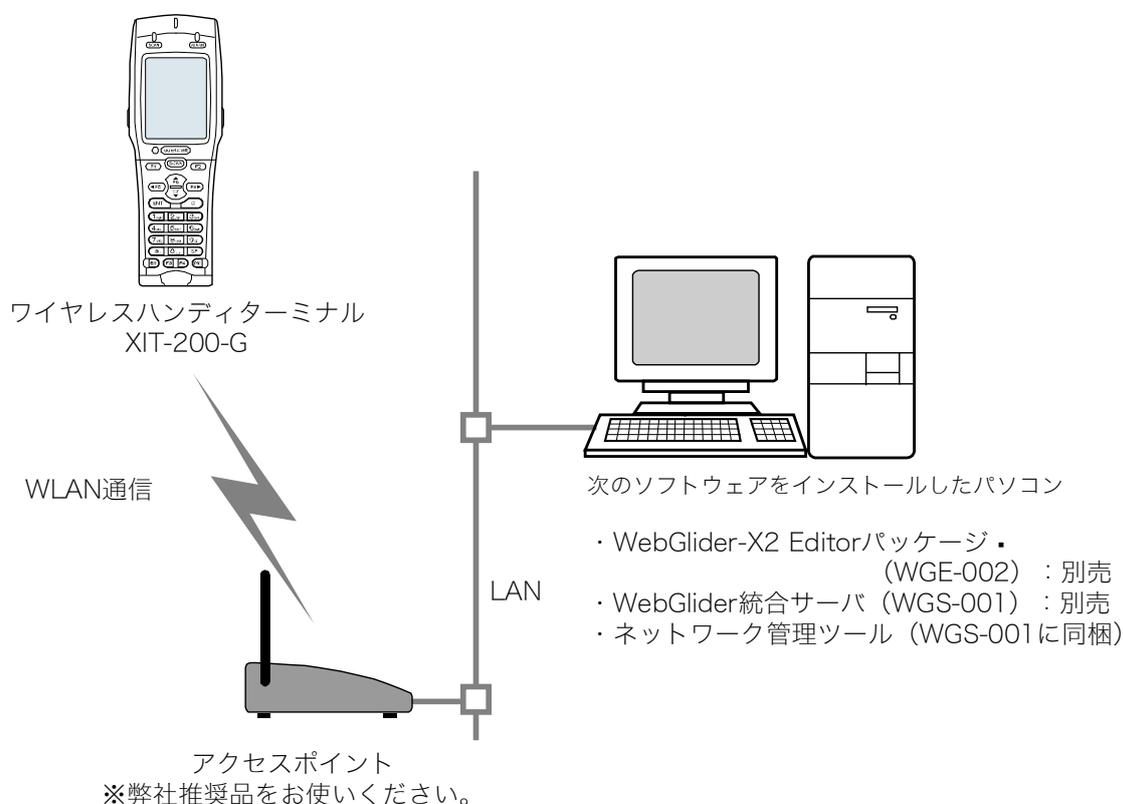
3-1 通信の種類

本製品は、入力したデータをパソコンに送信したり、パソコンからデータを受信したりすることができます。また、開発したアプリケーションソフトを本製品で実行するためには、アプリケーションソフトを本製品に転送する必要があります。

パソコンとの接続には、次の3つの方法があります。必要に応じて通信環境を整えてください。

■WLAN 通信 → 「3-2 WLAN 通信環境の構築」(P.68)

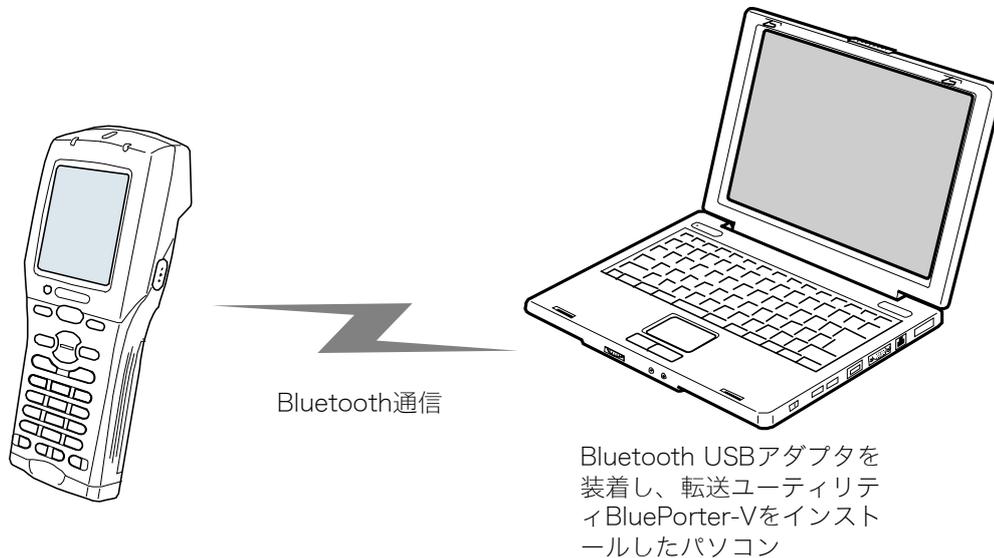
WLAN（無線 LAN）を使って無線アクセスポイントを経由してパソコンと通信します。



■Bluetooth 通信 → 「3-3 Bluetooth 通信環境の構築」(P.77)

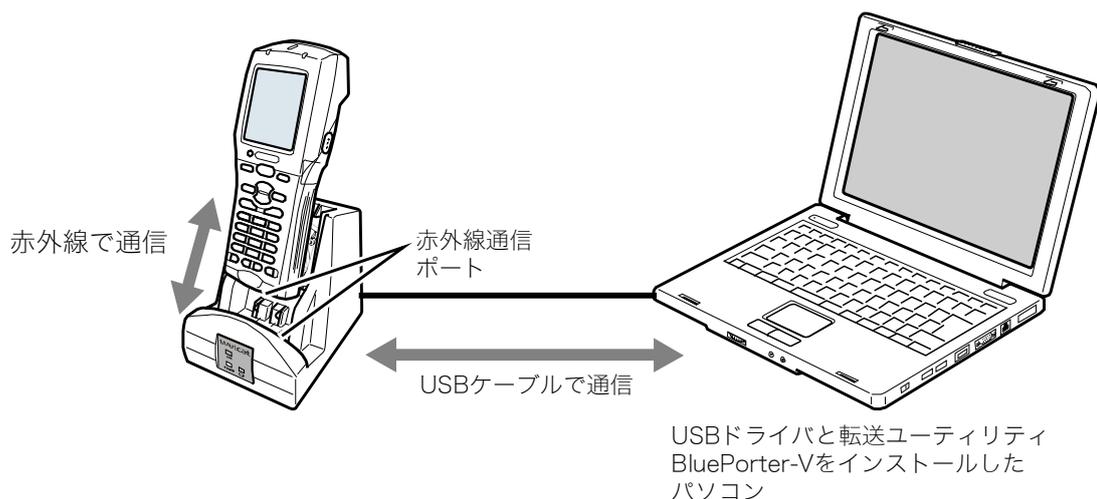
パソコンに接続された Bluetooth USB アダプタを経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

この通信には、別売の転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。

**■赤外線 (IrDA) 通信 → 「3-4 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P.81)****●USB 通信ユニットによる通信**

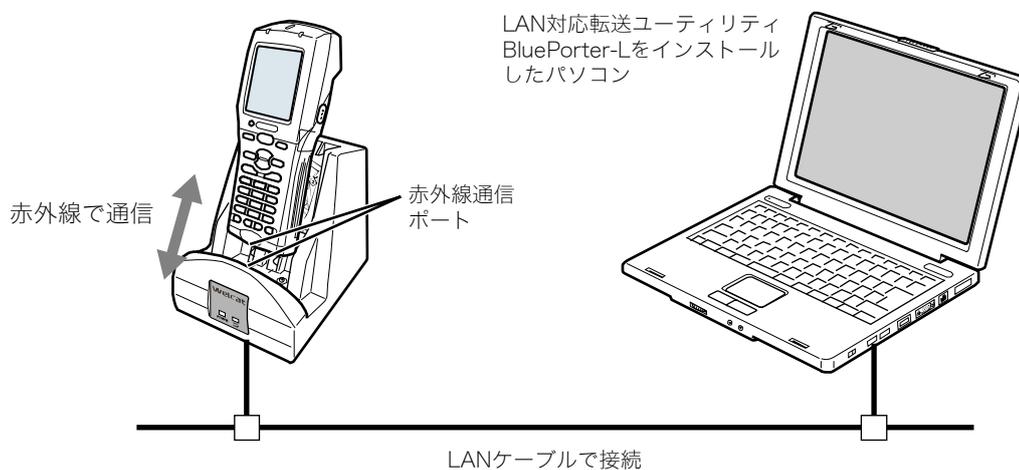
USB 通信ユニット (IU-004) または USB 通信/充電ユニット (IU-004C) を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。

この通信には、別売の IU-004 または IU-004C、および転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。



●LAN 通信ユニットによる通信

LAN 通信/充電ユニット (IU-004CL) を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。この通信には、別売の IU-004CL、および LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L が必要です。詳細は、BluePorter-L のヘルプマニュアルを参照してください。



3-2 WLAN 通信環境の構築

作成したアプリケーションソフトのダウンロードやデータの送受信のために、パソコンとの間で WLAN 通信が実行できる環境を構築します。

3-2-1 パソコン側の準備

WLAN 通信ができるシステムにパソコンを接続します。

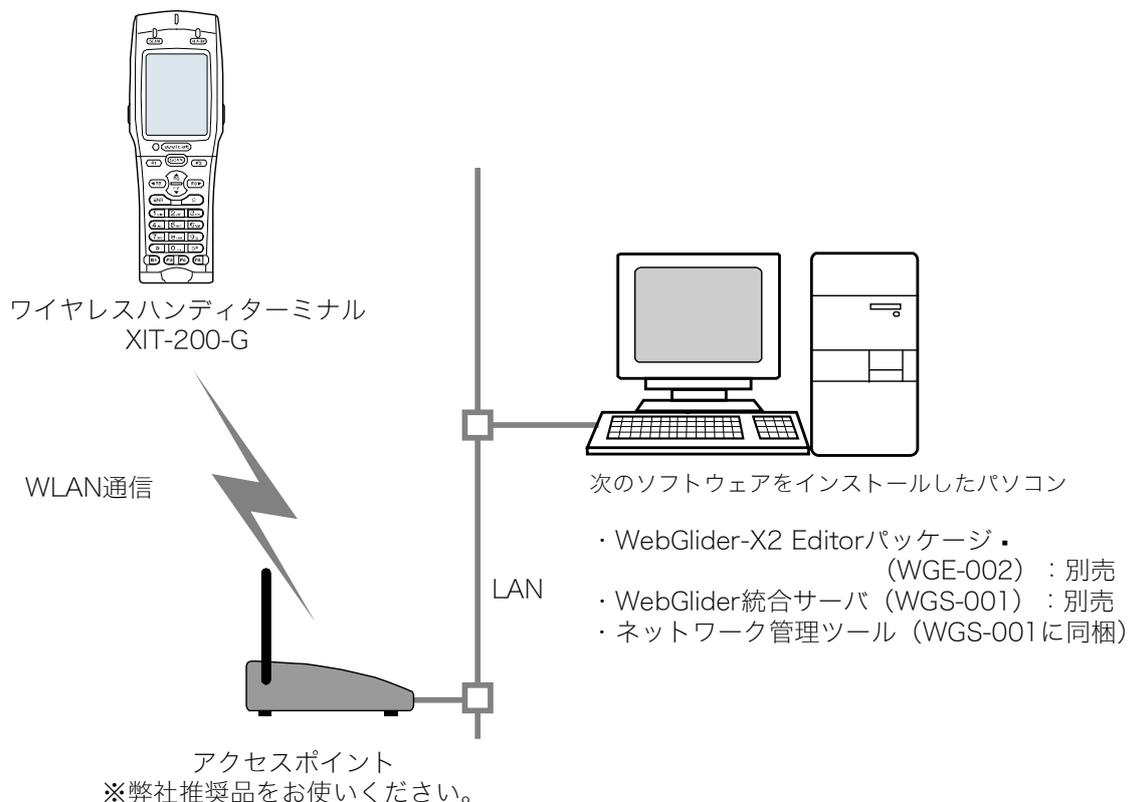
アクセスポイント、LAN 環境、HUB などは、お客様にてご用意ください。

※アクセスポイントは弊社推奨品をお使いください。

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。

インストールと設定の方法は、WebGlider 統合サーバヘルプ、ネットワーク管理ツールマニュアルを参照してください。

- ・ネットワーク管理ツール (WGS-001 に同梱)
- ・WebGlider 統合サーバ



アクセスポイントをイーサネット LAN に接続して、パソコンと通信できるように設定します。

必ずセキュリティ設定を実行してください。セキュリティ設定を有効にするため、アクセスポイントを再起動します (アクセスポイントによっては再起動が必要無い場合もあります)。

3-2-2 本製品側の準備

本製品で WLAN 通信の設定をするには、次の3つの方法があります。

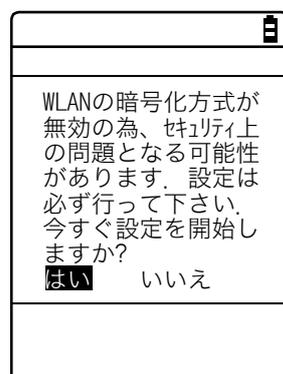
- ・ 設定ウィザード
- ・ システムメニューから各項目を設定
- ・ ネットワーク管理ツールの DHCP 機能を使ってパソコンから設定

WLAN 設定には次の情報が必要です。

| 設定情報 | 内容 | 備考 |
|--------|--|------|
| SSID | 通信相手となるアクセスポイントの SSID（または ESSID）。 | 設定必須 |
| セキュリティ | 通信相手となるアクセスポイントのセキュリティ設定。 | 設定必須 |
| TCP/IP | イーサネット LAN 上のパソコンと TCP/IP 通信ができるアドレス。 | 設定必須 |
| FTP | WLAN 通信でファイル転送をする場合に設定します。「WebGlider 統合サーバ」に同梱されているネットワーク管理ツールの FTP サーバに対応します。 | |
| DNS | DNS を使って名前の解決をする場合に設定します。DNS を使うかどうかはアプリケーションソフトに依存します。 | |
| DHCP | DHCP クライアント機能を使用する場合に設定します。「WebGlider 統合サーバ」に同梱されているネットワーク管理ツールの DHCP サーバに対応しています。 | |
| 端末 ID | 本製品の端末 ID（使用する場合） | |

WLAN 通信の暗号化方式が無効になっている場合、起動時に設定を促すダイアログが表示されます。

注意



[はい] または [いいえ] を選択してください。

[はい] を選択すると、「2:WLAN」へ移動します。[いいえ] を選択するとシステムメニューが表示されます。

■設定ウィザードによる WLAN 通信設定

注意

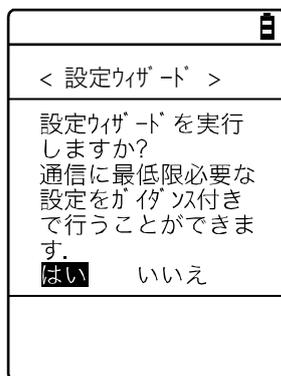
設定ウィザードを始める前に、アクセスポイントを接続したイーサネット LAN 側が使用可能な状態になっていることを確認してください。

本製品を購入後、最初の起動時には、パソコンと WLAN 通信をするために最低限必要な設定をするための設定ウィザードが実行されます。

最初に設定しなかった場合は、システムメニューで [8:メンテナンス] - [6:ウィザード] を選択して設定ウィザードを起動します。

①設定ウィザード開始画面が表示されます。

[はい] を選択してウィザードを実行します。



②画面表示に従って、設定を進めます。

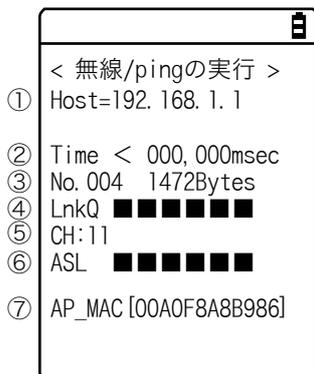
セキュリティ設定は必ず実行してください。

もし、セキュリティがまったく設定されていない状態で本製品を起動すると、「WLAN 通信セキュリティ未設定」注意画面が表示されます。

設定する項目は、次項「設定ウィザードの流れ」を参照してください。

③設定が完了したら、最初にアクセスポイントに対してPingテストを実行します。

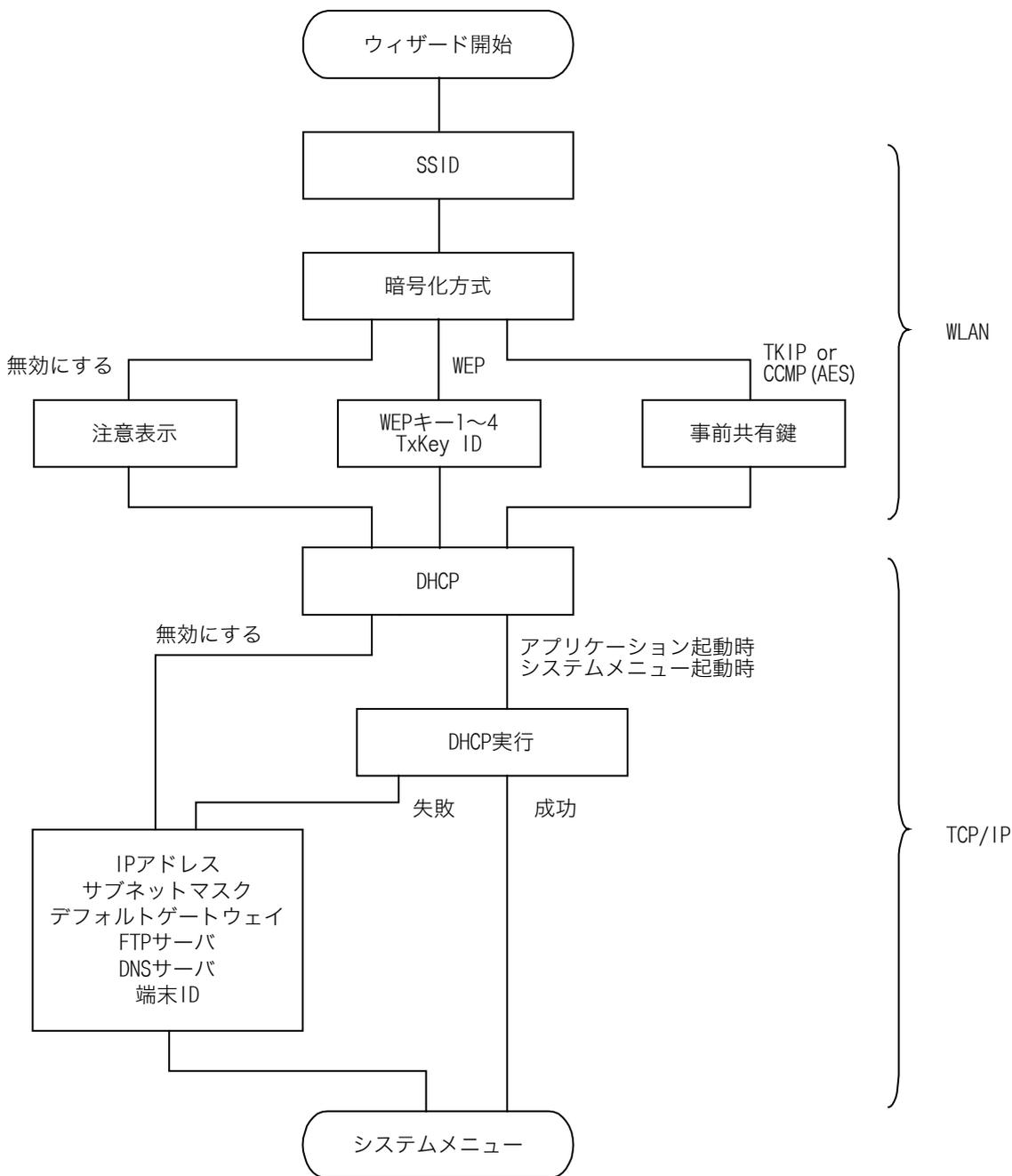
システムメニューで [9:テスト] - [1:WLAN] - [1:条件設定] を選択し、アクセスポイントの IP アドレスを入力した後、[2:無線/pingテスト] を実行します。



④同様に、パソコンの IP アドレスに対して Ping テストを実行します。

●設定ウィザードの流れ

設定ウィザードでは、次の図の流れに沿って各項目を設定します。途中の選択により設定する項目が異なります。



参考

- ・システムメニューからウィザードを実行した時は、DHCP を実行せずにシステムメニューに戻ります。
- ・WLAN 通信の認証方式はウィザードでは設定できません。特に EAP 認証では証明書等のファイル受信が必要であるなど設定が複雑なため、手動で設定してください。手動での設定は「4-4 WLAN : WLAN 通信の設定」(P112.) を参照してください。

■システムメニューでの WLAN 通信設定

システムメニューで各設定項目を個別に設定することができます。

次の手順で設定します。

- ①システムメニューを起動します。
- ②次表を参考に必要な項目を設定します。
- ③Ping テストを実行して通信状態を確認します。

| 項目 | システムメニュー | 参照ページ |
|------------|-------------------------|--|
| SSID の設定 | [2:WLAN] - [1:SSID] | 「4-4-1 SSID : SSID の設定」(P. 112) |
| セキュリティの設定 | [2:WLAN] - [4:セキュリティ] | 「4-4-4 セキュリティ : WLAN 通信のセキュリティ設定」(P. 114) |
| TCP/IP の設定 | [3:ネットワーク] - [1:TCP/IP] | 「4-5-1 TCP IP : TCP/IP の設定」(P. 129) |
| DHCP の設定 | [3:ネットワーク] - [2:DHCP] | 「4-5-2 DHCP : DHCP の設定」(P. 131) |
| FTP の設定 | [3:ネットワーク] - [3:FTP] | 「4-5-3 FTP : FTP の設定」(P. 134) |
| DNS の設定 | [3:ネットワーク] - [4:DNS] | 「4-5-4 DNS : DNS の設定」(P. 138) |
| 端末 ID の設定 | [6:端末 ID] | 「4-8 端末 ID : 端末識別用 ID を設定」(P. 161) |

■DHCP による WLAN 通信設定

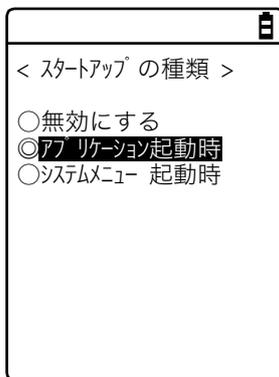
各設定項目は、DHCP クライアント機能を使って、パソコン側で一括して設定することもできます。DHCP クライアント機能を使用する場合は、別途「WebGlider 統合サーバ」に同梱されている「ネットワーク管理ツール」が必要です。

注意

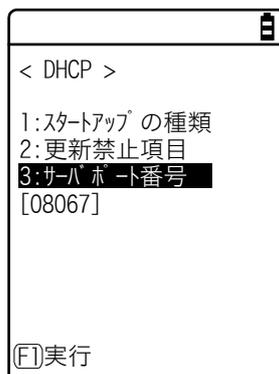
「SSID の設定」、「セキュリティの設定」項目を DHCP クライアント機能を使用して設定するとセキュリティ上の弱点になります。なるべく使用しないでください。

DHCP 機能を有効にする場合は、システムメニューで次の設定をします。

- ① [3:ネットワーク] - [2:DHCP] - [スタートアップの種類]
- ② [アプリケーション起動時] をチェックします。

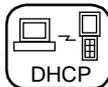


- ③ DHCP サーバのポート番号を設定します。



「4-5-2 DHCP: DHCP の設定」(P.131) および『WebGlider 統合サーバ WGS-001 マニュアル』を参照してください。



本書では、DHCP で設定可能な項目に  マークが付いています。

3-2-3 WLAN 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

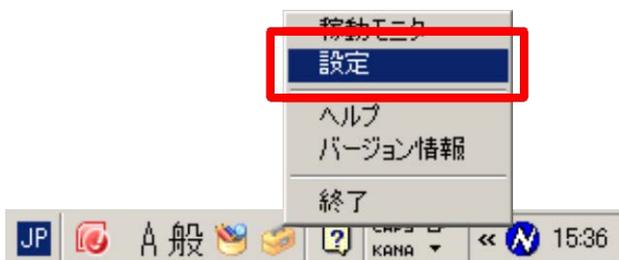
WLAN 通信環境が整ったら、次の手順でFTP サーバからファイルをダウンロードします。

①パソコンでネットワーク管理ツールを起動します。

ネットワーク管理ツールが起動すると、パソコンのタスクトレイにアイコンが表示されます。

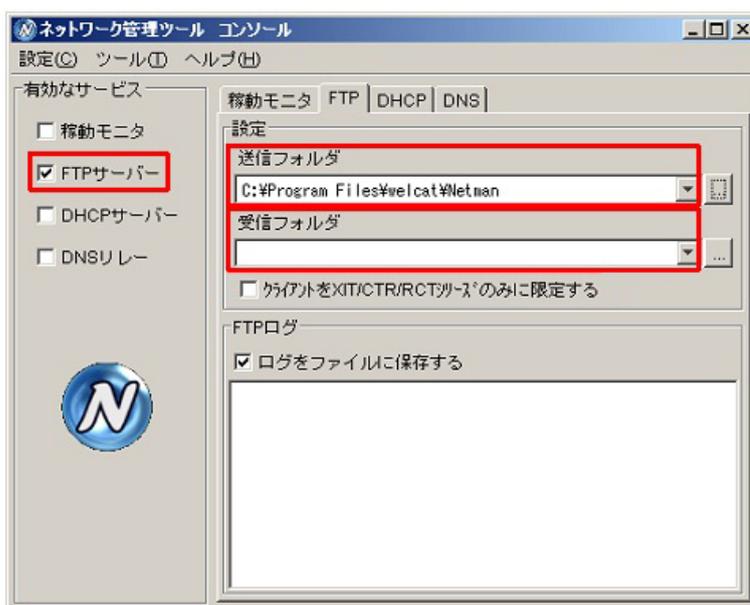


②ネットワーク管理ツールのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから [設定] をクリックします。



③ネットワーク管理ツール設定画面で、[FTP] タブをクリックして、次の設定を行います。

- ・ [FTP サーバー] のチェックボックスをチェックします。
- ・ [送信フォルダ] と [受信フォルダ] には、アプリケーションソフトが存在する FTP サーバ上のフォルダを指定します。



④システムメニューで[4:受信] - [1:WLAN] を選択します。



⑤ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。

【F1】キーを押してダウンロードを開始します。確認メッセージボックスが表示されるので【はい】を選択して【ENT】キーを押します。ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。



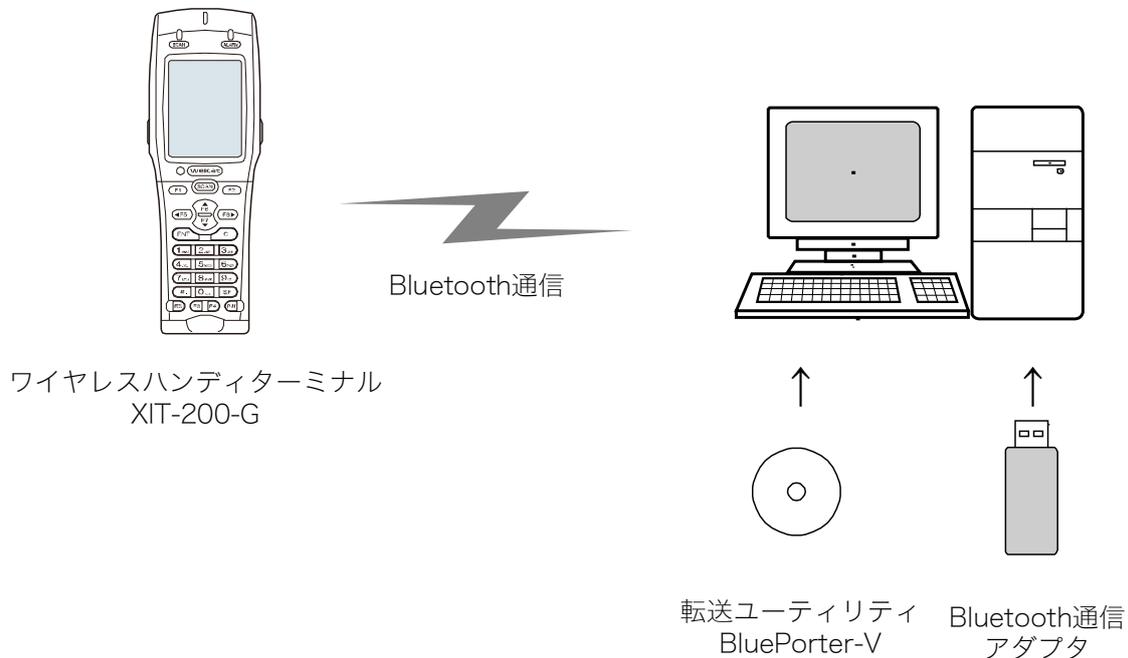
3-3 Bluetooth 通信環境の構築

作成したアプリケーションソフトのダウンロードやデータ送受信のために、パソコンとの間で Bluetooth 通信が実行できる環境を構築します。

3-3-1 パソコン側の準備

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。
インストールと設定の方法は、BluePorter-V の運用ガイドを参照してください。

- ・ 転送ユーティリティ BluePorter-V
- ・ Bluetooth 通信アダプタのドライバソフト



■COM ポートの確認

Bluetooth 通信アダプタが接続されている COM ポートの確認をします。

COM ポートの確認方法は、BluePorter-V の運用ガイドを参照してください。

3-3-2 本製品側の準備

本製品で Bluetooth 通信をするには、あらかじめデバイス登録でパソコン側を検索して登録する必要があります。

デバイス登録の方法は「4-9-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」(P. 169) を参照してください。

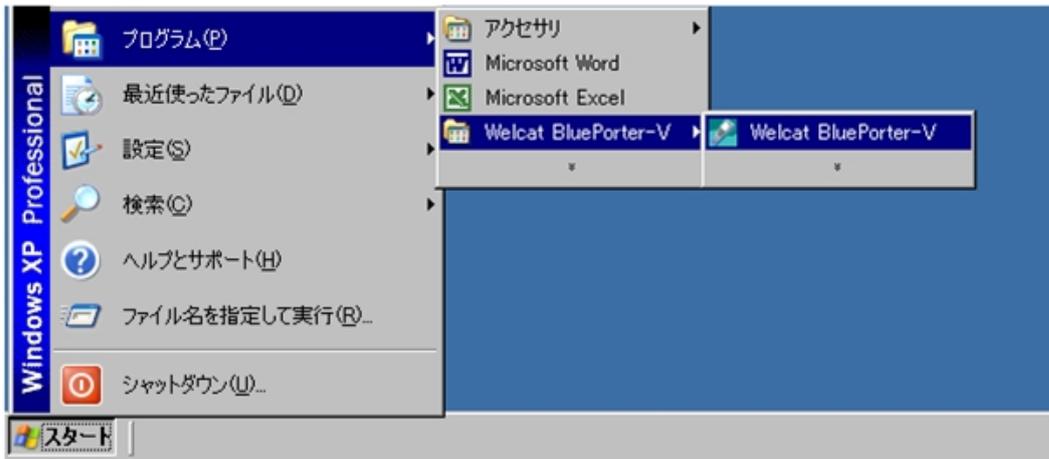
Bluetooth 通信アダプタの BD アドレスの確認方法は、BluePorter-V の運用ガイドを参照してください。

3-3-3 Bluetooth 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

Bluetooth 通信環境が整ったら、次の手順でファイルをダウンロードします。

①パソコンで転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

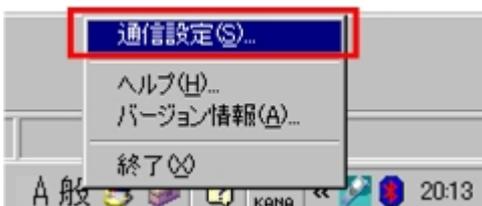
[スタート] - [プログラム] - [Welcat BluePorter-V] - [Welcat BluePorter-V] をクリックします。



②タスクトレイに表示される転送ユーティリティ BluePorter-V のアイコンを右クリックします。



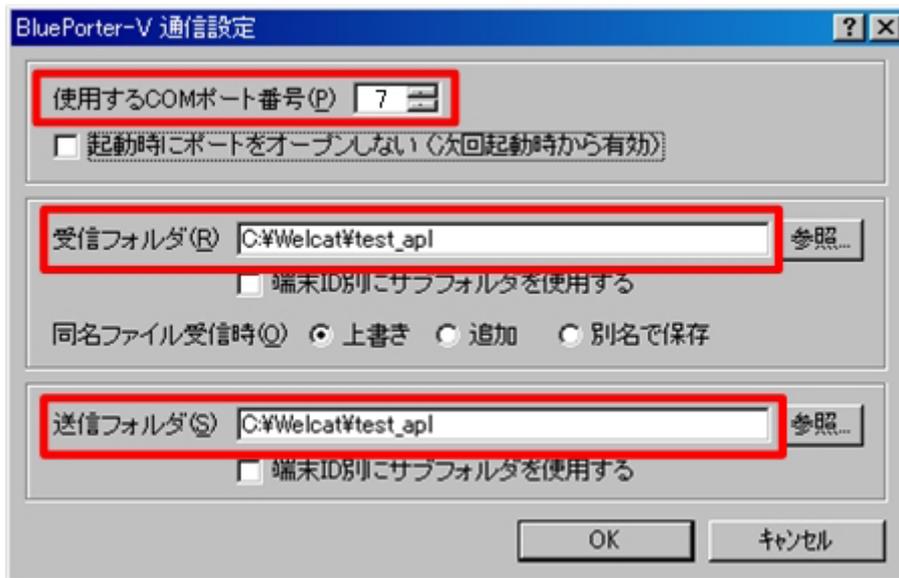
③表示されるメニューから [通信設定] をクリックします。



④COMポート番号を「使用するCOMポート番号」に設定します。

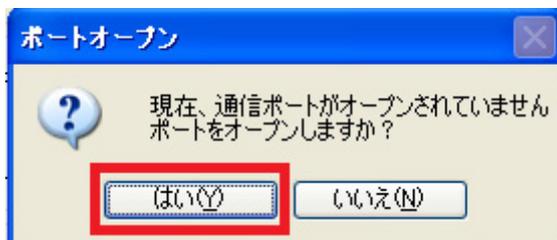
[受信フォルダ] と [送信フォルダ] には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォルダを指定します。

下図は、「C:¥Welcat¥test_apl」フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。

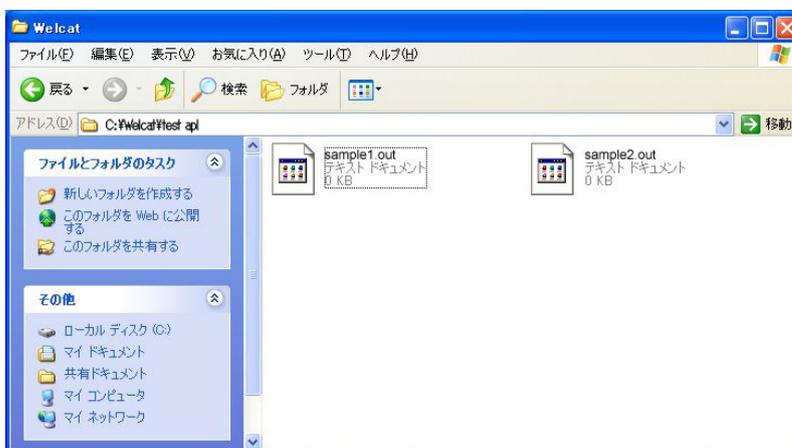


⑤ [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。

次の画面が表示された場合は [はい] をクリックします。



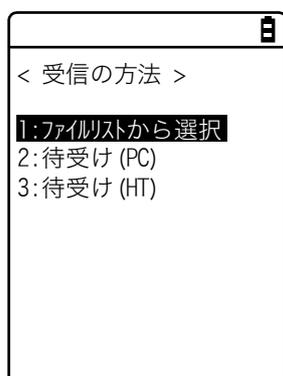
⑥BluePorter-Vの送信フォルダとして設定したフォルダ（上の例では「C:¥Welcat¥test_apl」）に、アプリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。



⑦システムメニューで [4:受信] - [2:Bluetooth] を選択します。



⑧[1:ファイルリストから選択]を選択します。

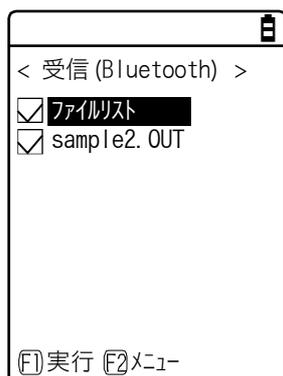


⑨本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。

【F1】キーを押すと確認メッセージボックスが表示されます。カーソルを [はい] に合わせて【ENT】キーを押すと、ダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。



3-4 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築

赤外線通信でファイルを転送する場合は、次の別売機器、ソフトが必要になります。

- USB 通信ユニット (IU-004) または USB 通信/充電ユニット (IU-004C)
- USB ドライバソフト (本製品マニュアル CD-ROM に同梱)
- 転送ユーティリティソフト BluePorter-V



本マニュアルの説明は、Windows XP の例です。他のバージョンでは、画面が異なることがあります。



弊社製コードレススキャナセット WL7-USB をお使いのお客様で、WL7-USB 専用ソフト「WL7-KEY」をお使いの場合、COM ポートがオープンできないエラーが発生することがあります。WL7-KEY が Ver 1.02 以前の場合、COM ポートが占有されてしまうためオープンできません。

この場合は弊社営業までご連絡ください。



LAN 通信ユニットを使用した通信環境については、別売の BluePorter-L のヘルプマニュアルを参照してください。

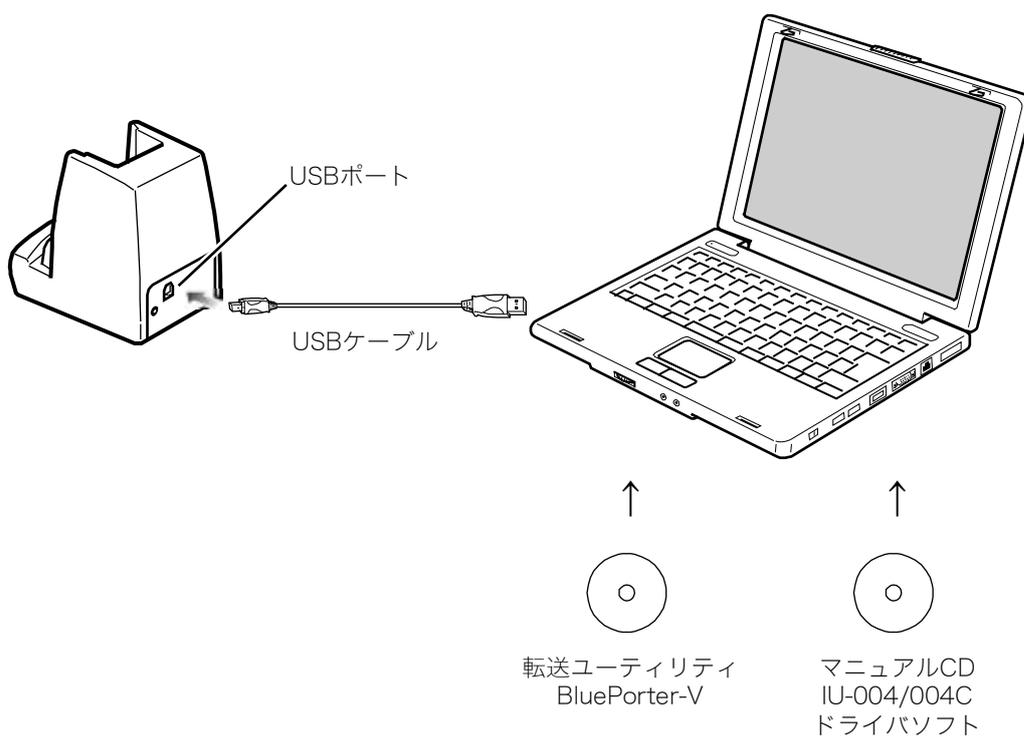
3-4-1 パソコン側の準備

USB 通信ユニットとホストコンピュータを USB ケーブルで接続します。

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。

- ・ 転送ユーティリティソフト BluePorter-V
- ・ IU-004/IU-004C のドライバソフト

インストールと設定の手順は、各製品のユーザーズマニュアルを参照してください。



3-4-2 赤外線通信 (IrDA) 通信によるアプリケーションソフトのダウンロード

赤外線通信 (IrDA) 環境が整ったら、次の手順でファイルをダウンロードします。

■機器の準備

次の機器、ソフトを用意します。

- ・本製品
- ・転送ユーティリティ (BluePorter-V)
- ・USB 通信ユニット (IU-004/IU-004C)

■使用前の準備

①転送ユーティリティ BluePorter-V をパソコンにインストールします。

②USB 通信ユニットの USB ドライバをホストコンピュータにインストールします。

※USB ドライバのインストール方法は、IU-004/004C のユーザーズマニュアルを参照してください。

●設定ウィザードが起動する場合

本製品を購入後、最初の起動時には、パソコンとの Bluetooth 通信に最低限必要な設定をするための設定ウィザードが実行されます。

このウィザードは赤外線通信には、必要ありません。

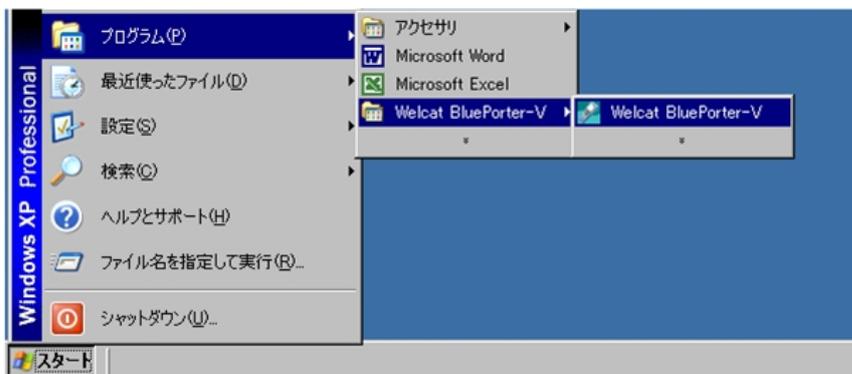
ウィザード画面で [いいえ] を選択すると、システムメニューを起動します。

Bluetooth 通信を行う場合は、「4-10-6 ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動」(P. 199) を参照してウィザードを起動して設定してください。

■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動

転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

[スタート] メニューをクリックして [プログラム] の [Welcat BluePorter-V] をクリックします。



起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。

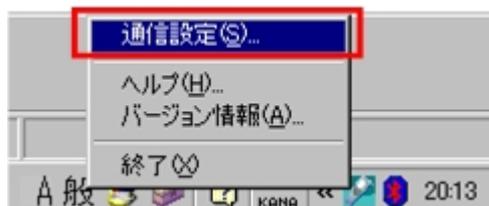
表示された「BluePorter-V」のアイコンを右クリックして、表示されるメニューの [通信設定] をクリックします。



■通信設定

使用する COM ポートと、送信フォルダ・受信フォルダを設定します。

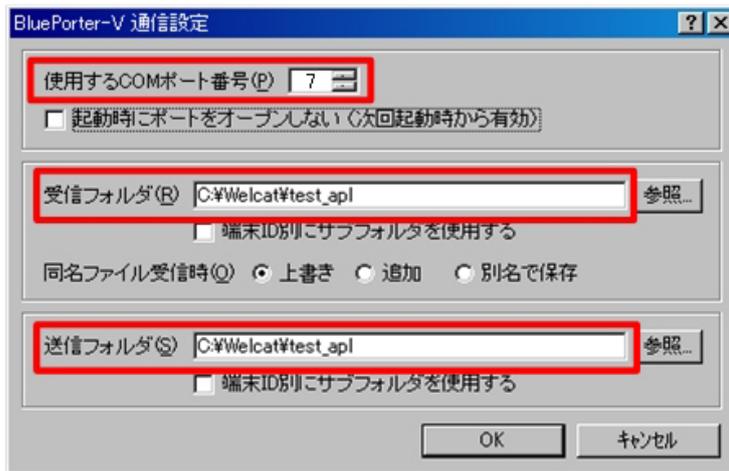
①タスクトレイに表示されているアイコンを右クリックして、表示されるメニューの [通信設定] をクリックします。



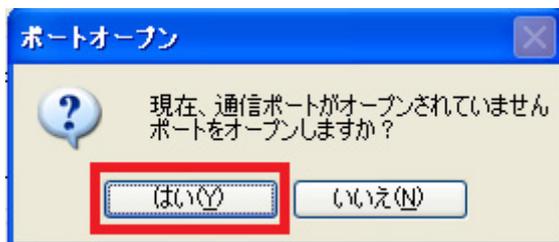
- ② デバイスマネージャで確認した COM ポート番号を [使用する COM ポート番号] に設定します。
COM ポート番号の確認方法については、IU-004/IU-004C のユーザズマニュアルを参照してください。

[受信フォルダ] と [送信フォルダ] には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォルダを指定します。

下図は、「C:\Welcat\test_apl」フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。

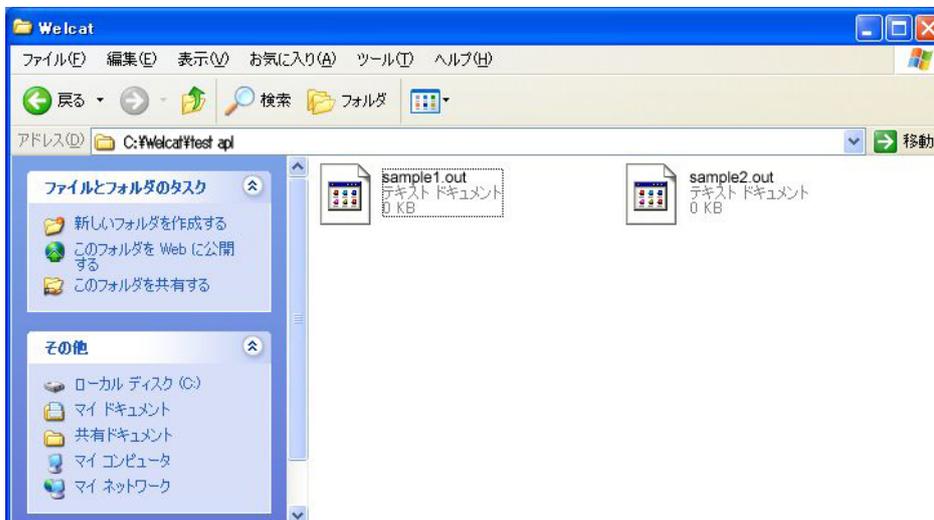


- ③ [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。
次のような画面が出た場合は [はい] をクリックしてください。



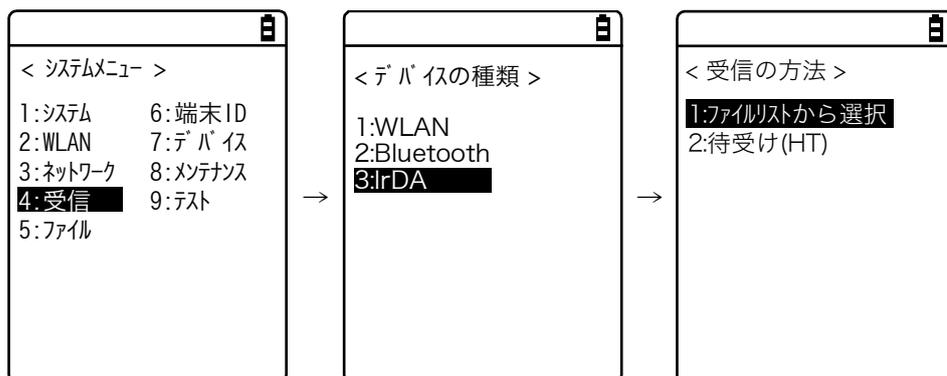
■ ファイルのダウンロード

- ① BluePorter-V の送信フォルダとして設定したフォルダ（上の例では「C:\Welcat\test_apl」）に、アプリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。



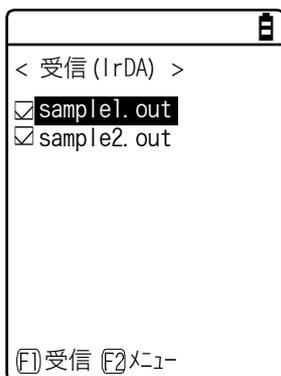
②次にシステムメニューを起動します。

システムメニューで[4:受信] - [3:IrDA] - [1:ファイルリストから選択]を選択します。



③本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。



④本製品を USB 通信ユニットにセットします。

【F1】キーを押すと [受信を開始しますか?]画面が表示されます。[はい] を選択して【ENT】キーを押すとダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。

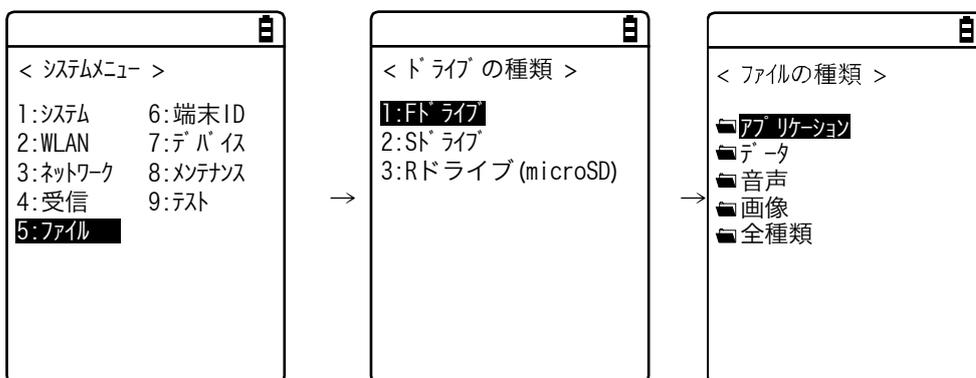
3-5 アプリケーションソフトの実行方法

ダウンロードしたアプリケーションソフト（拡張子=OUT）は、本製品に受信するだけでインストールが完了し、実行する準備が整います。

■ファイルリストから選択して実行

複数のアプリケーションソフトをインストール済みの場合、ファイル一覧から選択して実行することができます。

①システムメニューで [5:ファイル] -<ドライブを選択> - [1:アプリケーション] を選択します。

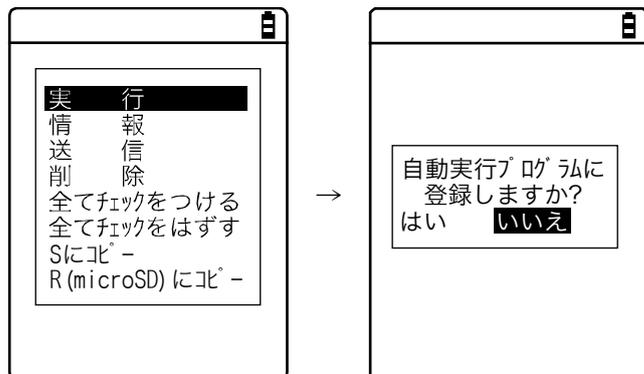


②実行するアプリケーションソフトを選択して、【F1】キーを押します。



③ポップアップしたメニューから、[実行]を選択して【ENT】キーを押します。

<ファイルの実行>画面が表示され、自動実行プログラムへの登録確認が表示されます。自動実行をする場合は[はい]、しない場合は[いいえ]を選択して【ENT】キーを押します。



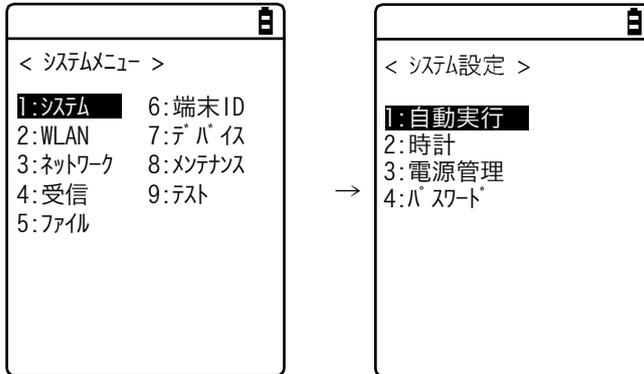
アプリケーションソフトが起動します。

それぞれのアプリケーションソフトの使い方は、アプリケーションソフトの開発元やシステム管理者が用意する操作説明書等を参照してください。アプリケーションソフトは、基本的には【PW】キーを押すことで終了しますが、アプリケーションソフトによっては異なる場合もあります。

■ 起動時に自動実行

本製品の起動時に、システムメニューを起動することなく自動的にアプリケーションソフトを実行することができます。

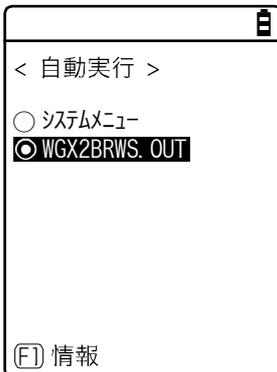
①システムメニューで [1:システム] - [1:自動実行] を選択します。



②インストール済みアプリケーションソフトの一覧から実行するファイル名を選択し、【ENT】キーを押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。

次回、電源 ON すると、登録したアプリケーションソフトが起動します。

システムメニューを選択した時はシステムメニューが起動します。



第4章

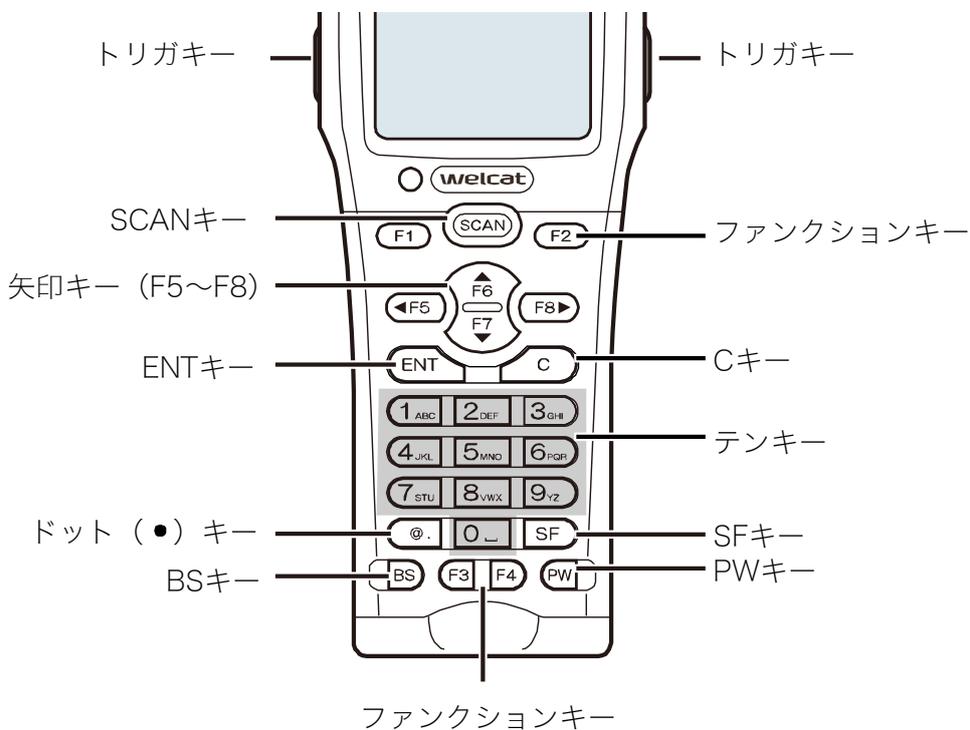
システムメニュー

4-1 システムメニューの使い方

システムメニューはシステムプログラムを構成する機能の一部として、本製品の環境設定やアプリケーションソフトのプラットフォームなど、様々な機能を提供します。お客様の使用環境に合わせた設定をして頂くことで、より効率良く本製品をご使用頂けます。

4-1-1 操作キー

各キーの機能について説明します。



| キー | 機能 |
|-------------|---|
| 【SCAN】キー | バーコードを読取ります |
| 【ENT】キー | 操作を決定します。 |
| 【C】キー | 1つ前の状態に戻したり、入力した文字を消去したりします。 |
| 【BS】キー | 入力した文字を1文字削除します。 |
| 【SF】キー | 文字入力モードを切替えます。 |
| 【F1】～【F8】キー | 機能ごとに用意されたファンクション（特殊機能）を実行します。 |
| 矢印キー | カーソル操作をします。 【◀F5】 【▲F6】 【▼F7】 【▶F8】を指定する場合、各矢印キーにF5～F8が割当てられています。ライブラリ等で使用します。 |

| キー | 機能 |
|--------|--|
| トリガキー | バーコードを読取ります トリガキーには、【F9】キーと【F10】キーが割当てられています。 |
| 【PW】キー | 電源を ON/OFF する時に使用します。 |

参考

本書では、キー名称を【 】で表記しています。

(例) 【1】キー、【F2】キー、【ENT】キー

■キーの文字割当て一覧

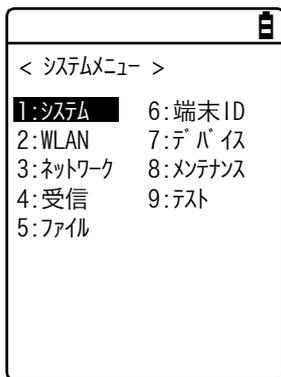
| キー | 数字入力モード | 英字入力モード |
|---|---------|----------------------|
|  | 1 | ABC |
|  | 2 | DEF |
|  | 3 | GHI |
|  | 4 | JKL |
|  | 5 | MNO |
|  | 6 | PQR |
|  | 7 | STU |
|  | 8 | VWX |
|  | 9 | YZ |
|  | 0 | スペース |
|  | . (ドット) | * \$ - + / % : # @ & |

4-1-2 システムメニューの起動

初期設定では、電源を ON にするとシステムメニューが起動します。

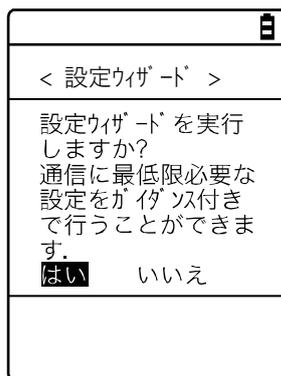
自動実行プログラム（「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行（P. 102）参照」）にアプリケーションソフトが選択されている場合は、次の操作でシステムメニューを起動します。

- ① 電源が OFF の状態で、【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを1秒程度押し続けます。
電源が ON になりシステムメニューが起動します。
- ② オープニング画面の表示後に、システムメニューが表示されます。



4-1-3 初めてシステムメニューを起動する時

ご購入後、初めて本製品を起動すると、本製品とサーバ間での WLAN 通信に最低限必要な設定を行うための設定ウィザードが実行されます。



- 「はい」を選択すると、WLAN 通信の設定をするウィザードが実行されます。
- 「いいえ」を選択するとシステムメニューが起動します。

「いいえ」を選択して設定ウィザードをスキップするか、設定ウィザードを実行して最後まで設定を完了すると、次回起動時から設定ウィザードは起動しなくなります。

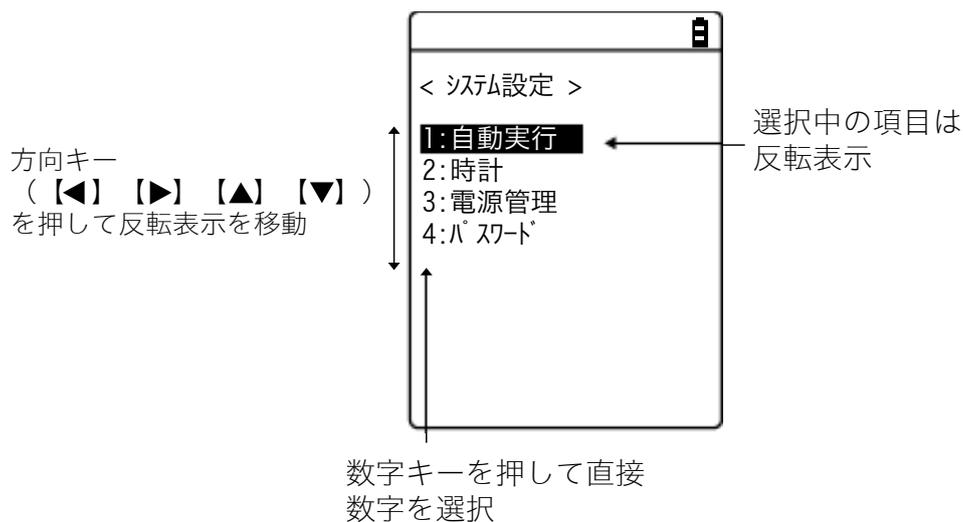


設定ウィザードの使い方は「■設定ウィザードによる WLAN 通信設定」(P.70) を参照してください。

4-1-4 システムメニューの操作方法

システムメニューの基本的な操作方法について説明します。

■設定項目の選択



●項目を選ぶ

選択中の項目は**反転表示**されます。

各項目に該当する【0】～【9】キーを押すか、矢印キー（【▲】、【▼】）キーを使用して反転表示を移動します。

●項目を決定する

【ENT】キーを押すと、選択中の項目を決定します。

決定後の動作は項目により異なります。

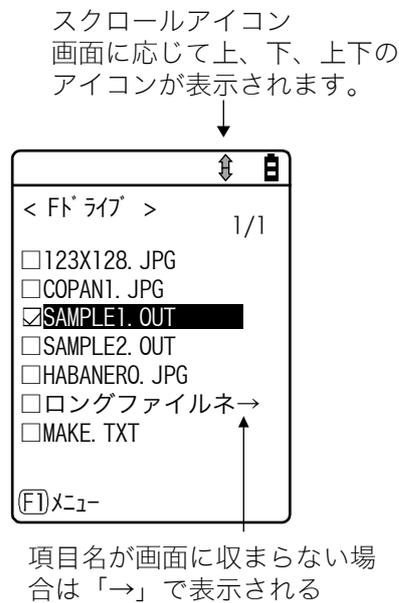
- 選択した機能を実行
- [はい] または [いいえ] の意思表示 (チェックボックス)
- サブメニューを表示

●選択を中止する

【C】キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

●画面の表示について

メニュー項目が1画面に収まらない場合は、画面上部のステータスバーにスクロールアイコンが表示されます。また、項目名が1行に収まらない場合、項目名の最後が「→」に変換されて表示されます。



■キーでデータを入力する

テンキー、【SF】キーを使って文字を入力します。

数字、英字（大/小）、記号が入力できます。

●文字入力モードを切替える

【SF】キーを押すと入力モードが切替わります。＊1

数字入力モード： 数字と小数点が入力できます。

ステータスバーに「1」アイコンが表示されます。

英字入力モード： 英字（大/小）や数字、記号が入力できます。

ステータスバーに「A」アイコンが表示されます。

●数字を入力する

【SF】キーを押して数字入力モード（カーソル：____（下線））にします。

使えるキー：【0】～【9】キー

●英字を入力する

【SF】キーを押して英字入力モード（カーソル：■（矩形））にします。

使えるキー：【1】～【9】キー

- 同じキーに割当てられている英字を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動させてから、次の英字を入力します。
- 【▲】 / 【▼】キーを押すと、カーソル位置の英字が大文字⇄小文字に変換されます。^{※2}

●記号を入力する

【SF】キーを押して英字入力モード（カーソル：■（矩形））にします。

使えるキー：【0】キー

- 同じキーに割当てられている記号を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動させてから、次の記号を入力します。
- カーソルが入力したデータの末尾にある時【▶】キーを押すと、スペースがカーソルの右側に挿入されます。^{※2}

●入力したデータを確定する

【ENT】キーを押します。

●文字を削除する^{※3}

- 【BS】キーを押すとカーソル位置の文字を1文字削除します。
- 【C】キーを押すと全ての文字を消去します。

●入力を中止する

- 文字を削除できない項目^{※3}では、【C】キーを押すと直ちに入力を中止します。
- 文字を削除できる項目では、入力した文字を全て削除した後で【C】キーを押します。

●その他

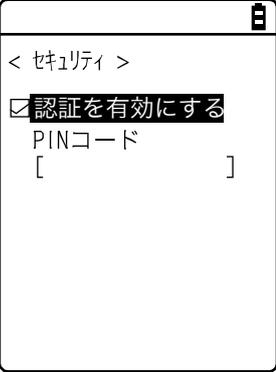
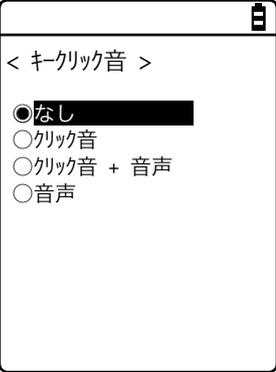
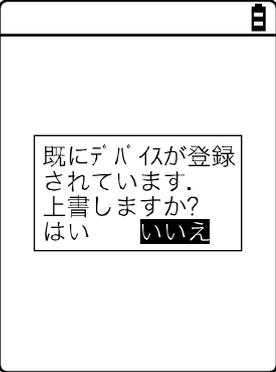
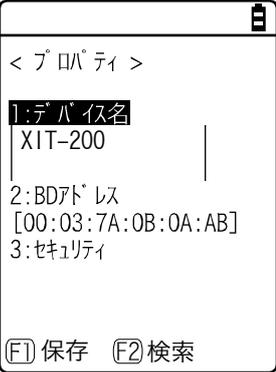
入力文字数が登録可能な文字数を超えた場合、カーソルは先頭に戻ります。

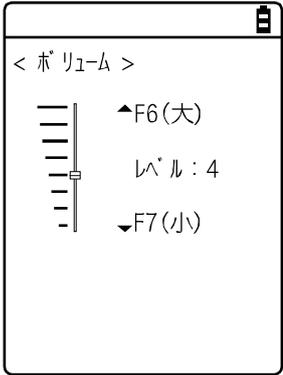
*1 入力可能な文字種が制限されている項目（例：端末IDは数字のみ）は、入力モードを切替えられません。

*2 項目により入力できる文字数が制限される場合があります。

*3 入力フォーマットが固定の項目（例：ローカルBDアドレス）では文字を削除できません。本マニュアルでは入力フォーマット固定の項目に下記の削除禁止アイコンを付けて表記しています。

■その他の操作

| | |
|---|--|
| 1つ前の状態に戻る | 【C】キー |
| <p>チェックボックス</p>  | <p>項目を選択して、【ENT】キーを押すごとに選択/非選択が切替わります。</p> <p>選択されたボックスにチェックマークがつきます。</p> <p>チェックボックスは同時に複数項目を選択する場合に使用されません。</p> |
| <p>ラジオボタン</p>  | <p>項目を選択し【ENT】キーを押して選択項目を変更します。</p> <p>黒丸になっている項目が、現在有効であることを表しています。</p> <p>ラジオボタンは複数の項目から1つだけを選択する場合に使用されます。</p> |
| <p>メッセージボックス</p>  | <p>ボックス内の下部に [はい] や [いいえ] などボタンが2つ表示されている場合は、【1】または【2】キーを押すか、矢印（【▲】、【▼】、【◀】、【▶】）キーを使用してボタンを選択（反転表示）し、【ENT】キーで決定します。</p> <p>【C】キーを押すと右側のボタンが選択されたこととなります。</p> |
| <p>サブメニューの呼出し</p>  | <p>画面下部に [F1] または [F2] が表示されている時に、該当するキーを押すとサブメニューを表示したり、ファンクション（特殊機能）を実行したりします。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>スライダー</p>  | <p>【▲】 【▼】 キーでスライダーを上下移動し、【ENT】 キーで決定します。</p> |
| <p>操作時のインジケータ変更</p> | <p>操作時に作動するインジケータ（ブザー/バイブレータ/LED）は、お客様独自の設定に変更することが可能です。変更方法については「4-9-5 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定」（P.178）をご覧ください。</p> <p>この設定を変更することで、お客様独自のインジケータが簡単に作成できます。</p> <p>なお、一部インジケータが適用されない操作があります。</p> |

■バーコードでデータを入力する

各種設定や文字などをバーコードで入力することができます。

【SCAN】 キーまたはトリガキーを押してレーザを照射させ、バーコードをスキャンします。

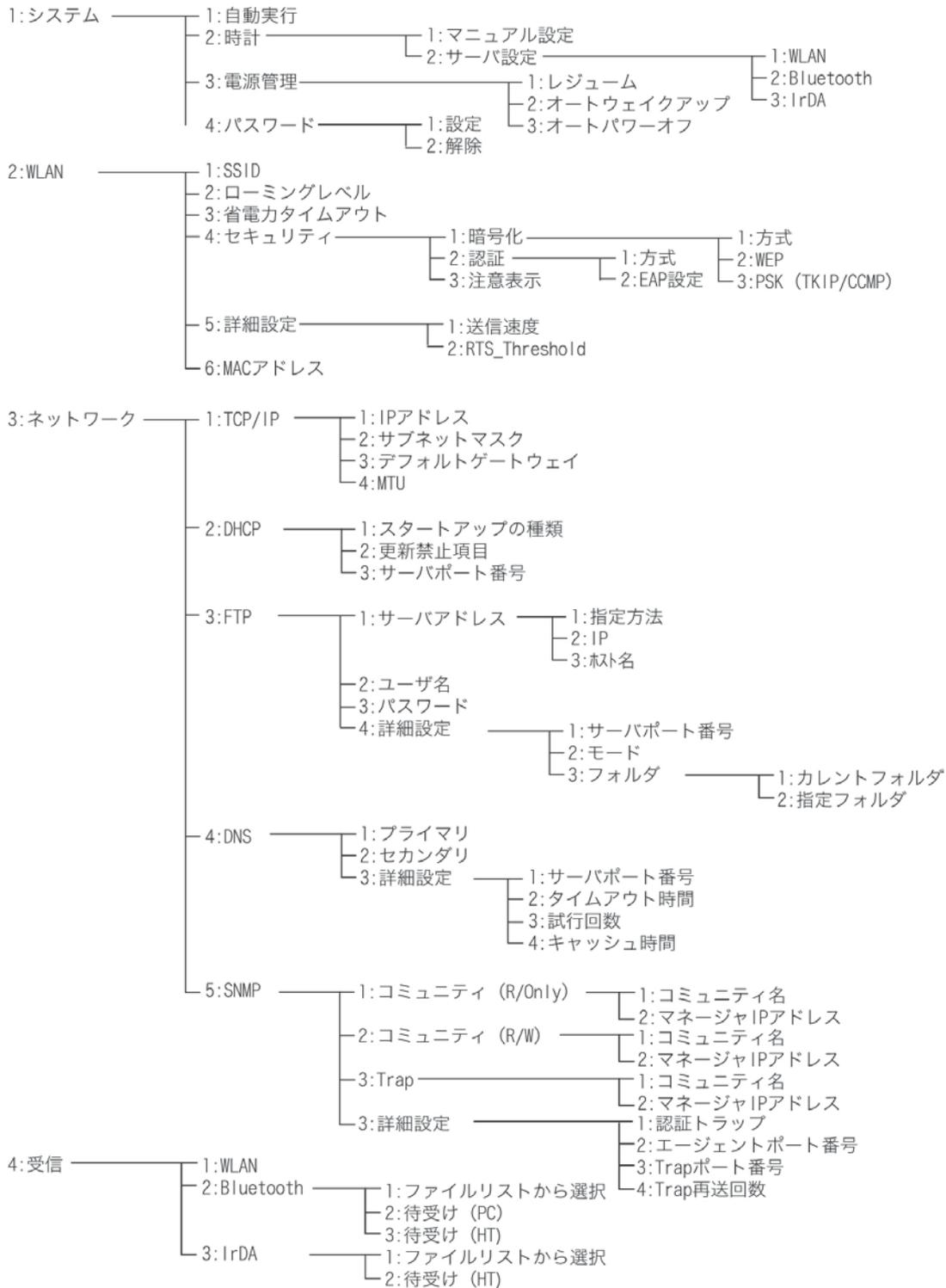
データ入力において読取り可能なバーコードは次の通りです。

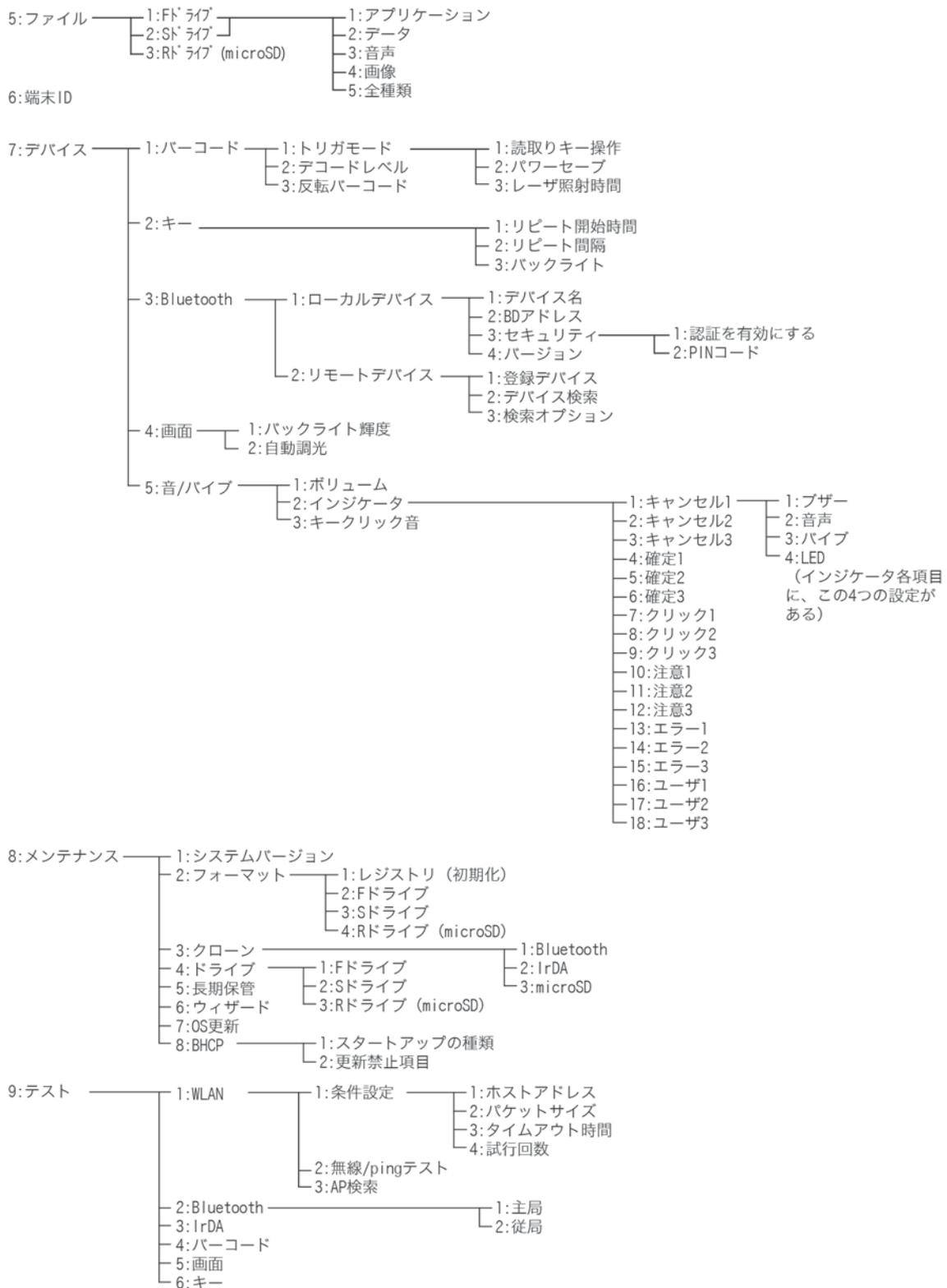
JAN-13/8、EAN-13/8、UPC-A/E、NW-7、Code39、Code93、Code128、EAN-128(GS1-128)、ITF、インダストリアル 2 of5、GS1 DataBar (RSS)

レーザの照射時間はトリガモードで設定します。

4-2 システムメニュー一覽

システムメニューは、機能ごとに分類された階層構造になっています。





システムメニューの出荷時設定については、「付録-1 出荷時設定一覧」(P.240)を参照してください。

4-3 システム：快適にご使用頂くための設定

本製品をより快適にご使用頂くための各種機能を設定します。

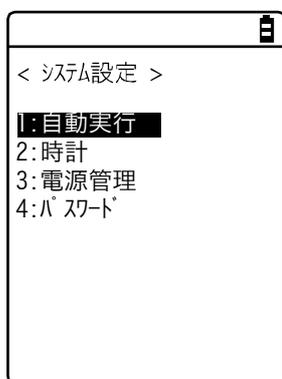
DHCP 機能を使用すると、各システム設定を自動的に登録することも可能です（パスワードの設定は除く）。



「4-5-2 DHCP：DHCP の設定」(P.[131](#))

操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[1:システム\]](#)



設定する項目を選択します。

- ・ 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行 (P.[102](#))
- ・ 時計：時刻の確認 (P.[103](#))
- ・ 電源の管理 (P.[105](#))
- ・ パスワード：パスワードの設定・解除 (P.[110](#))

4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行

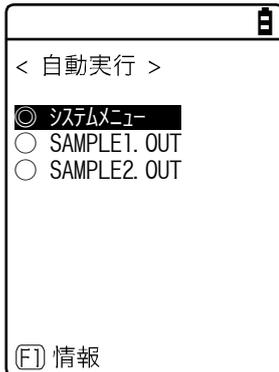


電源を ON にした時に起動するアプリケーションソフトを登録します。
出荷時設定では、システムメニューが起動します。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行]

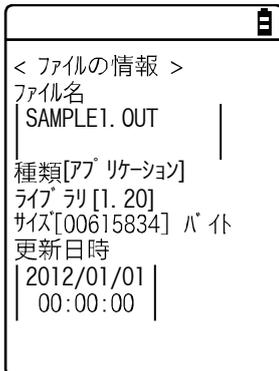
電源を ON した時に起動するアプリケーションソフトを選択します。



現在インストールされているプログラムの一覧が表示されるので、目的のアプリケーションソフトを選択します。

【ENT】キーを押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。

次回、電源を ON すると、登録したアプリケーションソフトが起動します。



【F1】キーを押すと選択中のアプリケーションソフトに関する情報が表示されます。

【C】キーを押すと<自動実行>画面に戻ります。

4-3-2 時計：時刻の設定



現在時刻の確認および時刻の設定をします。

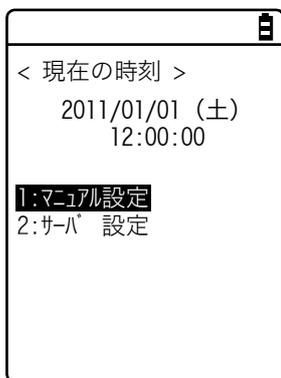
手動による設定（マニュアル設定）のほか、WLAN 通信を使ってパソコンの時刻データを受信すること（サーバ設定）も可能です。

■現在の時刻

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計]

時刻をマニュアルで設定するかサーバで設定するかを選択します。



現在の時刻が表示されます。

設定する項目を選択します。

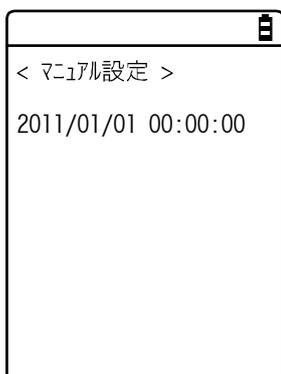
- ・ マニュアル設定：マニュアルで時刻を設定
- ・ サーバ設定：サーバから自動的に時刻を受信

■マニュアル設定：マニュアルで時刻を設定

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計] → [1:マニュアル設定]

時刻を設定します。



矢印キーで設定する年月日にカーソルを移動して、時刻を入力します。

【ENT】 キーを押すと時刻を確定、<現在の時刻>画面へ戻ります。

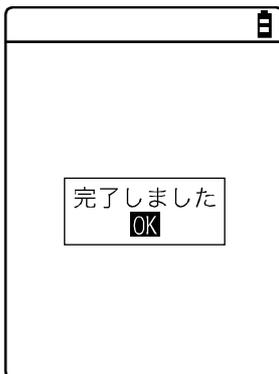
【C】 キーを押すと設定を中止し、<現在の時刻>画面へ戻ります。

■サーバ設定：サーバから自動的に時刻を設定

ネットワーク管理ツールの DHCP サーバから時刻データを受信します（『ネットワーク管理ツール ユーザーズマニュアル』の「7-2 DHCP サーバモード」参照）。

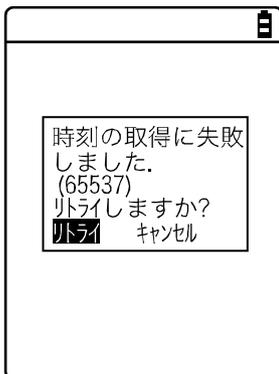
操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計] → [2:サーバ設定] → [1:WLAN] / [2:Bluetooth] / [3:IrDA]



自動的に時刻データを受信します。

【ENT】キーを押すと、<現在の時刻>画面へ戻ります。



受信に失敗した場合、左の画面が表示されます。

- ・リトライ：再度サーバから時刻データを受信します。
- ・キャンセル：設定を中止して<現在の時刻>画面へ戻ります。

失敗を繰り返す場合は、システム管理者にお問合せください。

参考

現在時刻を設定する場合は、DHCP 機能を使用してサーバから時刻データを取得します。

DHCP 機能を使用して現在時刻を設定する際は、あらかじめ次のことを確認してください。

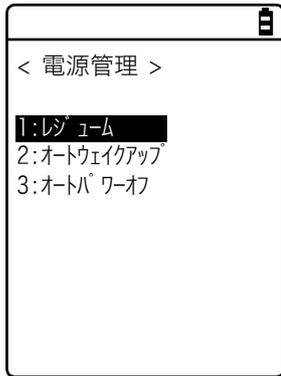
- ・本製品とアクセスポイントの WLAN 通信（SSID、セキュリティ等）が正しく設定されている。
- ・アクセスポイントとパソコンの電源が入っている。
- ・アクセスポイントとパソコンが正しく設定、接続されている。
- ・アクセスポイントが正常に動作している。
- ・ネットワーク管理ツールの DHCP サーバが起動している。

4-3-3 電源管理：電源に関する各種設定

オートパワーオフなど電源 ON/OFF に関わる各種の設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理]



設定する項目を選択します。

- ・レジューム：電源 OFF 時の状態を保持
- ・オートウェイクアップ：決められた時間に起動
- ・オートパワーオフ：自動的に電源 OFF 時

■レジューム機能：電源 OFF 時の状態を保持

レジューム機能を有効にすると、電源を OFF にした時の状態を保存し、次回起動時にその続きから作業を継続することができます。

レジューム機能の有無により、【PW】キーを押して電源 ON した時の動作は、次のようになります。

- ・レジューム機能有効：電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。
- ・レジューム機能無効：常に最初から処理が実行されます。

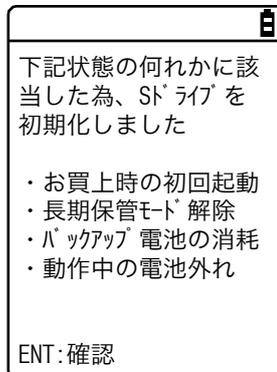
参考

読取りキーを押しながら【PW】キーを押して電源 ON にすると、レジューム機能はキャンセルされて、システムメニューが起動します。

操作手順

- ・動作中にバッテリーパックを外した場合、レジュームは失敗します。レジューム機能の有効・無効に関係なく、処理が最初から実行されます。次に電源を ON した時、以下の画面が表示されます。

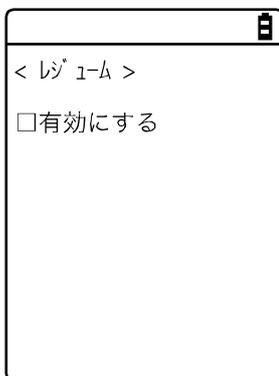
注意



- ・バックアップ用電池が消耗した場合も同じように上記の画面が表示され、処理が最初から実行されます。バックアップ電池の充電については「1-2-5 電池の残量表示とアラーム」 - 「■バックアップ用電池の充電」(P.49)を参照してください。
- ・レジュームの設定を有効にしても、システムメニューではレジュームは無効になります。アプリケーションソフトで動作時のみ、レジュームは有効になります。

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [1:レジューム]

レジューム機能を有効にします。



【ENT】キーを押して [有効にする] をチェックします。



ネットワーク管理ツールの DHCP サーバからもレジューム機能を有効にできます (『ネットワーク管理ツール ユーザーズマニュアル』の「7-2 DHCP サーバモード」参照)。

■オートウェイクアップ：決められた時間に起動

オートウェイクアップは、あらかじめ設定したスケジュールに従って本製品を自動的に起動させる機能です。

注意

オートウェイクアップ機能は、【PW】キーを使って電源をOFFした場合のみ有効です。電池交換をした直後やローバッテリーによって強制終了した後は、オートウェイクアップで起動しません。

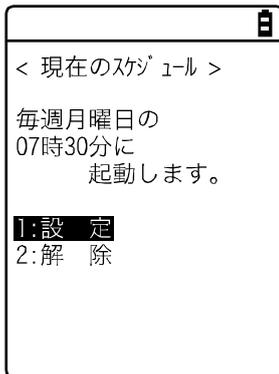
●スケジュールの確認

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:オートウェイクアップ]

現在設定されている起動スケジュールが表示されます。

設定する項目を選択します。



次の項目から選択します。

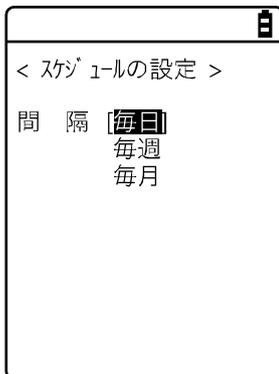
- ・設定：スケジュールの設定
- ・解除：スケジュールの解除

●設定：スケジュールの設定

操作手順

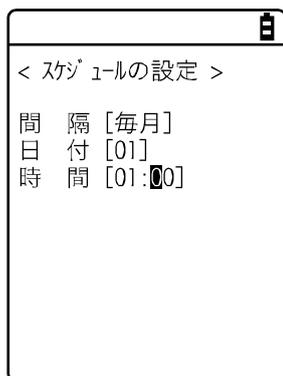
[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:オートウェイクアップ] → [1:設定]

オートウェイクアップのスケジュールを設定します。



スケジュールの発生間隔を選択します。

毎日（時刻指定）、毎週（曜日と時刻指定）、毎月（日にちと時刻指定）から選択できます。日にちは「01」～「31」で、時間は24時間形式で設定します。設定が完了するとスケジュールの確認へ戻ります。



24 時間形式で時分（00：00～23：59）を入力します。

以上で設定は完了です。

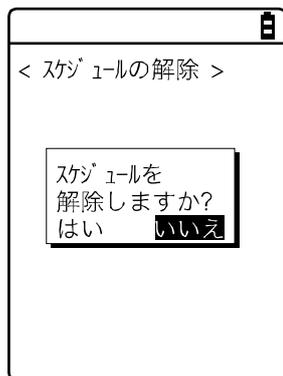
【ENT】キーを押すと<現在のスケジュール>画面へ戻り、設定は完了です。

●解除：スケジュールの解除

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:オートウェイクアップ]
→ [2:解除]

設定されているオートウェイクアップスケジュールを解除します。



確認用ダイアログで [はい] を選択します。

設定されているスケジュールが消去されます。

[いいえ] を選択すると解除を中止します。



ネットワーク管理ツールの DHCP サーバからもオートウェイクアップ機能を有効にできます（『ネットワーク管理ツール ユーザーズマニュアル』の「7-2 DHCP サーバモード」参照）。

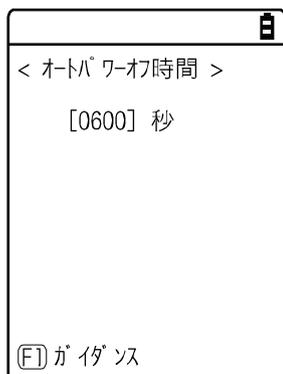
■オートパワーオフ：自動的に電源 OFF

オートパワーオフとは一定時間何も操作されなかった場合に、自動的に電源を OFF にする機能です。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [3:オートパワーオフ]

自動的に電源が OFF するまでの時間を設定します。



< オートパワーオフ時間 >
[0600] 秒
(F1) ガイダンス

設定可能な時間は 0060 秒～3600 秒です。

なお、0000 秒に設定するとオートパワーオフは無効になります。

【ENT】キーを押すと、設定は完了します。

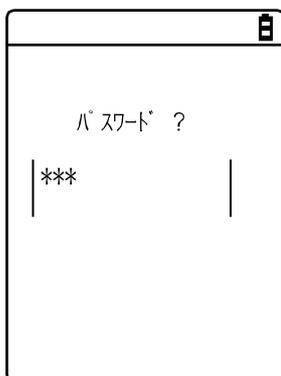
【F1】キーを押すと、設定値に関するガイダンスが表示されます。



ネットワーク管理ツールの DHCP サーバからもオートパワーオフ機能を有効にできません（『ネットワーク管理ツール ユーザーズマニュアル』の「7-2 DHCP サーバモード」参照）。

4-3-4 パスワード：パスワードの設定・解除

システムメニューを不用意に起動させないためにパスワードを設定します。パスワードを設定すれば、パスワードを入力しない限り、管理者以外の第三者が設定内容を確認したり変更したりできないようになります。



パスワードが設定されると、システムメニュー起動時にパスワードチェックを実施します。正しいパスワードが入力されない限り、システムメニューは起動しません。

注意

パスワードは忘れないようにメモを取って保管してください。万一忘れてしまった場合に手順は、弊社 CS センターにお問合せください。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード]

パスワードを設定するか解除するかを選択します。



次の項目から選択します。

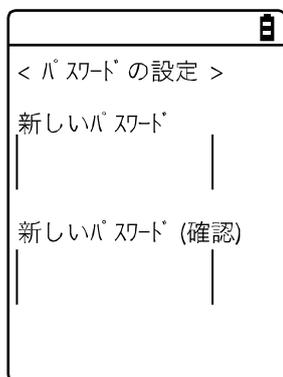
- ・ 設定
- ・ 解除

■設定：パスワードの設定

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード] → [1:設定]

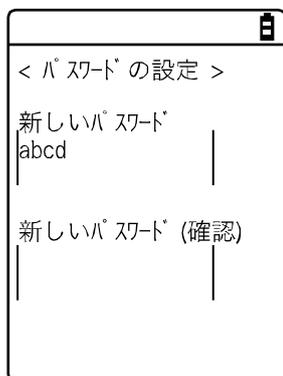
- ① 新しいパスワードを入力します。



パスワードは4文字～30文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

新しいパスワードを入力したら、【ENT】キーを押します。

- ② 確認のため、もう一度パスワードを入力します。



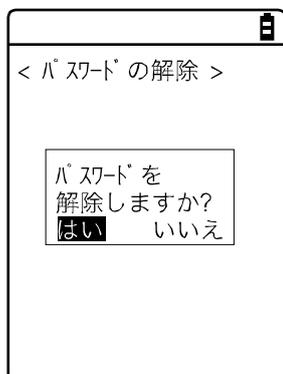
入力後、【ENT】キーを押します。

■解除：パスワードの解除

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード] → [2:解除]

パスワードを解除します。



【はい】を選択するとパスワードが解除され、設定されていたパスワードが消去されます。

【いいえ】を選択すると解除を中止します。

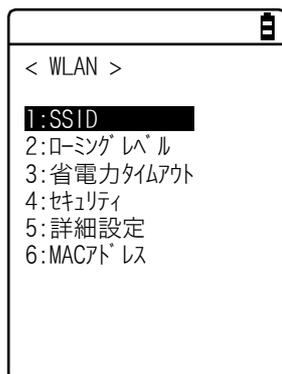
4-4 WLAN : WLAN 通信の設定

WLAN 通信に関する設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN]

WLAN 通信の設定項目を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・ SSID : SSID の設定 (P.[112](#))
- ・ ローミングレベル : ローミングレベルの設定 (P.[113](#))
- ・ 省電力タイムアウト : 省電力タイムアウト時間の設定 (P.[113](#))
- ・ セキュリティ : WLAN 通信のセキュリティ設定 (P.[114](#))
- ・ 詳細設定 : WLAN 通信に関する詳細設定 (P.[125](#))
- ・ MAC アドレス : MAC アドレスの表示 (P.[127](#))

4-4-1 SSID : SSID の設定

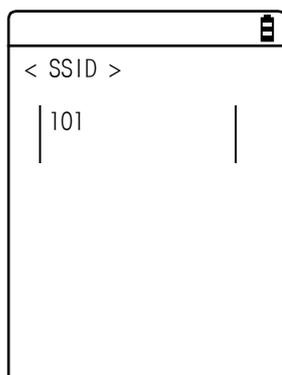
WLAN 通信のアクセスポイントを識別するための SSID を設定します。

注意

SSID は、DHCP 機能を使って自動的に設定することも可能ですが、セキュリティ上の問題が発生する可能性があります。DHCP による設定は、避けてください。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [1:SSID]



SSID を入力します。

SSID は、32 文字までの英数記号で指定します。大文字/小文字は区別されません。

4-4-2 ローミングレベル：ローミングレベルの設定

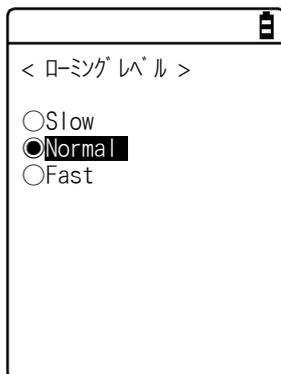


ローミングは、本製品を移動して使用する際に、電波がより強いアクセスポイントを自動的に選んで切替える機能です。切替えの判定をする値をローミングレベルと呼びます。

ローミングは、同じ SSID を持つアクセスポイント間でのみ実行されます。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [2:ローミングレベル]



切替え判定にかかるスピードを選択します。

Slow 切替えが遅い

Normal ↑

Fast 切替えが早い

4-4-3 省電力タイムアウト：タイムアウト時間の設定



送信終了後に WLAN が省電力モードに切替わるまでの時間です。この時間が短いほどバッテリーパックの消費量が少なくなりますが、WLAN の応答性が低下します。

DHCP 機能を有効にすれば自動的に設定することも可能です。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [3:省電力タイムアウト]



タイムアウトするまでの時間を選択します。

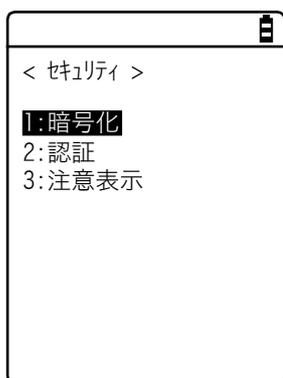


4-4-4 セキュリティ : WLAN 通信のセキュリティ設定

WLAN 通信のセキュリティに関する設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ]



設定する項目を選択します。

- ・暗号化：暗号化方式やキーの設定
- ・認証：認証方式を選択
- ・注意表示：セキュリティ未設定時の注意表示

■暗号化

暗号化方式の選択や暗号に使うキーを設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化]



設定する項目を選択します。

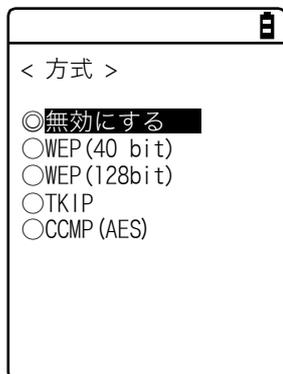
- ・方式：暗号化方式の選択
- ・WEP：WEP キーの設定
- ・PSK(TKIP/CCMP)：暗号化キーの設定

●方式

暗号化方式を選択します。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化] → [1:方式]



暗号化方式を選択します。

- ・ 無効にする
- ・ WEP(40bit)
- ・ WEP(128bit)
- ・ TKIP
- ・ CCMP(AES)

●WEP

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化] → [2:WEP]



項目を選択します。

・TxKeyID

次の「KEY 設定」で設定された KEY1～KEY4 の中で、通信に使用する ID を選択します。暗号化の方式が WEP の時有効となります。

ここで設定された TxKey_ID の WEP キーの内容とアクセスポイントの WEP キーの内容が一致し、かつアクセスポイントで設定されている TransmitKEY の WEP キーの内容と本製品側の WEP キーの内容が一致していなければ通信できません。

注意

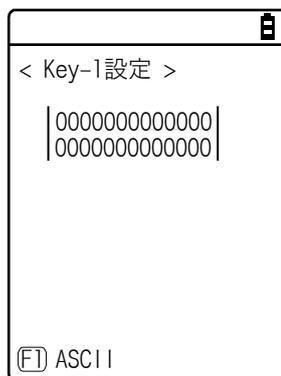
例えば、本製品の TxKey_ID を「2」とした場合、本製品の WEP キー2 の内容とアクセスポイントの WEP キー2 の内容が一致する必要があります。逆にアクセスポイントの TransmitKEY を「3」とした場合、アクセスポイントの WEP キー3 の内容と本製品の WEP キー3 の内容が一致する必要があります。

・Key 設定

各 WEP キー（1、2、3、4）の内容を設定します。

設定方法には、HEX 文字列（「0」～「9」、「A」から「F」）と ASCII 文字列があります。入力切替えは【F1】キーで行います。トリガキーを使うと、バーコード読取りによる設定も可能です。

HEX 文字列（デフォルト）



The screenshot shows a screen titled "< Key-1設定 >". It contains two lines of text, each enclosed in a box: "00000000000000" and "00000000000000". At the bottom left, there is a button labeled "(F1) ASCII".

40bit を選択した場合 10 文字固定で、128bit を選択した場合は 26 文字固定になります。実際の入力には常に 26 文字であり、40bit 選択時はその 26 文字前半の 10 文字が採用されます。

【F1】キーを押すと ASCII 文字列入力画面になります。

ASCII 文字列



40bit を選択した場合 5 文字固定で、128bit を選択した場合は 13 文字固定になります。実際の入力は常に 13 文字であり、40bit 選択時はその 13 文字前半の 5 文字が採用されます。また空白はスペース (0x20) と認識します。

各 WEP キーの設定は上書きできますが、編集はできません。

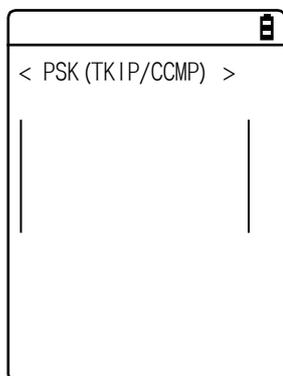
注意

KEY 設定画面に入るとセキュリティ上の観点から常に"00000..."を表示するようになっています。

●PSK(TKIP/CCMP)

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [1:暗号化] → [3:PSK(TKIP/CCMP)]



暗号方式で PSK (TKIP/CCMP) を選択した場合、暗号化キー (鍵) を入力します。アクセスポイントと同じ設定をしてください。

ASCII 文字で設定する時は 8~63 文字で入力します。16 進数で設定する時は 64 文字で入力します。

PSK (TKIP/CCMP) を使用する場合は認証方式 (P.119) を「Open」にしてください。

セキュリティ機能について

本製品は、WLAN 通信セキュリティ機能として WPA、WPA2 を搭載しています。

■WPA (WPA-PSK)、WPA2 (WPA2-PSK) について

・ PSK

PSK とは事前共有鍵 (Pre-Shared Key) のことです。アクセスポイントと本製品で WLAN 通信する前に同じ暗号鍵を設定します。この鍵は第三者に漏れないように管理する必要があります。この意味でいうと WEP で設定する鍵も PSK となります。

・ WPA-PSK、WPA2-PSK

WPA、WPA2 は IEEE802.1X (EAP) 認証に必要な電子証明書、RADIUS サーバなど設備的なコストと技術が必要なため、簡易認証方式として PSK 方式が準備されています。

これはアクセスポイントと同じ事前共有鍵 (PSK) を本製品に設定することで簡易的な認証を行い、かつ設定された暗号化方式 (TKIP/CCMP (AES)) で通信します。この方式は事前共有鍵をそのまま暗号鍵とするのではなく、各アクセスポイント-各端末間の接続ごとまたは周期的に乱数を使用して一時鍵を生成します。この処理のため、「暗号化無し」「WEP 方式」に比べてアクセスポイントとの WLAN 通信時には数秒の遅れが発生します。

■暗号化方式

本製品の暗号化方式は、以下の通りです。

・ WEP

本製品の WLAN 通信で使われている IEEE802.11b/g は一般的な無線規格であるため、第三者により容易に傍受されてしまう可能性があります。アクセスポイントと本製品の WLAN 通信データに、暗号化の標準である WEP (Wired Equivalent Privacy) を使用することによって傍受の危険を回避することができます。本製品は「40bit (64bit とともいう)」と「128bit」の 2 種類の WEP キー (共通鍵) に対応しています。

・ TKIP

TKIP は IEEE802.11i WLAN 通信用暗号化標準の一部で、一時鍵を用いる暗号プロトコル「Temporal Key Integrity Protocol」のことです。これは WEP で使用している暗号化アルゴリズム RC4 を使いながら WEP の弱点を強化した機能です。一時鍵をそのまま RC4 で暗号化するのではなく、鍵混合処理を 2 段階行うことによりパケットごとに異なる鍵で暗号化します。

・ AES

AES はアメリカ政府が使用する暗号化方式として標準化した暗号で Rijndael (ラインデール) というアルゴリズムです。AES は安全性と速度という 2 つの条件が満たされています。しかし WEP、TKIP とはまったく異なる暗号化アルゴリズムのため、新たなハードウェア処理が必要となります。

・ CCMP

CCMP (Counter mode with CBC-MAC Protocol) は AES で使用される改ざん検出プロトコルです。CBC-MAC (Cipher-Block Message Authentication Code) 方式を使用して改ざん検出を行います。WPA2 (IEEE802.11i) ではこの CCMP 方式が必須とされています。

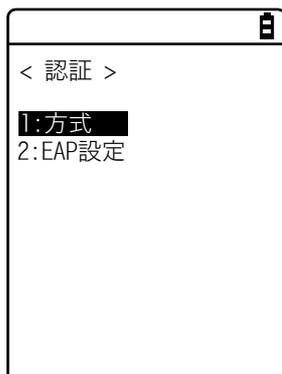
■ 認証

認証方式を選択します。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [2:認証]

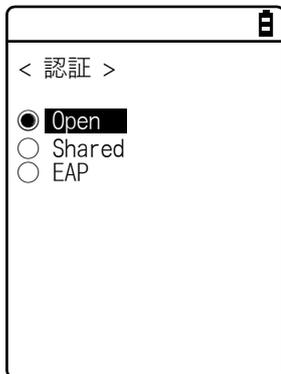
設定する項目を選択します。



●方式

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [2:認証] - [1:方式]



・ Open

「Open 認証」方式を設定します。

本製品からの認証要求フレームを受信するとアクセスポイントは認証応答フレームを返信しデータ通信を許可します。

WEP が有効の場合、両者の WEP キーが合っていないければ認証ができてデータ通信は行えません。

・ Shared

「Shared Key 認証」方式を設定します。

本製品から認証要求を行うと、アクセスポイントは暗号化されていない身元要求証明用テキスト文字列(チャレンジコード)を送信します。その後、本製品はチャレンジコードを WEP キーで暗号化して返送します。アクセスポイントはチャレンジコードを WEP キーで復号して送信したチャレンジコードと同じことを確認して認証を許可します。

・ EAP

「EAP」(IEEE802.1X) 認証方式を設定します。この認証方式を使用する場合、後述する証明書、秘密鍵、ユーザ情報設定等が必要になります。また使用できる環境(証明機関、認証(RADIUS)サーバ等)にも制限があります。このため「EAP」認証方式を使用する場合は、弊社営業までお問合せください。

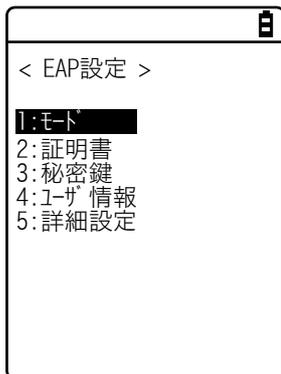
●EAP 設定

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [2:認証] - [1:EAP 設定]

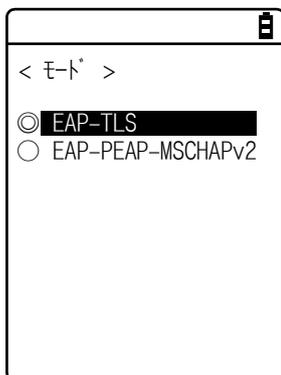
EAP (IEEE802.1X) 認証を使用する場合に必要な各種項目を設定します。

ここで設定した後、「■無線/ping テスト」(P. 206)を行い EAP 認証による通信が可能であることを確認してください。



設定する項目を選択します。

① [モード] を選択します。



・ EAP-TLS

サーバ認証にサーバ証明書、クライアント認証にクライアント証明書が必要な認証方式です。

設定に必要な項目は以下の通りです。

- ・ CA ルート証明書
- ・ クライアント証明書
- ・ 秘密鍵
- ・ ユーザ名

・ EAP-PEAP-MSCHAPv2

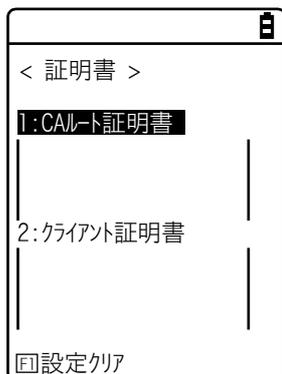
サーバ認証にサーバ証明書、クライアント認証にユーザ名、パスワードが必要な認証方式です。

設定に必要な項目は以下の通りです。

- ・ CA ルート証明書
- ・ ユーザ名
- ・ パスワード

② [証明書] を選択します。

証明書ファイルを設定します。各証明書ファイルは、WLAN (P. 144) または Bluetooth (P. 144) で受信します。IrDA またはクローンによっても取得することができます。



・CA ルート証明書 (ファイル)

サーバ認証に必要なサーバ証明書発行元の CA ルート証明書です。証明書の階層化 (チェーン) には対応していません。

本製品は、PEM 形式 (Base64 符号化) の証明書ファイルに対応しています。

【F1】 キーで設定内容をクリアできます。

・クライアント証明書 (ファイル)

クライアント認証に必要なクライアント証明書です。

本製品は、PEM 形式 (Base64 符号化) の証明書ファイルに対応しています。

【F1】 キーで設定内容をクリアできます。



受信済みファイルから選択します。

(【F1】 キーでファイル情報を参照できます)

③ [秘密鍵] を選択します。

秘密鍵（ファイル）は、WLAN（P. 144）またはBluetooth（P. 144）で受信します。

IrDAまたはクローンによっても取得することができます。



- ファイル

クライアント証明書に含まれているクライアント公開鍵に対する秘密鍵です。

この秘密鍵はセキュリティ上重要です。秘密鍵ファイルは暗号化を行いパスワードが第三者に漏れないように管理してください。

本製品は、PEM形式（Base64符号化）の秘密鍵ファイルに対応しています。また、暗号方式はDES-CBC 64bitである必要があります。

【F1】キーで設定内容をクリアできます。

- パスワード

0～31文字の半角英数記号で、大文字/小文字を区別して設定します。

セキュリティ対策として、入力後のパスワードは伏字（*）に変換されて表示されます。

【F1】キーで設定内容をクリアできます。



受信済みファイルから選択します。

（【F1】キーでファイル情報を参照できます）

④ [ユーザ情報] を選択します。



- ユーザ名

認証時に使用するユーザ名です。

62文字の半角英数記号で、大文字/小文字を区別して設定します。

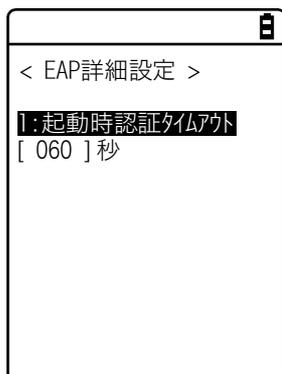
- パスワード

認証時に使用するパスワードです。

0～31文字の半角英数記号で、大文字/小文字を区別して設定します。セキュリティ対策として、入力後のパスワードは伏字（*）に変換されて表示されます。

⑤ [詳細設定] を選択します。

※この設定は通常変更しません。



・ 起動時認証タイムアウト

WLAN が起動する時、ここで設定された秒数まで認証終了を待ちます。

設定可能値：15～120 秒

■ 注意表示

WLAN 通信セキュリティがまったく設定されていない状態で起動した場合、「WLAN 通信セキュリティ未設定」注意画面が表示されます。この表示を ON/OFF することができます。

この設定を OFF にすると、WLAN 通信セキュリティが未設定でも、起動時に注意画面は表示されません。

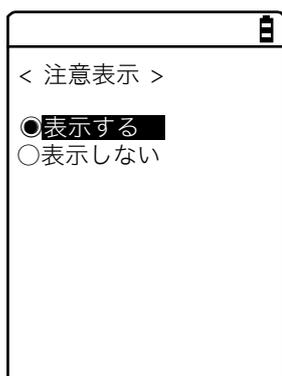
操作手順

注意

この設定を OFF にすることはセキュリティ上推奨しません。

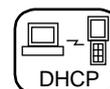
WLAN 通信をする場合は、必ずセキュリティの設定をしてください。

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [4:セキュリティ] → [3:注意表示]



表示の ON/OFF を選択します。

4-4-5 詳細設定 : WLAN 通信に関する詳細な設定

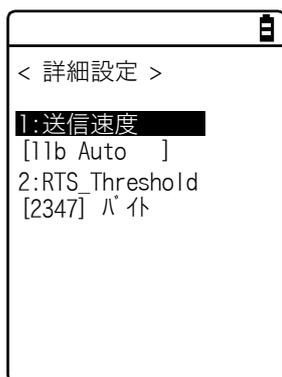


WLAN 通信に関する詳細な設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [5:詳細設定]

① [送信速度] を選択します。



② リストから送信速度を選択します。



送信速度を、リストから選択します。

送信速度に関しては次項を参照してください。

③ [RTS_Threshold] を選択します。



RTS Threshold の値を設定します。

●送信速度

高速通信で固定にするほど本製品の送信可能エリアは狭くなります。

本製品側の速度設定により、14ch の使用可否問題およびアクセスポイント側の速度設定による接続性について制限があります。下表を参照してください。

| 速度設定 | 説明 | 14ch ※1 | アクセスポイント側速度 設定との接続性 ※2 | | |
|---------------------|--|------------|---------------------------|-------------|-------------|
| | | | 11b/g 両用 | 11b Only | 11g Only |
| 11b Auto (デフォルト) | 本製品とアクセスポイントとの距離に応じて、適切な送信速度に自動的に変更されます。IEEE802.11b (11,5.5,2,1Mbps) の範囲となります。 | ○ | ○ | ○ | × |
| 11bg Auto | 本製品とアクセスポイントとの距離に応じて、適切な送信速度に自動的に変更されます。 | × | △ | ○ | ◎ |
| 11g 9M | 送信速度は 9Mbps 固定です。 | × | △ | × | ◎ |
| 11g 6M | 送信速度は 6Mbps 固定です。 | × | △ | × | ◎ |
| 1M | 送信速度は 1Mbps 固定です。 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2M | 送信速度は 2Mbps 固定です。 | ○ | ○ | ○ | × |
| 1 or 2M | 送信速度は 1Mbps、2Mbps でのみ自動的に変更されます。 | ○ | ○ | ○ | × |
| 5.5M | 送信速度は 5.5Mbps 固定です。 | ○ | ○ | ○ | × |
| 11M | 送信速度は 11Mbps 固定です。 | ○ | ○ | ○ | × |

※1 14ch の使用可否

○ : 使用可能です。

× : 使用できません。

※2 アクセスポイント側の速度設定との接続性

◎ : 接続可能です。11g の速度が優先され高速通信できます。

○ : 接続可能です。11b の速度で通信します。

△ : 接続可能です。11b/g のネゴシエーションのためスループットが若干落ちます。

× : 接続できません。

●RTS Threshold

データパケットの送信前に RTS パケットを送信するかどうかを判断します。データパケットサイズが設定値より大きい場合は RTS パケットを送信し、RTS-CTS 制御を行います。同じアクセスポイントに多数の端末が接続している時、または端末が遠くに分散しているためにアクセスポイントの検知は可能でも端末同士が互いに検知できない場合に RTS-CTS 制御は有効になります。RTS-CTS 制御は上記の場合は有効ですが、それ以外ではスループットが低下します。通常は出荷時設定値（2347 バイト）にしてください。

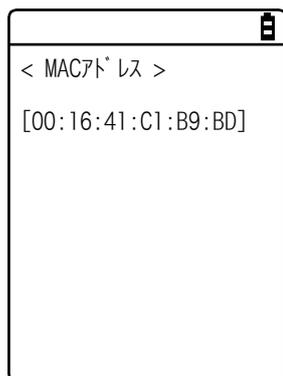
- ・設定範囲：0～2347 バイト

4-4-6 MAC アドレス : MAC アドレスの表示

MAC アドレス（ハードウェア固有のアドレス）を表示します。MAC アドレスは変更できません。

操作手順

[システムメニュー] → [2:WLAN] → [6:MAC アドレス]



本製品の MAC アドレスが表示されます。

4-5 ネットワーク：ネットワーク接続の設定

ネットワーク接続に必要な設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク]



設定する項目を選択します。

- ・ TCP/IP : TCP/IP 通信に関する設定 (P.[129](#))
- ・ DHCP : DHCP クライアント機能の設定 (P.[131](#))
- ・ FTP : FTP クライアント機能を使用するための設定 (P.[134](#))
- ・ DNS : DNS サーバのアドレスの設定 (P.[138](#))
- ・ SNMP : SNMP の各種設定 (P.[140](#))

4-5-1 TCP/IP：TCP/IP の設定



IP アドレスを始めとする TCP/IP 通信に関する設定をします。

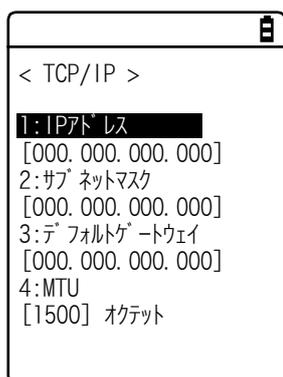
操作手順

- ・ IP アドレスが [000.000.000.000] の状態では、WLAN 通信を実行できません
- ・ DHCP 設定の「スタートアップの種類」(P.132) で「アプリケーションソフト起動時」を選択した場合、MTU 以外は確認のみとなり、変更することはできなくなります。

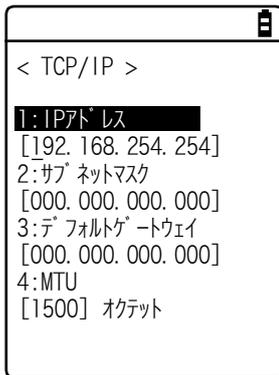
注意

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [1:TCP/IP]

- ① 現在の設定内容が表示されます。



② 各項目を設定します。



```
< TCP/IP >
1: IPアドレス
  [192.168.254.254]
2: サブネットマスク
  [000.000.000.000]
3: デフォルトゲートウェイ
  [000.000.000.000]
4: MTU
  [1500] オクテット
```

項目名を選択すると入力可能になります。

・ IP アドレス

ネットワーク管理者から割当てられた IP アドレスを設定します。同一のネットワークに接続する全ての XIT-200-G について、固有の IP アドレスを設定します。

・ サブネットマスク

ネットワーク管理者から割当てられたサブネットマスクを設定します。サブネットマスクはネットワークの所属を特定するために IP アドレスとあわせて設定します。

・ デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを設定します。ルータを介して異なるネットワークに接続する場合に必要になります。

・ MTU

IP パケットの最大長です。イーサネットでは通常 1500 オクテット（バイト）です。ルータを超えて使用する場合など、通信メディアによってはこの値を変更する必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問合せください。

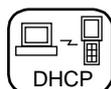
（入力例） IP アドレス

ピリオドで区切られた各フィールドに 000～255 の数値を入力します（例：192.168.254.254）。

「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」も同様の手順で入力します。

各項目の設定値については、ネットワーク管理者にお問合せください。

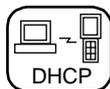
4-5-2 DHCP : DHCP の設定



TCP/IP や各種設定項目を自動的に設定できる DHCP クライアント機能を設定します。

参考

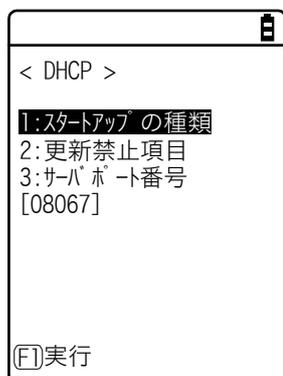
本書では、DHCP でパソコンから自動設定できるシステムメニュー項目には、次のマークが付けられています。



操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP]

設定する項目を選択します。



- ・ スタートアップの種類：DHCP の無効/実行の設定
- ・ 更新禁止項目：DHCP で更新を禁止する項目の設定
- ・ サーバポート番号：DHCP サーバポート番号の設定

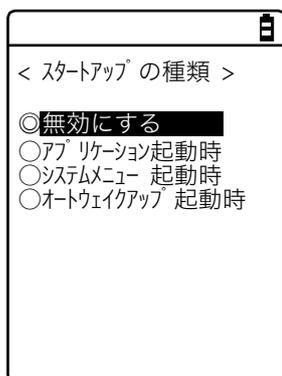
■スタートアップの種類

起動時の DHCP の無効/実行を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP] → [1:スタートアップの種類]

スタートアップの種類を設定します。



・無効にする

起動時に DHCP は実行されません。

・アプリケーション起動時

アプリケーションソフトが実行される前に DHCP が実行されます。

[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行] でアプリケーションソフトが選択されている場合、本製品起動後、アプリケーションソフトが実行される前に DHCP 機能が実行されます。

なお、システムメニューの [5:ファイル] でアプリケーションソフトを起動した場合、DHCP は実行されません。

・システムメニュー起動時

システムメニューが起動時に DHCP が実行されます。

・オートウェイクアップ起動時

オートウェイクアップ起動時に DHCP が実行されます。

注意

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [8:BHCP] → [1:スタートアップの種類] で、BHCP のスタートアップの種類が「無効にする」以外に設定されている場合は、警告が表示され DHCP のスタートアップの種類を設定することはできません。

■更新禁止項目

DHCP 機能実行時に、指定した端末固有の情報を変更しないように設定することができます。

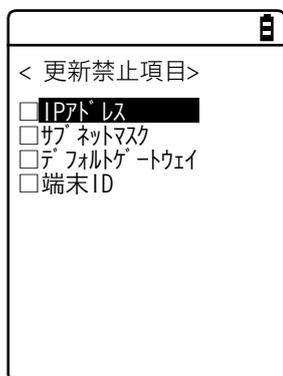
操作手順

注意

IP アドレスがチェックされている（IP アドレス更新禁止）場合、本製品に設定されている IP アドレスは変更されません。ネットワーク上に同一の IP アドレスのホストがないことを確認してご使用ください。

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP] → [2:更新禁止項目]

更新禁止にする項目を選択します。



< 更新禁止項目 >
 IPアドレス
 サブネットマスク
 デフォルトゲートウェイ
 端末ID

更新を禁止する項目をチェックします。

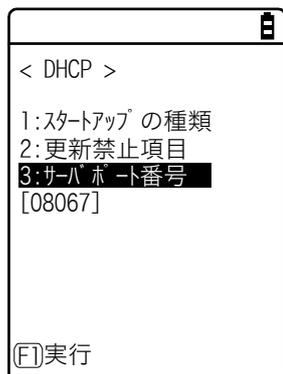
- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ
- ・ 端末 ID

■サーバポート番号

DHCP サーバポートを設定します（出荷時設定：08067）。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP] → [3:サーバポート番号]



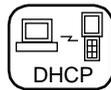
< DHCP >
1:スタートアップの種類
2:更新禁止項目
3:サーバポート番号
[08067]
(F)実行

DHCP サーバのポート番号を入力します。

本製品特有の設定項目の自動設定を行わず、既存の DHCP サーバを使用して IP アドレスの設定のみを行う場合は、値を変更します。

DHCP サーバポート番号は、デフォルトで 08067 です。これは同一ネットワークで業務を運用している他の DHCP サーバとの競合を避けるためです（ウェルノウンポート番号は 67 番です）。

4-5-3 FTP：FTPの設定



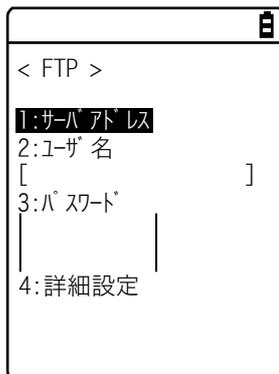
FTPクライアント機能を使用するための設定をします。

DHCP機能を有効にすると、自動的に設定することもできます。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [3:FTP]

設定する項目を選択します。



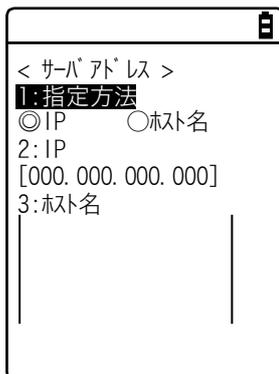
- ・サーバアドレス：FTPサーバのホスト名の設定
- ・ユーザ名：FTPサーバへのログインユーザ名の設定
- ・パスワード：FTPサーバへのログインパスワードの設定
- ・詳細設定：FTPの詳細な情報の設定

■サーバアドレス

FTPサーバのホスト名を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [3:FTP] → [1:サーバアドレス]



「1:指定方法」で指定したIPまたはホスト名がFTPサーバとして設定されます。

- ・IPを選択した場合
「2:IP」にFTPサーバのIPアドレスを入力します。
- ・ホスト名を選択した場合
「3:ホスト名」にFTPサーバのホスト名を入力します。
ホスト名に半角スペースを含むことはできません。

注意

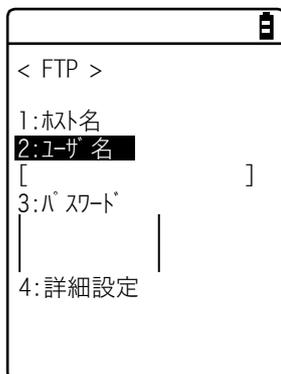
「ホスト名」を使用する場合は、DNSを設定してください (P.138)。

■ユーザ名

FTP サーバへのログインユーザ名を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [3:FTP] → [2:ユーザ名]



The screenshot shows a terminal window titled '< FTP >'. It contains a menu with four options: '1: ホスト名', '2: ユーザ名', '3: パスワード', and '4: 詳細設定'. The '2: ユーザ名' option is highlighted with a black background. There are also some bracket-like symbols and a vertical line in the menu.

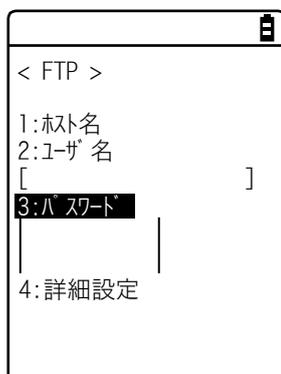
ユーザ名を、18文字までの半角英数記号で、大文字/小文字を区別して入力します。

■パスワード

FTP サーバへのログインパスワードを設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [3:FTP] → [3:パスワード]



The screenshot shows a terminal window titled '< FTP >'. It contains a menu with four options: '1: ホスト名', '2: ユーザ名', '3: パスワード', and '4: 詳細設定'. The '3: パスワード' option is highlighted with a black background. There are also some bracket-like symbols and a vertical line in the menu.

パスワードを、20文字までの半角英数記号で、大文字/小文字を区別して入力します。

パスワードに半角スペースを含むことはできません。

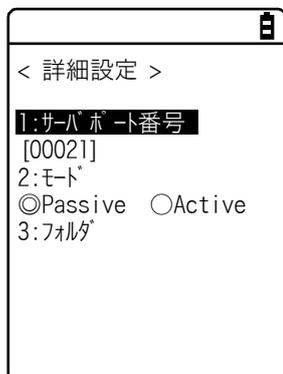
セキュリティ対策として、入力後のパスワードは伏字（*）に変換されて表示されます。

■詳細設定

FTP の詳細な情報を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [3:FTP] → [4:詳細設定]



< 詳細設定 >

1:サーバポート番号
[00021]

2:モード
Passive Active

3:フォルダ

設定する項目を選択します。

- ・サーバポート番号：FTP サーバの制御ポート番号の指定
- ・モード：モードの指定
- ・フォルダ：フォルダの指定

●サーバポート番号

FTP サーバの制御ポート番号を指定します。出荷時設定は、FTP のウェルノウンポート番号である 21 番 (00021) に設定されています。

●モード

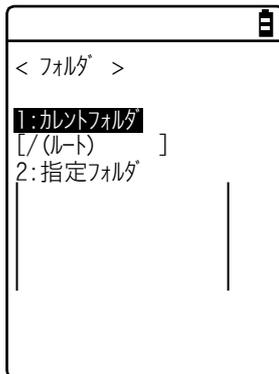
デフォルトは Passive モードです。FTP サーバが Passive モード対応されていない場合は Active モードにしてください。

参考

ファイアウォールの設定で、その外側から内側への接続を拒否する機能があります。この機能が有効な場合 Active モードでは FTP 通信ができません。Passive モードを使用すると、ファイアウォールを超えた場所にある FTP サーバとの通信が可能になります。

●フォルダ

FTP サーバの送受信フォルダを設定します。



・カレントフォルダ

[カレントフォルダ] を選択するとサブメニューが表示されます。

次の項目からカレントフォルダを選択します。

/ (ルート)

FTP サーバの指定するルートフォルダです。FTP サーバによってはユーザ名のフォルダをルートフォルダにする場合もあります。

/ (ユーザ名)

FTP サーバのルートフォルダ中にあるユーザ名と同一のフォルダをカレントフォルダにします。ユーザ名が設定されずに FTP 機能（ファイル送受信）を実行するとエラー画面になります。

/ (指定)

「指定フォルダ」（次項参照）で設定されたルートフォルダからの相対パスがカレントフォルダとなります。

・指定フォルダ

[指定フォルダ] を選択してフォルダ名を入力します。

ここで設定された文字列が FTP メソッド「CWD」に追加されます。ここで設定された文字列が直接 FTP 通信されるので、サーバに対応した文字列を設定してください。

（例）"dir1/dir2/dir3"

指定フォルダに半角スペースを含むことはできません。

4-5-4 DNS：DNSサーバの設定

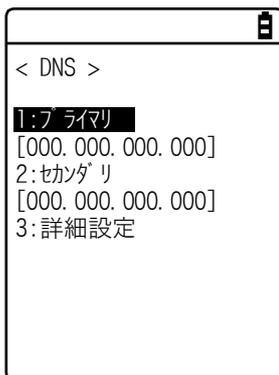


DNSサーバのアドレスを設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS]

設定する項目を選択します。



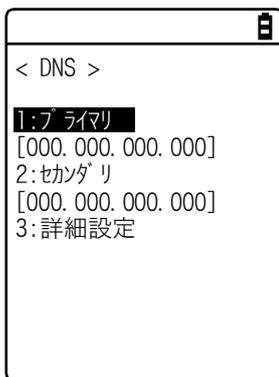
- ・ プライマリ：プライマリ DNS サーバの IP アドレスの設定
- ・ セカンダリ：セカンダリ DNS サーバの IP アドレスの設定
- ・ 詳細設定：DNS の詳細設定

■プライマリ

プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS] → [1:プライマリ]



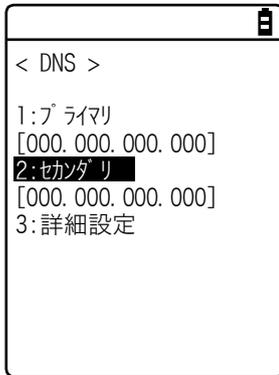
プライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

■セカンダリ

セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS] → [2:セカンダリ]



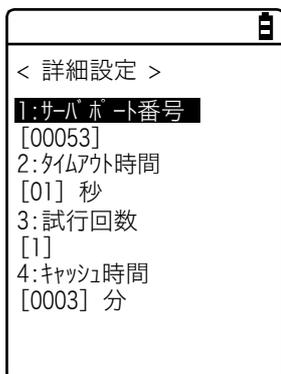
セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

■詳細設定

DNS の詳細を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [4:DNS] → [3:詳細設定]



項目を選択して設定します。

・サーバポート番号

DNS サーバの制御ポート番号を指定します。ウェルノウンポートは 53 番です。

・タイムアウト時間

応答パケット待ち時間を 1～99 秒で設定します。

・試行回数

リトライ回数を設定します。0 を設定すると 1 パケットのみ送信して、リトライしません。

・キャッシュ時間

設定範囲は 0～9999 分です。0 を設定するとキャッシュ機能が無効になります。キャッシュテーブルへのエントリ最大値は 8 個です。最大値を超えた場合は古いエントリが破棄され、新しくエントリされます。

4-5-5 SNMP：SNMPの設定



SNMP の各種設定をします。

DHCP 機能を有効にすると、自動的に設定することもできます。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP]

設定する項目を選択します。



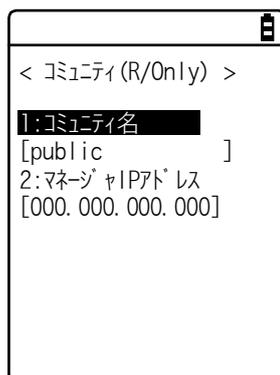
- ・コミュニティ (R/Only)：リードオンリーのコミュニティを設定
- ・コミュニティ (R/W)：リードライトのコミュニティを設定
- ・Trap：Trap のコミュニティを設定
- ・詳細設定：SNMP の詳細な機能を設定

■コミュニティ (R/Only)

読取り専用のコミュニティ名を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [1:コミュニティ (R/Only)]



項目を選択して設定します。

- ・コミュニティ名
コミュニティ名を最大 16 文字までの英数字で指定します。
このコミュニティ名によって許可される動作は、"Read-Only" (読取り専用) です。GET、GET-NEXT リクエストは、このコミュニティ名の中でサポートされます。このコミュニティ名で SET リクエストされた場合、authentication trap を送信します。
- ・マネージャ IP アドレス
[コミュニティ名] で設定したコミュニティ名で使用を許可する SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。
「000.000.000.000」の IP アドレスを設定した場合、全ての SNMP マネージャ上でこのコミュニティ名の使用が許可されます。

■コミュニティ (R/W)

読み書き用のコミュニティ名を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [2:コミュニティ (R/W)]

項目を選択して設定します。

・コミュニティ名

コミュニティ名を最大 16 文字までの英数字で指定します。

このコミュニティ名によって許可される動作は"Read-Write" (読み書き) です。GET、GET-NEXT、SET リクエストは、このコミュニティ名の中でサポートされます。

・マネージャ IP アドレス

[コミュニティ名] で設定したコミュニティ名で使用を許可する SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。

「000.000.000.000」の IP アドレスを設定した場合、全ての SNMP マネージャ上でこのコミュニティ名の使用が許可されます。

■Trap

Trap 用のコミュニティ名を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [3:Trap]

項目を選択して設定します。

・コミュニティ名

Trap 用のコミュニティ名を設定します。コミュニティ名は最大 16 文字までの英数字で指定します。

・マネージャ IP アドレス

Trap の送信先である SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。「000.000.000.000」の IP アドレスを設定した場合、Trap を送信しません。

■ 詳細設定

SNMP の詳細な機能を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [5:SNMP] → [4:詳細設定]

< 詳細設定 >

- 1: 認証トラップ
- 送信する
- 2: エージェントポート番号 [00161]
- 3: Trapポート番号 [00162]
- 4: Trap再送回数 [1]

項目を選択して設定します。

・ 認証トラップ

「1：コミュニティ (R/Only)」 「2：コミュニティ (R/W)」 で設定したコミュニティ名およびマネージャ IP アドレス以外からのアクセスを認識した時に authentication trap を「送信する」または「送信しない」を設定します。

この Trap は、「2：マネージャ IP アドレス」で設定された SNMP マネージャに送信されます。

・ エージェントポート番号

SNMP マネージャと通信するポート番号を設定します。

出荷時設定は SNMP のウェルノウンポート番号である 161 番 (00161) に設定されています。

・ Trap ポート番号

トラップを送信するポート番号です。ウェルノウンポートは 162 番です。

・ Trap 再送回数

Trap を再送する回数を指定します。

●SNMP について

- 本製品は、「WebGlider 統合サーバ」(WGS-001) に含まれている「ネットワーク管理ツール」を使用して管理することができます。
- SNMP-PDU (Protocol Data Unit) は SNMPv1 に準拠しています。
- 本製品では、次の各種 MIB グループのオブジェクトを管理しています。

| | |
|---------------------|-----------------------|
| [1.3.6.1.2.1.1] | MIB2-System |
| [1.3.6.1.2.1.2] | MIB2-Interfaces |
| [1.3.6.1.2.1.4] | MIB2-IP |
| [1.3.6.1.2.1.5] | MIB2-ICMP |
| [1.3.6.1.2.1.6] | MIB2-TCP |
| [1.3.6.1.2.1.7] | MIB2-UDP |
| [1.3.6.1.2.1.11] | MIB2-SNMP |
| [1.3.6.1.4.1.12392] | Welcat Enterprise MIB |

Welcat Enterprise MIB は、ASN.1 フォーマットで記述されています。

Welcat Enterprise MIB は、「WebGlider 統合サーバ」に同梱されています（詳細は弊社営業までお問合せください）。

- サポートするトラップ

| トラップ | 説明 |
|----------------|---|
| Cold Start | MIB がイニシャライズされた後の通信開始時に送信されます。MIB は、電源 ON 時にイニシャライズされます。ただし、レジュームから復帰する時はイニシャライズされません。 |
| Warm Start | Cold Start 以外の通信開始時に送信されます。 ^{※1} |
| Link up | 本製品がアクセスポイントに同期した時に送信されます。ただし、最初にアクセスポイントと同期した時（ColdStart、Warm Start を送信する時）は、Link up を送信しません。また、本製品がアクセスポイントの通信圏外から圏内に入り同期した時、あるいはローミングによって新たなアクセスポイントに同期した時に送信されます（シグナル SIGRFU_INSYNCR と同じタイミング）。 |
| Link down | 通信終了時に送信されます。ただし、圏外にいる時は送信されません。 |
| Authentication | 第三者が無効なコミュニティで本製品にアクセスを試みた時に、システムメニューの「Trap-マネージャ IP アドレス」（P. 141）で設定した IP アドレスにこのトラップが送信されます。ただし、システムメニューの「Trap-認証 Trap」（P.142）で「送信する」を設定した時のみ送信されます。 |

^{※1} MIB に該当する設定（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等）を変更しても MIB はイニシャライズされませんので、Cold Start ではなく Warm Start が送信されます。MIB をイニシャライズする場合は本体を再起動してください。

4-6 受信：ファイルの受信

4-6-1 受信：WLAN/Bluetooth/赤外線 (IrDA) 通信でファイルを受信

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください（受信したファイルは全て F ドライブに保存されます）。

●WLAN 通信を使用する場合

- 本製品とアクセスポイントの通信設定（IP アドレス、SSID、セキュリティ設定等）が正しく設定されている
- アクセスポイントとパソコンの電源が入っている
- アクセスポイントとパソコンが正しく設定、接続されている
- アクセスポイントが正常に動作している
- パソコン側で「WebGlider 統合サーバ」（WGS-001）に含まれている「ネットワーク管理ツール」の FTP サーバが起動している
- 本製品の FTP 設定（ホスト名、ユーザ名等）が正しく設定されている

●Bluetooth 通信を使用する場合

- パソコンの電源が入っている
- パソコンに Bluetooth 通信アダプタが正しく挿入されている
- BluePorter-V（WLF-003：別売）が起動している
- BluetoothManager を ON にし、パソコンのタスクトレイに表示されている BluetoothManager のアイコンが白になっている



- 本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンが登録されている（「4-9-3 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」（P. [169](#)）参照）

●赤外線（IrDA）通信を使用する場合

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。

■送信側がパソコンの場合

- ・パソコンの電源が入っている
- ・パソコンで「BluePorter-V」（WLF-003：別売）が起動している
- ・本製品を USB 通信ユニットにセットし、赤外線通信を有効にする（「3-4 赤外線（IrDA）通信環境の構築」（P. 81）参照）。

■送信側が XIT-2xx シリーズの場合

- ・「待受け（HT）」で送信可能にする
- ・「3-4 赤外線（IrDA）通信環境の構築」（P. 81）の本体間通信を参照して通信する

注意

ファイル受信中はバッテリーカバーが外れないように注意してください。万一、バッテリーカバーが外れて警告表示が出た場合は、電源を入れ直してから受信し直してください。

操作手順

[システムメニュー] → [4:受信]

受信のための通信手段を選択します。



受信方法を選択します。

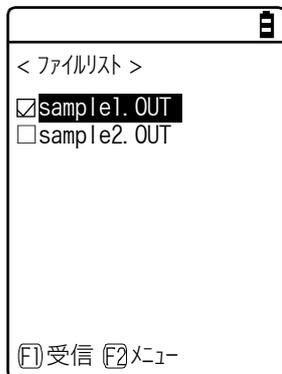
- ・ WLAN
- ・ Bluetooth
- ・ IrDA

■ファイルの受信 (WLAN)

操作手順

[システムメニュー] → [4:受信] → [1:WLAN]

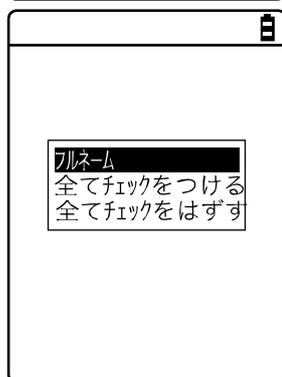
① ファイルリストを取得し、受信するファイルを選択します。



受信するファイルをチェックします。

【F1】キーを押すと受信確認ダイアログが表示されます。この際、チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルを受信します。

[はい] / [いいえ] を選択します。

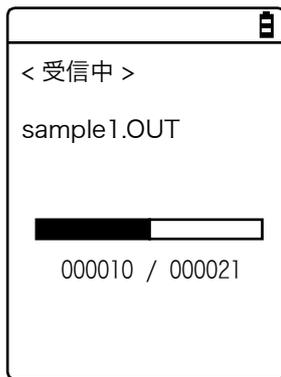


【F2】キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表示されます。

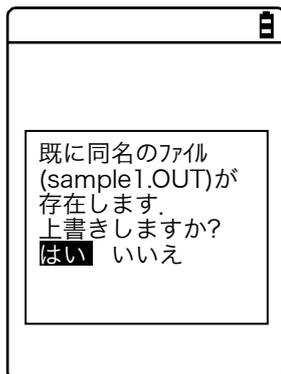
必要に応じて設定します。

- ・フルネーム
選択中のファイル名の全体を表示します。
- ・全てチェックをつける
ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
- ・全てチェックをはずす
ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。

② 受信が開始されます。



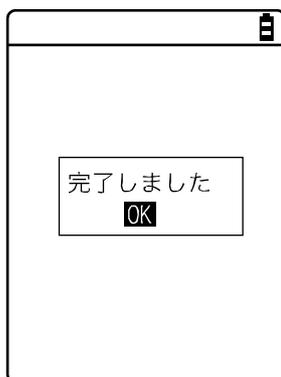
受信状況が画面に表示されます。



受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

③ 受信を完了します。



受信が完了すると、メッセージボックス内に「(受信成功数/チェック数)」が表示されます。

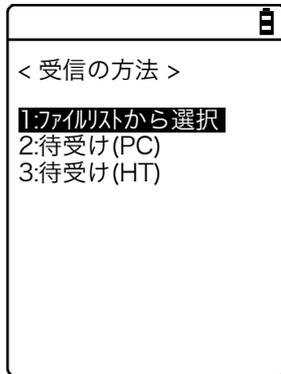
【ENT】キーを押します。

■ファイルの受信 (Bluetooth/IrDA)

操作手順

[システムメニュー] → [4:受信] → [2:Bluetooth] / [3:IrDA]

① 受信方法を選択します。

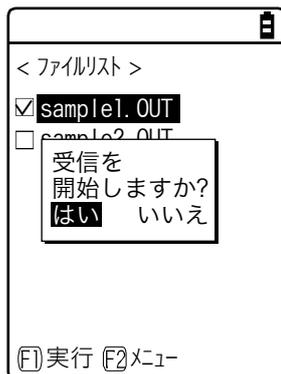


「1:ファイルリストから選択」を選択すると、送信側からファイルリストを取得します。受信側はそのリストから受信したいファイルを選択することができます。→手順②

「2:待受け (PC)」「3:待受け (HT)」を選択すると直ちに受信待機状態になります。送信側がパソコンなら「2:待受け (PC)」を、XIT-2xx なら「3:待受け (HT)」を選択します。受信するファイルは送信側に依存します。→手順③

※「待受け (PC)」は、Bluetooth 通信により、BluePorter でご使用頂ける機能です。BluePorter-V をご使用のユーザは使用できません。

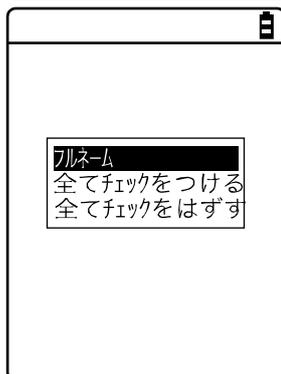
② 受信するファイルを選択します。



受信するファイルをチェックして、【F1】キーを押します。

受信確認ダイアログが表示されます。チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルを受信します。

[はい] / [いいえ] を選択します。



【F2】キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

- ・フルネーム

選択中のファイル名の全体を表示します。

- ・全てチェックをつける

ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。

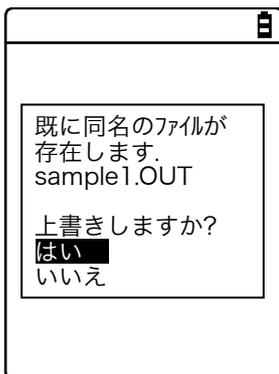
- ・全てチェックをはずす

ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。

③ 受信が開始されます。



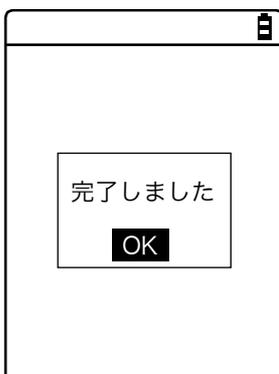
受信状況が画面に表示されます。



受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

④ 受信を完了します。



受信が完了すると、メッセージボックス内に「(受信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】キーを押します。

4-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など

目的のファイルを探し、実行、送信、削除などの各種操作ができます。

各ドライブのファイル種類ごとに分類されたリストから、操作するファイルを選択します。ファイルの種類は拡張子（ファイル名のピリオドに続く3文字）により決定され、次のように分類されます。

| ファイルの種類 | 拡張子 |
|-------------|------------------|
| アプリケーションソフト | OUT |
| 画像データ | BMP、JPG、JPEG、PNG |
| 音声データ | WAV、SFL |
| データ | それ以外 |

可能な操作は次の通りです。特定のファイルの種類に関連付けられた操作と、全てのファイルで有効な操作があります。

| 操作 | 説明 |
|------------------|--|
| 実行 ^{*1} | アプリケーションソフトを起動します。ファイルの種類が「アプリケーション」のファイルのみ操作可能です。 |
| 閲覧 ^{*2} | 画像データを表示します。 |
| 再生 ^{*3} | 音声ファイルを再生します。ファイルの種類が『音声』のファイルのみ操作可能です。 |
| 情報 | ファイルに関する各種情報を表示します。 |
| 送信 | ファイルを送信します。 |
| 削除 | ファイルを削除します。 |
| 全てチェックをつける | ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。 |
| 全てチェックをはずす | ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。 |
| Fにコピー | Fドライブにコピーします。 |
| Sにコピー | Sドライブにコピーします。 |
| R (microSD) にコピー | Rドライブ (microSD) にコピーします。 |

^{*1} Sドライブのファイルは操作できません。

※² サポートする画像データは次の通りです。

| | |
|--------|---|
| フォーマット | BMP、JPG、JPEG、PNG |
| サイズ | 最大 480×640 ピクセル (表示エリア：240×296 ピクセル) |

※³ サポートする音声データは次の通りです。

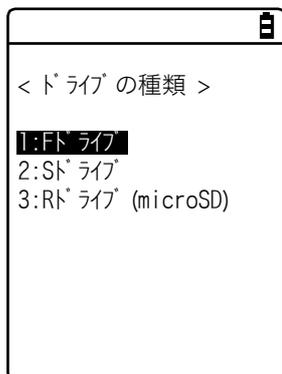
| | |
|----------------|---|
| 拡張子 | WAV |
| フォーマット | Windows 標準 WAVE フォーマット |
| オーディオサンプリングレート | 8000/11025/16000/22050/44100/48000 [Hz] |
| チャンネル | モノラル |
| オーディオサンプルサイズ | 16bit |
| オーディオ形式 | PCM |

| | |
|--------|--|
| 拡張子 | SFL |
| フォーマット | 音声ファイルリスト (テキスト形式) |
| 最大列挙数 | 32 |
| 解説 | <p>SFL ファイルを使用すると、複数の音声ファイルを連続で再生することができます。</p> <p>ファイルリストにはファイル名を改行区切りで列挙していきます。最大で 32 個までファイル名を列挙することができます。</p> <p>列挙した音声ファイルは事前に本体に格納されていなければなりません。</p> <p>ファイルリスト内に書かれているファイル名は全て一回のみ再生します。</p> <p>再生途中でエラーが発生した場合は、以降の音声ファイルの再生を行いません。</p> <p>SFL ファイル内に他の SFL ファイルを列挙することはできません。</p> |
| 記述例 | <p>ALARM_MELODY.WAV (改行)</p> <p>LOCATION_3F_2.WAV (改行)</p> <p>SHIP_ERROR.WAV</p> |

操作手順

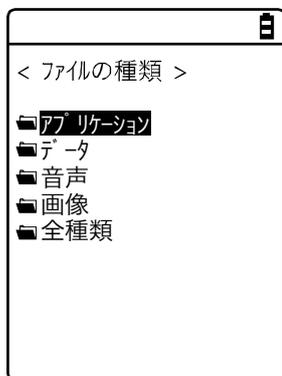
[システムメニュー] → [5:ファイル]

① ドライブを選択します。



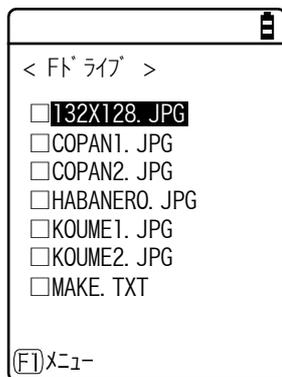
操作対象のドライブを選択します。

② ファイルの種類を選択します (Rドライブ以外の場合)。



操作対象のファイルの種類を選択します。「全種類」を選択すると、ファイルの種類に関係なく、ドライブに保存されている全ファイルが対象となります。

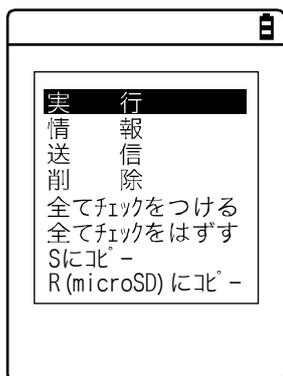
③ 操作するファイルをチェックします。



ファイルを選択して【ENT】キーを押すと、チェックボックスのチェックをつけたり外したりすることができます。

チェックされたファイルが対象になる操作と、選択されたファイルが対象になる操作があります。

④ ファイルを操作します。



(Fドライブ選択時の
表示画面です)

【F1】キーを押すと、ファイル操作のサブメニューが表示されます。

(注) 選択するファイルにより、以下のサブメニューの項目は異なります。

- ・実行：アプリケーションソフトを実行します。
- ・再生：音声データを再生します。
- ・閲覧：画像データを表示します。
- ・情報：ファイル詳細情報を表示します。
- ・送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信します。
- ・削除：ファイルを削除します。
- ・全てチェックをつける：全てのファイルを選択します。
- ・全てチェックをはずす：全てのファイルの選択を外します。
- ・Sにコピー：Sドライブにコピーします。
- ・R(microSD)にコピー：Rドライブにコピーします。

注意

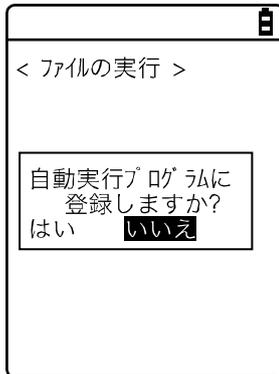
選択したドライブにより、コピーできるドライブの表示が異なります。選択したドライブにコピーすることはできません。

■実行：アプリケーションソフトの実行

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → [アプリケーション] → アプリケーションを選択 → [F1 メニュー] → [実行]

選択したファイルを実行します。



選択中（反転表示）のファイルが実行されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

【ENT】キーを押すと実行されます。

実行するアプリケーションソフトが自動実行に登録されていない場合、登録を確認するダイアログが表示されます。

実行されたアプリケーションソフトを終了するには、アプリケーションソフトごとに定められた操作を行ってください。終了後にシステムメニューが再度表示されるか、本体の電源を OFF にするかはアプリケーションソフトに依存します。

動作中にバッテリーパック残量がなくなった時は、アラーム表示後に本体の電源が OFF になります。

アプリケーションソフトを強制的に終了したい場合は、アプリケーションソフトの動作中に【PW】キーを 10 秒間押し続けてください。

■再生：音声データの再生

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → [音声] → ファイルを選択 → [F1 メニュー] → [再生]

音声データを再生します。



選択中の音声ファイルが再生されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

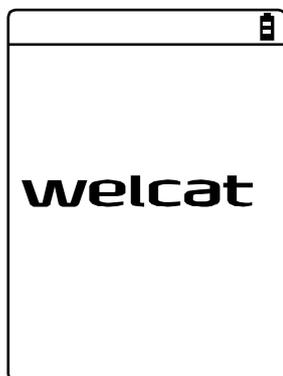
【C】キーを押すと再生を中止します。

■ 閲覧：画像データの表示

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → [画像] → [F1 メニュー] → [閲覧]

画像データを表示して確認します。



選択中（反転表示）のファイルの画像が表示されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

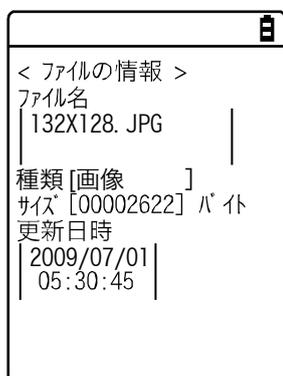
いずれかのキーを押すと「ファイル操作メニュー」に戻ります。

■ 情報：ファイル詳細情報を表示

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [情報]

ファイルの詳細な情報を確認します。



次の情報が表示されます。

- ・ ファイル名
- ・ ファイル種類
- ・ サイズ
- ・ 更新日時

選択中（反転表示）のファイルに関する情報が表示されます（チェックボックスのチェック状態とは関係ありません）。

何かキーを押すと<ファイル>画面に戻ります。

■送信：ファイルをパソコンや他の端末に送信

送信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。

●WLAN 通信を使用する場合

- 本製品とアクセスポイントの通信設定（IP アドレス、SSID、セキュリティ設定等）が正しく設定されている
- アクセスポイントとパソコンの電源が入っている
- アクセスポイントとパソコンが正しく設定、接続されている
- アクセスポイントが正常に動作している
- パソコン側でFTPサーバが起動している
- 本製品のFTP設定（ホスト名、ユーザ名等）が正しく設定されている

●Bluetooth 通信を使用する場合

- パソコンの電源が入っている
- パソコンにBluetooth通信アダプタが正しく挿入されている
- BluePorter-V が起動している
- BluetoothManager をONにし、パソコンのタスクトレイに表示されている
- BluetoothManager のアイコンが白になっている



- 本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンが登録されている

●赤外線 (IrDA) 通信を使用する場合

■送信側がパソコンの場合

- パソコンの電源を入れます。
- パソコンで「BluePorter-V」(WLF-003：別売)を起動します。
- 本製品をUSB通信ユニットにセットし、赤外線通信の準備をします。

■送信側がXIT-2xxシリーズの場合

- 「待受け (HT)」で送信可能になります。
(BluePorter-V の設定については『ファイル転送ユーティリティ BluePorter-V 運用ガイド』の「3-2 BluePorter-V の設定」を参照)

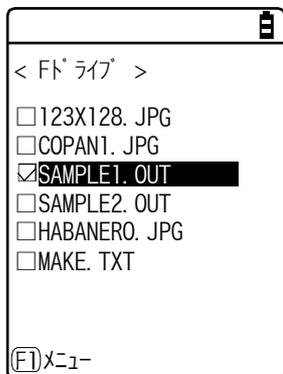
注意

ファイル送信中はバッテリーカバーが外れないように注意してください。万一、バッテリーカバーが外れて警告表示が出た場合は、電源を入れ直してから送信し直してください。

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [送信]

① チェックされているファイルが送信されます。



送信するファイルを選択して、チェックします。

チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルが送信されず。

【F1】キーを押して、[送信]を選択して【ENT】キーを押します。

② 送信方式を選択します。



送信方式を選択します。

- ・ WLAN
- ・ Bluetooth
- ・ IrDA

③ 送信が開始されます。



送信状況が画面に表示されます。

④ 送信を完了します。



送信が完了すると、「(送信成功数/チェック数)」と完了メッセージが表示されます。

【ENT】キーを押します。

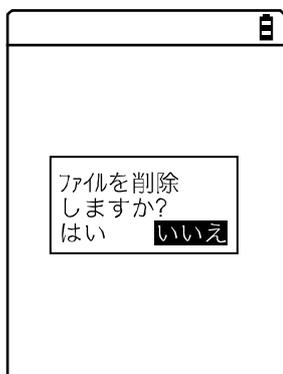
■ 削除：ファイルを削除

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [削除]

チェックされているファイルを削除します。

ただし、チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中（反転表示）のファイルが削除されます。



確認ダイアログが表示されます。

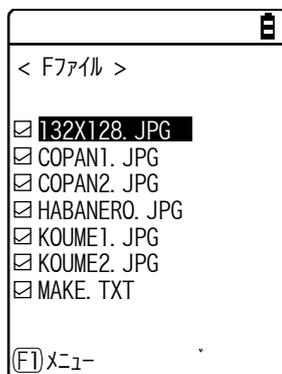
【はい】 / 【いいえ】 を選択します。

■ 全てチェックをつける：全てのファイルを選択

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [全てチェックをつける]

全てのチェックボックスがチェックされます。

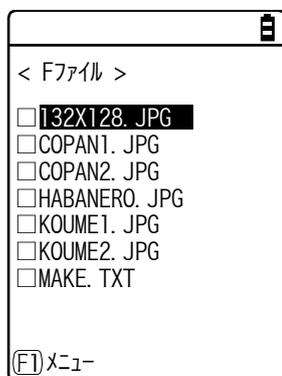


■ 全てチェックをはずす：全てのファイルの選択を外す

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] → ドライブを選択 → ファイルの種類を選択 → [F1 メニュー] → [全てチェックをはずす]

全てのチェックボックスのチェックを外します。

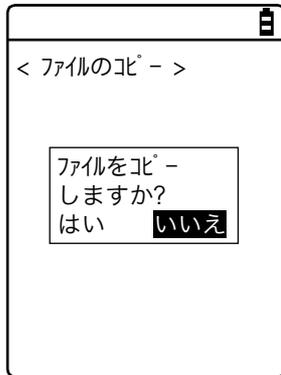


■指定したドライブにコピー

操作手順

[システムメニュー] → [5:ファイル] →ドライブを選択→ファイルの種類を選択→
[F1 メニュー] →コピー先のドライブを選択

指定したドライブにコピーします。



確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

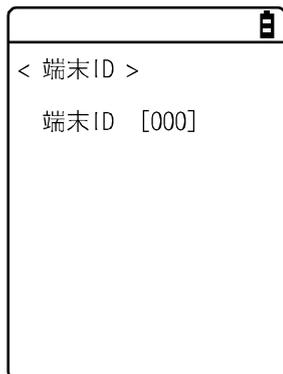
4-8 端末 ID : 端末識別用 ID を設定

個々の本製品に識別用の ID 番号を設定します。端末ごとに固有の番号を設定してください。

操作手順

[システムメニュー] → [6:端末 ID]

端末固有の識別 ID 番号を設定します。



< 端末 ID >
端末 ID [000]

入力可能な ID は 000～999 です。

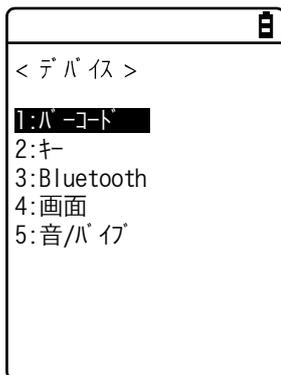
4-9 デバイス：ハードウェアの機能を設定

バーコードスキャナやキーなどのハードウェアデバイスを設定します。デバイスカテゴリ内は、デバイスの種類ごとに分類されています。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス]

設定するハードウェアデバイスを選択します。



設定する項目を選択します。

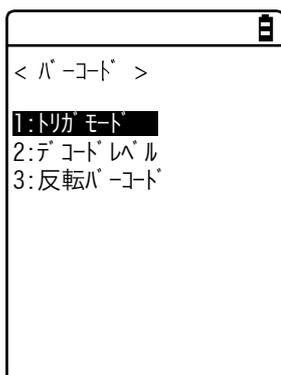
- ・バーコード：バーコードスキャナの設定 (P.[162](#))
- ・キー：キーの動作設定 (P.[167](#))
- ・Bluetooth：Bluetooth の登録設定 (P.[169](#))
- ・画面：バックライトの輝度 (P.[177](#))
- ・音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定 (P.[178](#))

4-9-1 バーコード：バーコードスキャナの設定

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [1:バーコード]

設定するバーコードスキャナの機能を選択します。



次の項目から選択します。

- ・トリガモード：レーザスキャナのレーザ照射時間の設定
- ・デコードレベル：バーコードの読取り許容範囲の設定
- ・反転バーコード：白黒反転バーコードの読取り設定

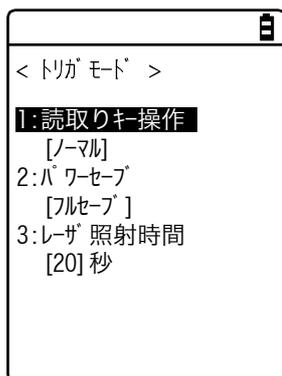
■トリガモード

レーザスキャナのレーザ照射時間を設定します。

この設定は、バーコードの読取りに「トリガモード」を使用しているアプリケーションソフトでのみ有効です。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [1:バーコード] → [1:トリガモード]



① [読取りキー操作] を選択します。



読取りキーの操作とレーザの照射パターンを設定します。バーコードはレーザが照射（点灯）されている状態で読取ることができます。

- ・ ノーマル
読取りキーを押すとレーザが照射します。
- ・ ダブル
読取りキーを押すとレーザが点滅します。もう一度押すとレーザが照射します。
- ・ リリース
読取りキーを押すとレーザが点滅し、読取りキーを離すとレーザが照射します。
- ・ オート
読取りキーの操作に関係なく自動的にレーザを照射します。

② [パワーセーブ] を選択します。



読取り時の消費電力を抑えるための設定をします。

・フルセーブ

バーコードを読取るとレーザを自動的に消し、スキャナ部への電源の供給も停止します。消費電力は小さくなりますが、次の読取りまでに時間がかかります。

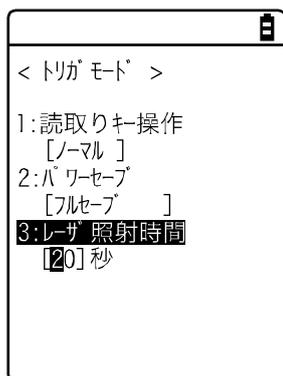
・クイックセーブ

バーコードを読取るとレーザを自動的に消しますが、スキャナ部へは電源を供給し続けます。フルセーブに比べて消費電力は若干大きくなりますが、次の読取りまではスムーズに行えます。

・ノーセーブ

パワーセーブモードを使用しません。

③ [レーザ照射時間] を選択します。



自動的にレーザを消すまでの時間を設定します。

設定可能な時間は 00～60 秒です。

00 秒に設定するとレーザは消えずに照射したままとなります。

■デコードレベル

バーコードの読取許容範囲を設定します。

デコードレベル値を上げると、品質の悪いバーコードが読みにくくなりますが、誤読を防ぐことができます。

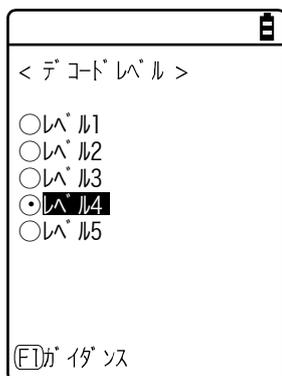
デコードレベル値を下げると、品質の悪いバーコードも読めるようになりますが、誤読する可能性が高くなります。

注意

デコードレベル値をレベル3以下に設定する場合は、必ずチェックデジットのチェックや、桁数チェック、データチェック等のソフトウェア上のチェックをするようにして下さい。

操作手順

【システムメニュー】 → 【7:デバイス】 → 【1:バーコード】 → 【2:デコードレベル】

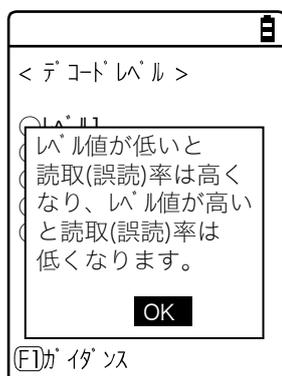


「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」、「レベル4」、「レベル5」から選択します。

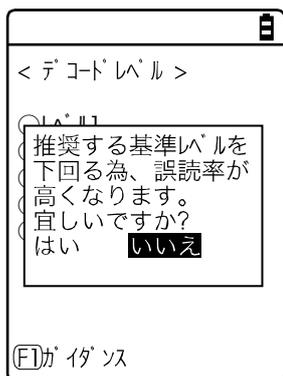
出荷時の設定は、レベル4となります。

レベル値と読取（誤読）率の関係は次の通りです。

| レベル値 | 読取（誤読）率 |
|------|-------------|
| レベル1 | 緩い（誤読しやすい） |
| レベル2 | ↕ |
| レベル3 | |
| レベル4 | |
| レベル5 | 厳しい（誤読しにくい） |



【F1】キーを押すと設定値に関するガイダンスが表示されます。



レベル1～レベル3のいずれかを設定しようとした場合、誤読に関する注意ガイダンスが表示されます。

[はい] または [いいえ] を選択します。

■反転バーコード

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [1:バーコード] → [3:反転バーコード]



反転バーコードの読取り設定をします。

・禁止

バーが黒、スペースが白のバーコードを読取ります。

・許可

バーとスペースの白黒が反転したバーコードを読取ります。

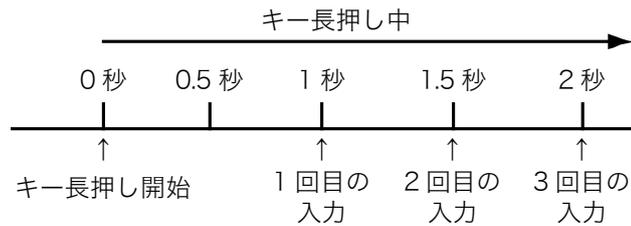
4-9-2 キー

■キーリピートの設定

方向（【↑】【↓】【←】【→】）キーを長押しすると、押されている間その方向キーを繰返し入力することができます。

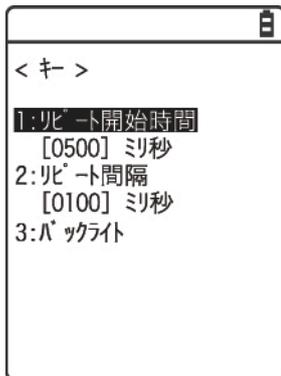
ここでは長押し開始から最初に繰返し入力が発生するまでの時間（リピート開始時間）と、以降繰返し入力が発生するまでの時間（リピート間隔）を設定します。

（例）リピート開始時間を1秒、リピート間隔を500ミリ秒に設定した場合



操作手順

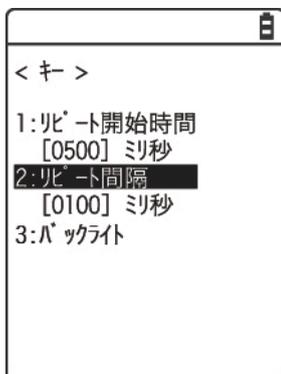
[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:キー] → [1:リピート開始時間]



設定可能な時間は 0100～1000 ミリ秒です。

0000 ミリ秒に設定すると繰返し入力は禁止されます。

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:キー] → [2:リピート間隔]



設定可能な時間は 0100～1000 ミリ秒です。

0000 ミリ秒に設定すると繰返し入力は禁止されます。

■キーバックライトの設定

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [2:キー] → [3:バックライト]



キーバックライトの設定をします。

- ・自動
周囲の明るさに応じてキーバックライトを点灯します。
- ・無効
キーバックライトを点灯しません。

4-9-3 Bluetooth：Bluetoothの登録設定

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:Bluetooth]

設定対象を選択します。



- ・ローカルデバイス：本製品の設定
- ・リモートデバイス：本製品と接続するデバイスの設定

■ローカルデバイス

本製品のBDアドレスを表示します。

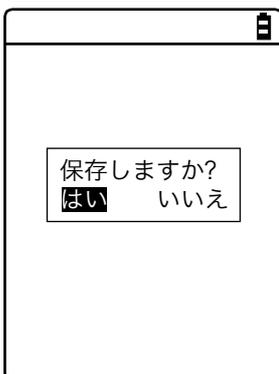
操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:Bluetooth] → [1:ローカルデバイス]



次の内容を設定します。

- ・デバイス名
 - ・セキュリティ
- 「BDアドレス」は固定のため、設定内容を変更できません。

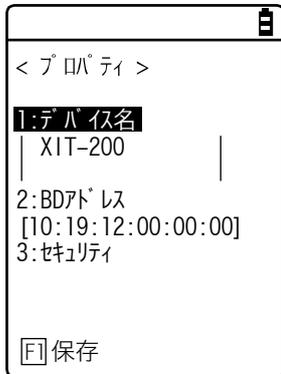


各項目で設定した内容はそのままでは保存されません。設定内容を保存するには、本画面で【F1】キーまたは【C】キーを押し、確認ダイアログで [はい] を選択します。

参考

ローカルデバイスの設定中のみ、リモートデバイスからの検索を受付けます。それ以外では検索を受付けません。

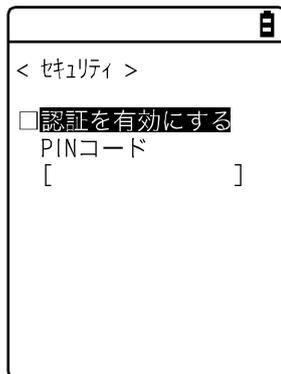
① [デバイス名] を選択します。



Bluetooth デバイスの名前を入力します。

デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

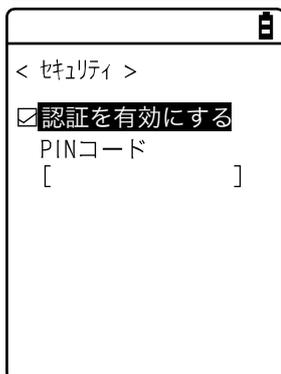
② [セキュリティ] を選択します。



接続時の認証に関する設定をします。

チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバイスから接続要求を受けた場合に認証を行います。

認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。



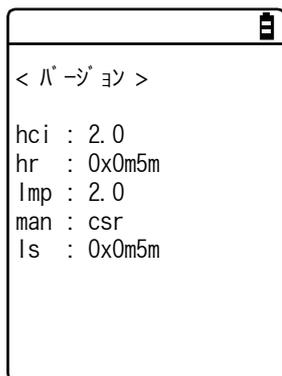
PIN コードを設定します。

PIN (Personal Identification Number) コードは認証の際に使用するパスワードです。

大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。

セキュリティ対策として、入力後の PIN コードは伏字 (*) に変換されて表示されます。

③ [バージョン] を選択します。



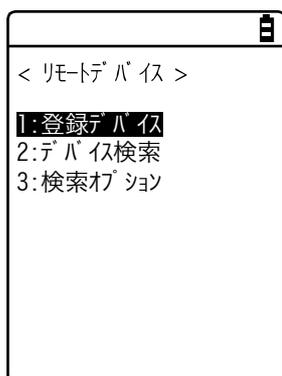
内蔵されている Bluetooth デバイスのファームウェアバージョンを確認します。

■ リモートデバイス

本製品と接続するデバイス（リモートデバイス）に関する設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]



- ・登録デバイス：リモートデバイス情報の登録
- ・デバイス検索：周辺のリモートデバイスを検索
- ・検索オプション：デバイス検索で検索するデバイスの台数設定

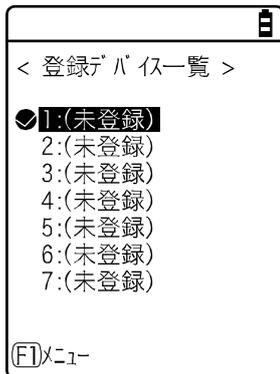
●登録デバイス

接続先のリモートデバイス情報を最大 7 件まで登録できます。あらかじめ登録しておけば、接続のたびにデバイス情報を設定する必要はありません。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]
→ [1:登録デバイス]

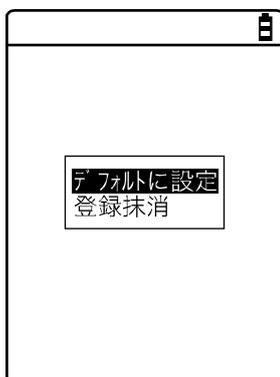
① 登録する項目番号を選択します。



項目番号を選択し、デバイス情報を順次設定します。

デバイス情報が登録済みの場合は項目番号の右側にデバイス名が表示されます。未登録の場合は項目番号の右側に [(未登録)] と表示されます (デバイス名が 1 文字以上で、かつ BD アドレスが「00:00:00:00:00:00」以外の場合に登録済みとして認識されます)。

項目番号の左側にチェックマークが表示されているデバイスはデフォルトデバイスです。システムメニューでは Bluetooth と接続する場合、デフォルトデバイスに接続します。

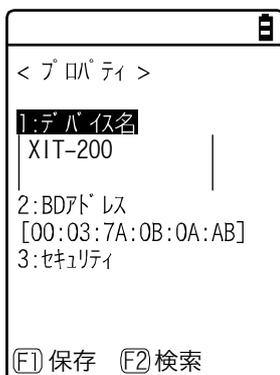


【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて次の設定をします。

- ・デフォルトに設定
選択中の登録デバイスをデフォルトデバイスに設定します。
- ・登録抹消
登録したデバイス情報を消去します。

② 設定する項目を選択します。



次の項目を設定し、【F1】キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

- ・デバイス名
- ・BD アドレス
- ・セキュリティ

- ③ [デバイス名] を選択します。

Bluetooth デバイスの名前を入力します。

項目を設定し、【F1】キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

- ④ [BD アドレス] を選択します。

BD アドレスを入力します。

項目を設定し、【F1】キーを押して [はい] を選択すると設定が保存されます。

BD アドレスはデバイス固有のハードウェアアドレスです。

16 進文字 (0~9、A~F) で 12 桁の固定長です。

- ⑤ [セキュリティ] を選択します。

接続時の認証の設定をします。

チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバイスから接続要求を受けた場合に認証します。

認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。

PIN コードを設定します。

PIN (Personal Identification Number) コードは認証の際に使用するパスワードです。

大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。

セキュリティ対策として、入力後の PIN コードは伏字 (*) に変換されて表示されます。

●デバイス検索

周辺のリモートデバイスを検索します。検出したリモートデバイスを登録デバイスとして設定することができます。

参考

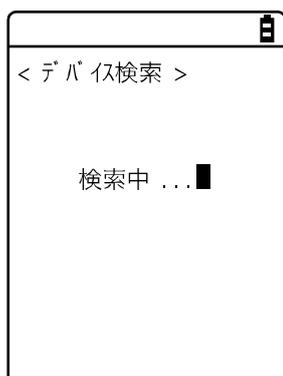
デバイス検索の対象に他の端末を含めたい場合は、対象となる端末を「ローカルデバイスの設定中」にしておく必要があります。

「ローカルデバイスの設定中」とは、ローカルデバイス設定の<プロパティ>画面の状態を指します。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]
→ [2:デバイス検索]

①検索が開始されます。



【C】 キーを押すと検索を中止します。

② 検索結果の一覧が表示されます。



検出したリモートデバイスのデバイス名の一覧が表示されます。

参考

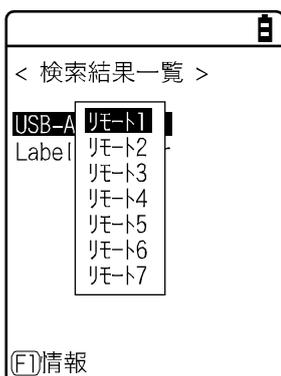
検出できるデバイス名は英数記号です。デバイス名にかな漢字を使用しないでください。



【F1】キーを押すと選択中のリモートデバイスのデバイス名、BD アドレスが表示されます。

【C】キーを押すと<検索結果一覧>画面に戻ります。

③ 検出したリモートデバイスを登録します。



登録するリモートデバイスを選択して【ENT】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

リモートデバイスを登録するリモート番号を選択すると登録されます。



既に登録済みのリモート番号を選択した場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

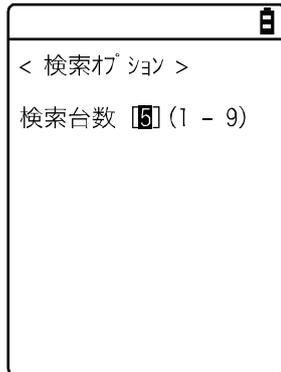
【はい】 / 【いいえ】 を選択します。

●検索オプション

デバイス検索で検出するリモートデバイスの台数の上限を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス]
→ [3:検索オプション]



検索台数を指定します。

設定可能な台数は 1～9 台です。

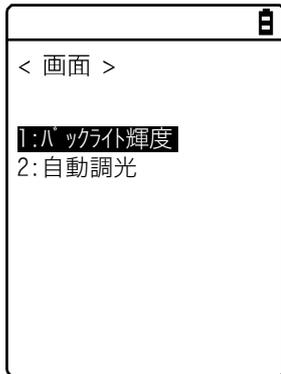
検索台数が多いほど、検索時間は長くなります。

4-9-4 画面/バックライト輝度の設定

バックライトの輝度を設定します。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [4:画面]



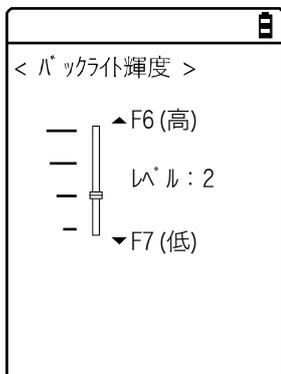
次の項目から選択します。

- ・バックライト輝度：バックライトの輝度調整
- ・自動調光：自動調光の設定

■バックライト輝度

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [4:画面] → [1:バックライト輝度]



【▲】キーで上に、【▼】キーで下にスライダーを移動し、【ENT】キーで輝度を設定します。

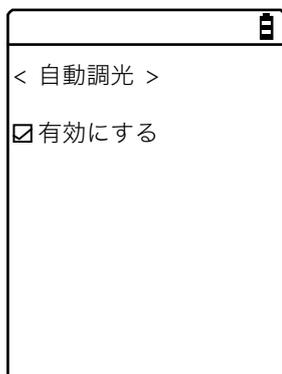
輝度は4段階で設定でき、スライダーを動かすとリアルタイムに変化します。

| レベル値 | 輝度 |
|------|-----|
| 高 | 明るい |
| ↓ | ↕ |
| 低 | 暗い |

■自動調光

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [4:画面] → [2:自動調光]



自動調光を有効にします。

自動調光が有効になるとバックライト輝度の設定が無効になります。

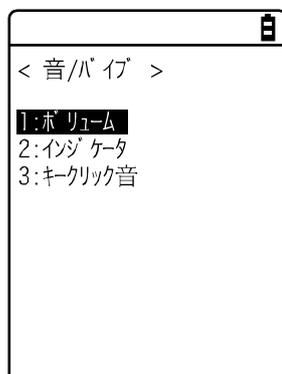
4-9-5 音/バイブ：音量・LED・バイブレータの設定

音、LED、バイブレータの設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [5:音/バイブ]

設定するデバイスを選択します。



次の項目から選択します。

- ・ボリューム
- ・インジケータ
- ・キークリック音

■ボリューム

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [5:音/バイブ] → [1:ボリューム]

ブザーの音量を調節します。



1～8の8段階に調節できます。

【▲】キーで上に、【▼】キーで下にスライダーを移動し、【ENT】キーでボリュームを設定します。

スライダーの上下に合わせて音量がリアルタイムで変化するので、レベル値の状態をその場で確認できます。

レベル値と音量の関係は次の通りです。

| レベル値 | 音量 |
|------|-----|
| 8 | 大きい |
| ↓ | ↑↓ |
| 1 | 小さい |

1に設定すると、消音になります。

■インジケータ

インジケータとは、作業者の注意を喚起する4つのデバイス（ブザー/音声/バイブレータ/LED）を組合せた総称です。

インジケータを使用すれば、作業者に対して現在の状況をより感覚的に知らせることができます。どのインジケータがどのような場面で使用されるかは、アプリケーションソフトごとに設定します。

キーを押す、確定するといった作業時の代表的なシーン5種類（キャンセル、確定、クリック、注意、エラー）と、お客様の任意のシーン（ユーザ）を1つ加えた合計6シーンが、それぞれ3パターンずつ用意されています。

なお、システムメニューは各シーンのパターン3のインジケータが適用されます。

例えば、

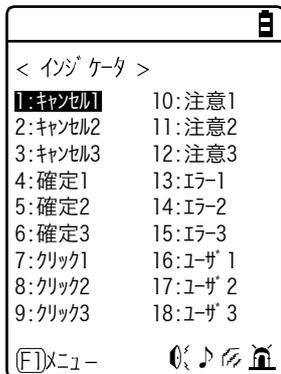
- 確定時は高音を短めに1回鳴らし、緑色のLEDを点灯させる
- エラー時はバイブレータを振動させながら低音を3回鳴らし、赤色のLEDを点滅させる

など、お客様の使用環境に合わせた様々な設定が可能です。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [5:音/パイプ] → [2:インジケータ]

① 設定するインジケータを選択します。



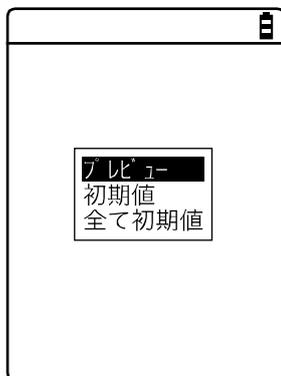
画面下部右下にインジケータの設定状況を示すアイコンが表示されます。

：ブザーが設定されています。

：音声を設定されています。

：パイプレータが設定されています。

：LED が設定されています。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

・プレビュー

現在のインジケータを実際に体感できます

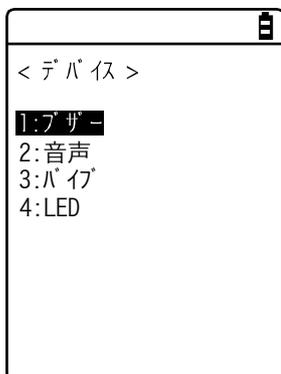
・初期値

選択されているパターンの設定内容を破棄し、初期値にします

・全て初期値

全シーンの全パターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

② 設定するデバイスを選択します。



手順①の画面で、設定する項目を選択した後、【ENT】キーを押すとデバイス名が表示されます。

設定するデバイスを選択して【ENT】キーを押します。

次項を参照して各デバイスの動作条件を設定します。

●デバイス動作条件の設定

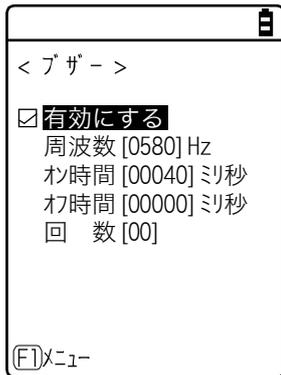
動作条件には全デバイスで共通なもの、デバイス独自のものがあります。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [5:音/バイブ] → [2:インジケータ]

→インジケータを選択→デバイスを選択

全デバイス共通の操作



チェックボックスでデバイスの動作を ON/OFF します。

チェックをするとデバイスが動作し、外すと他の設定に関わらずデバイスは動作しません。

本設定内容がアイコンとして表示されます。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

・プレビュー

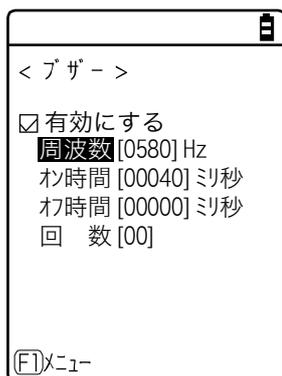
現在のインジケータを実際に体感できます。

・初期値

設定中のパターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

なお、画面下部左下に【F1】が表示されている場合、デバイスの動作条件全体を通じ操作手順は同じです。

ブザーの周波数設定 ([1:ブザー])

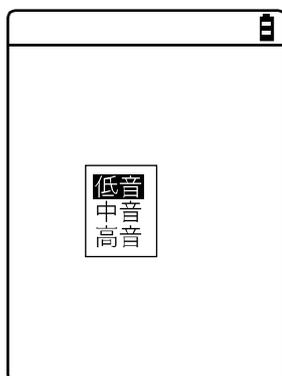


カーソルを [周波数] に移動して、【ENT】 キーを押します。
周波数の値にカーソルが移動します。

設定範囲は、245～9000Hz です。この周波数範囲内で、1Hz 単位で周波数を設定できます。スピーカの特性上、500～3000Hz で使用することをお奨めします。

カーソルを [オン時間]、[オフ時間] に移動して 【ENT】 キーを押し、ブザーの作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。

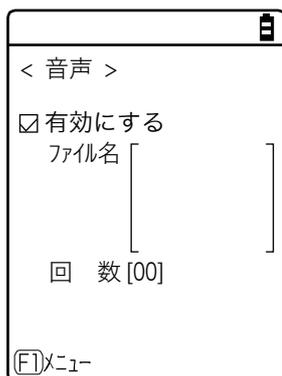
カーソルを [回数] に移動して 【ENT】 キーを押し、「オン時間ーオフ時間」で指定したブザー作動を繰り返す回数を指定します。



周波数入力中は画面下部左側のファンクションキーガイダンスの内容が変わります。

【F1】 キーを押すと、周波数サンプルのサブメニューが表示されます。サンプルを基準に数値の微調整を行うと、スムーズに設定できます。

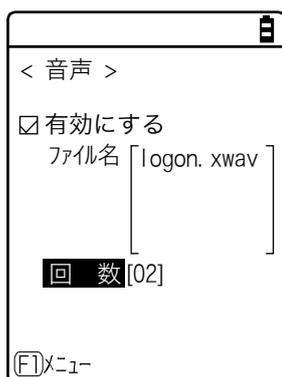
音声ファイルの設定 ([2:音声])



カーソルを [ファイル名] に移動して、【ENT】 キーを押します。

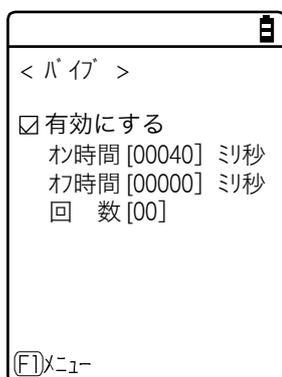


「ファイルの参照」画面で、再生する音声ファイルを選択します。



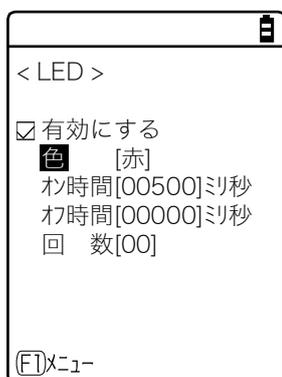
カーソルを [回数] に移動して、【ENT】キーを押します。
音声ファイルを再生する回数を指定します。

バイブレータの設定 ([3:パイプ])



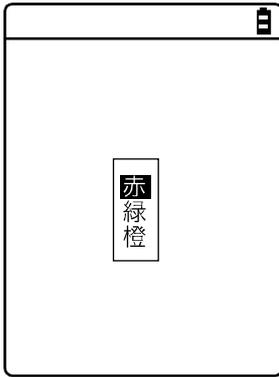
カーソルを [オン時間]、[オフ時間] に移動して【ENT】キーを押し、
バイブレータの作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。
カーソルを [回数] に移動して【ENT】キーを押し、「オン時間ーオフ
時間」で指定したバイブレータ作動を繰り返す回数を指定します。

LEDの色設定 ([4:LED])

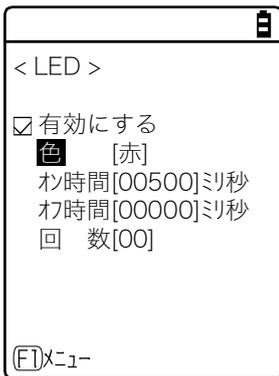


カーソルを [色] に移動して【ENT】キーを押します。

カーソルを [オン時間]、[オフ時間] に移動して【ENT】キーを押し、
LEDの作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。
カーソルを [回数] に移動して【ENT】キーを押し、「オン時間ーオフ
時間」で指定したLED作動を繰り返す回数を指定します。



サブメニューから色を選択します。



カーソルを [オン時間]、[オフ時間] に移動して【ENT】キーを押し、LED の作動時間、非作動時間をミリ秒単位で指定します。

カーソルを [回数] に移動して【ENT】キーを押し、「オン時間ーオフ時間」で指定した LED 作動を繰り返す回数を指定します。

■キークリック音

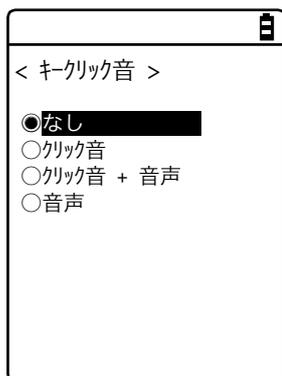
キーを押した時にクリック音を鳴らすかどうかを設定します。

クリック音はキーを押すと、すぐに再生されます。そのため、アプリケーションソフトやインジケータの音がクリック音で中断されます。タイミングによっては、その中断によって音が濁って聞こえることがあります。

操作手順

[システムメニュー] → [7:デバイス] → [5:音/バイブ] → [3:キークリック音]

キーを押した時に再生される音のパターンを選択します。



・なし（デフォルト）

キークリック音を鳴らしません。

・クリック音

全てのキーに対して、押した時に「ピッ」というビープ音を鳴らします。

・クリック音 + 音声

数字キーを押した時は音声で数字を読み上げます。他のキーを押した時はビープ音を鳴らします。

・音声

数字キーを押した時のみ音声で数字を読み上げます。他のキーを押した時は音を鳴らしません。

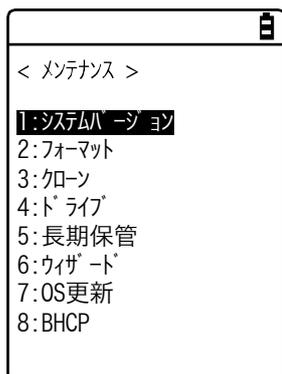
4-10 メンテナンス：基本情報とメンテナンスの設定

本製品の基本的な情報の確認、パフォーマンスの改善や保守などができます。

操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[8:メンテナンス\]](#)

メンテナンスする項目を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・システムバージョン：OSバージョンの確認 (P.[186](#))
- ・フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット (P.[187](#))
- ・クローン：複製の作成 (P.[189](#))
- ・ドライブ：ドライブ情報の表示 (P.[197](#))
- ・長期保管：長期間使用しない時の設定 (P.[198](#))
- ・ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動 (P.[199](#))
- ・OS更新：本製品のOSを更新 (P.[200](#))
- ・BHCP：BHCPの各種設定 (P.[201](#))

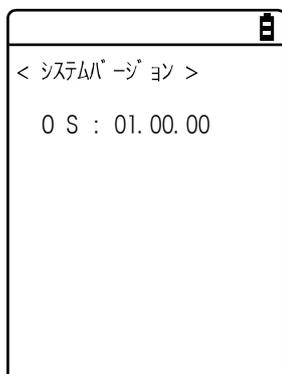
4-10-1 システムバージョン：OSバージョンの確認

インストールされているOSのバージョン情報を表示します。

操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[8:メンテナンス\]](#) → [\[1:システムバージョン\]](#)

OSのバージョンを確認します。



4-10-2 フォーマット：レジストリ/ドライブのフォーマット

レジストリやドライブをフォーマットします。

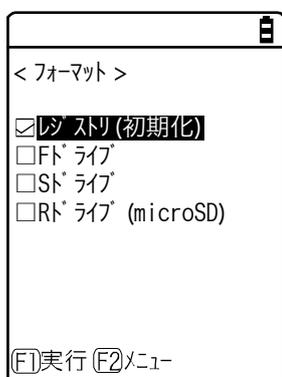
注意

フォーマットを実行すると設定した内容が出荷時の状態に戻り、ファイルが全て消去されます。フォーマットを実行する時はこの点を十分にご理解の上、細心の注意を払ってください。

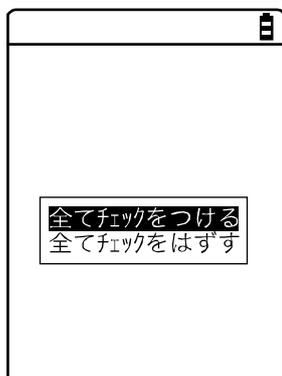
操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [2:フォーマット]

① フォーマットする項目を選択します。

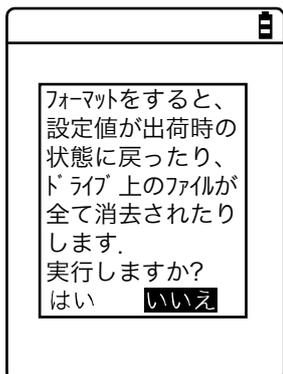


フォーマットする項目にチェックをつけます。
1つもチェックされていない場合は実行できません。

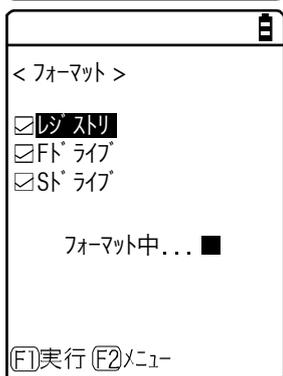


【F2】 キーを押すとサブメニューが表示されます。
・全てチェックをつける
チェックボックスを全てチェックします。
・全てチェックをはずす
チェックボックスから全てチェックを外します。

② フォーマットを開始します。



【F1】キーを押すと実行確認ダイアログが表示されます。
[はい] / [いいえ] を選択します。



チェックされた項目が順番にフォーマットされます。

③ フォーマットを完了します。



【ENT】キーを押してフォーマットを完了します。
レジストリを初期化した場合は電源がOFFになります。

4-10-3 クローン：複製の作成

本製品のシステムメニューで設定されたパラメータや、Fドライブに保存されたファイルを、別のXIT-2xxにコピーし、同じ設定とファイルを持った端末を作成します。

注意

- ・Sドライブに保存されたファイルはコピーされません。
- ・OSバージョン01.01.02以前の端末と、01.02.00以降の端末では、クローンができません。同じOSバージョンの端末で、クローンをしてください。
- ・XIT-100シリーズでお使いの設定を、XIT-2xxシリーズにクローンすることはできません。

■クローン実行の手順

クローンは、Bluetooth通信、赤外線通信（IrDA）通信、microSDカードにより実行できます。

①事前設定

<Bluetooth通信の場合>

マスター端末となる機器のリモートデバイスとしてコピー端末を登録します。

「**■**リモートデバイス」(P. 171) を参照してください。

<赤外線通信（IrDA）/microSDカードの場合>

事前設定は必要ありません。

②マスター端末でクローン（コピー）する項目を選択します。

③コピー端末を初期化します。

④コピー端末側の準備が完了していることを確認した後、マスター端末でクローン実行を行います。

⑤マスター端末側でクローン完了が表示されたことを確認します。

⑥コピー端末側の確認ダイアログを終了し、電源をOFFして完了します。



Bluetooth通信および赤外線通信（IrDA）については、「第3章 通信環境の設定」(P.65) を参照してください。

クローンを実行する時は次のことを十分にご理解の上、細心の注意を払って実行してください。

注意

- ・ Bluetooth 通信で電波状態が悪い場合や、赤外線通信（IrDA）で外乱光などの周囲環境が悪い場合、コピーが正常に行われない場合でも、マスター側で「完了しました」表示が出る場合があります。
- ・ コピー端末は、マスター端末から受信する前に端末内が初期化されます。そのためクローンに失敗した場合、設定値が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去されたりします。
- ・ コピー端末は最初に初期化を実行するため、クローン可能な状態になるまでにしばらく時間がかかる場合があります。

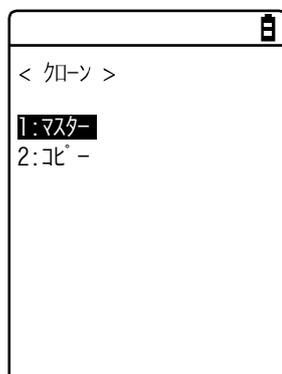
Bluetooth/IrDA の場合**操作手順**

[\[システムメニュー\]](#) → [\[8:メンテナンス\]](#) → [\[3:クローン\]](#)

① 通信手段を選択します。

Bluetooth または IrDA（赤外線）から選択します。

- ・ Bluetooth
- ・ IrDA

② 本製品がマスター端末かコピー端末かを設定します。

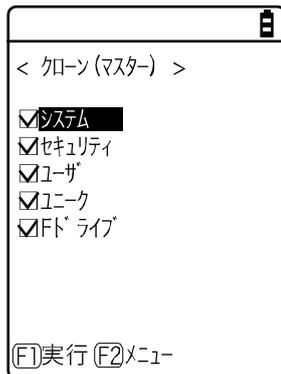
- ・ マスター：複製元の XIT-2xx の場合
- ・ コピー：複製先の XIT-2xx の場合

●マスター：本製品が複製する元

複製する設定とファイルを選択し、クローンを実行します。

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [3:クローン] → [1:Bluetooth/2:IrDA/3:microSD] → [1:マスター]

① クローンする項目を選択します。

コピーする項目を選択します。

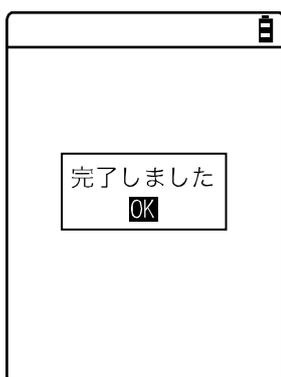
コピー端末が初期化を終了して接続待ち状態になっていることを確認したら、【F1】キーを押してクローンを開始します。



【F2】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

- ・ 全てチェックをつける
チェックボックスを全てチェックします。
- ・ 全てチェックをはずす
チェックボックスから全てチェックを外します。

② クローン操作を完了します。

【ENT】キーを押してクローン操作を完了します。

●コピーする項目の説明

• システム

本製品のシステムソフトウェア（OS）が独自に管理しているパラメータです。

ユーザのアプリケーションで使われることはありませんので、この項目は選択しなくても構いません。

• セキュリティ

システムメニューの起動時パスワードと Bluetooth または WLAN のセキュリティ設定です。

コピー端末でも同じセキュリティ設定を使用したい場合は選択します。

• ユーザ

セキュリティ、ユニーク以外の全てのシステムメニューで設定したパラメータです。

この項目を選択すると、システムメニューで設定したパラメータの大半が複製されます。

• ユニーク

端末 ID および Bluetooth のローカルデバイス名と自局のセキュリティ設定です。

基本的には各端末に固有のパラメータですが、それも含めて複製したい時には選択します。

• F ドライブ

F ドライブに格納されたファイルをコピーします。

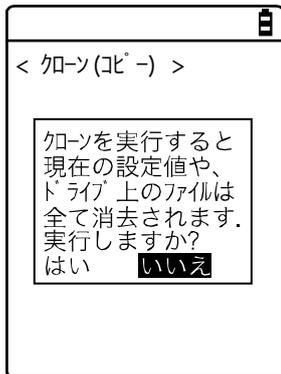
アプリケーションソフトやマスターファイルなどを複製したい時に選択します。

●コピー：本製品が複製される側

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [3:クローン] → [1:Bluetooth/2:IrDA/3:microSD] → [2:コピー]

① 本製品を初期化します。

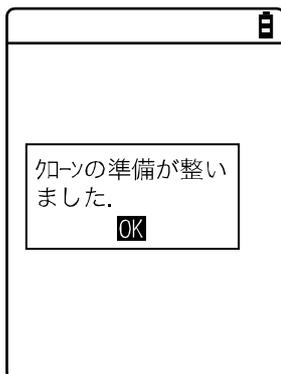


マスター端末でクローンを実行（【F1】キー押下）する前に実行してください。

実行確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択してください。

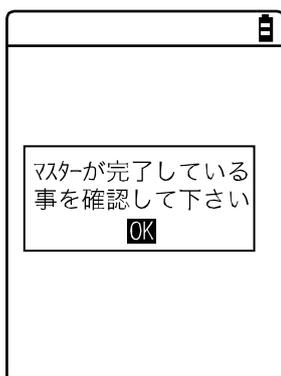
② クローン可能な状態になったことが通知されます。



【ENT】キーを押して接続待ち状態にします。

この時点で、マスター端末のクローン実行（【F1】キー押下）を行ってください。

③ マスター端末の画面を確認してください。



コピー端末側ではクローンが完了したことを確認できませんので、必ずマスター端末側の画面で転送が完了していることを確認してください。もしマスター端末側の転送が完了していない場合は、再度クローンを実行してください。

【ENT】キーを押します。

④ クローンを完了します。



【ENT】キーを押します。
電源が OFF になります。

■microSD の場合

操作手順

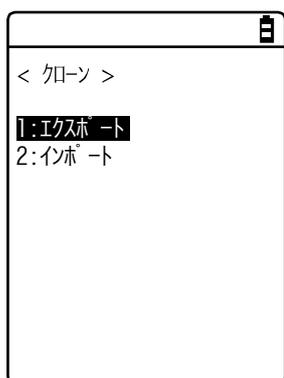
[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [3:クローン]

① 手段を選択します。



microSD を選択します。

② 本製品がエクスポート側かインポート側かを指定します。



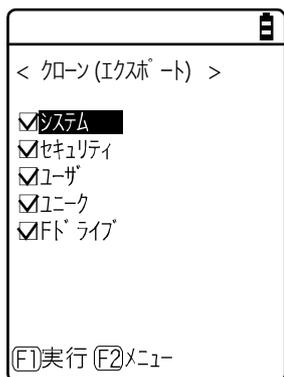
- ・エクスポート：複製元の XIT-2xx の場合
- ・インポート：複製先の XIT-2xx の場合

●エクスポート：本製品が複製する元

複製する設定とファイルを選択し、クローンを実行します。

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [3:クローン] → [3:microSD] → [1:エクスポート]

① クローンする項目を選択します。

コピーする項目を選択します。



【F2】キーを押すとサブメニューが表示されます。
必要に応じて設定します。

- ・ 全てチェックをつける
チェックボックスを全てチェックします。
- ・ 全てチェックをはずす
チェックボックスから全てチェックを外します。

② クローン操作を完了します。

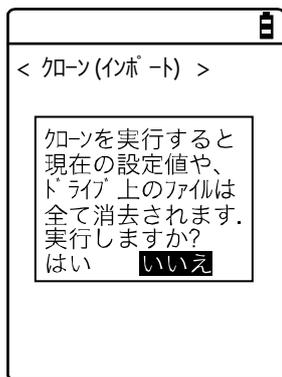
【ENT】キーを押してクローン操作を完了します。

●インポート：本製品が複製される側

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [3:クローン] → [3:microSD] → [2:インポート]

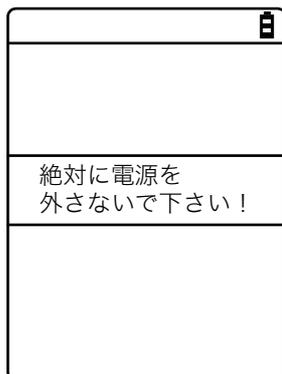
① 実行を確認します。



実行確認ダイアログが表示されます。

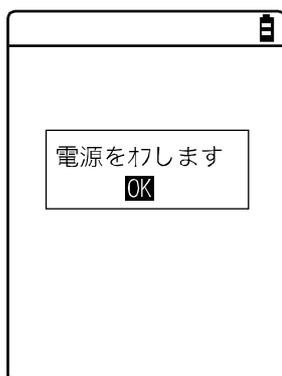
[はい] / [いいえ] を選択してください。

② クローンが実行されます。



実行中は電源を切らないでください。

③ クローンを完了します。



【ENT】キーを押します。

電源がOFFになります。

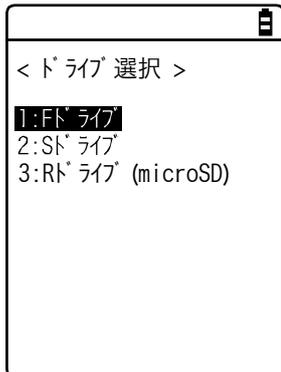
4-10-4 ドライブ：ドライブ情報の表示

ドライブに関する各種情報の確認および保守を実施します。

操作手順

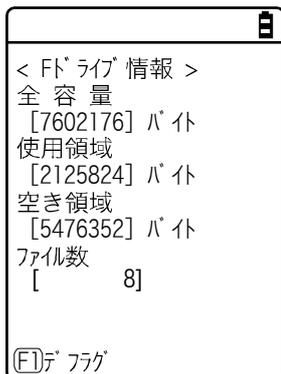
[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [4:ドライブ]

① ドライブを選択します。



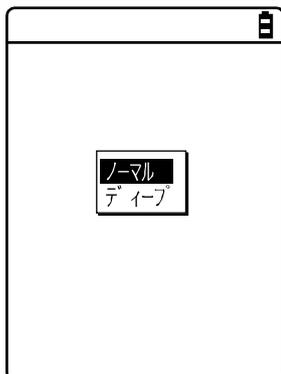
ドライブを選択して【ENT】キーを押します。

② ドライブの情報が表示されます。



次の情報が表示されます。

- ・全容量
- ・使用領域
- ・空き領域
- ・ファイル数



Fドライブでは、【F1】キーを押すとデフラグして最適化することができます。

【ENT】キーを押すとダイアログが表示されます。

- ・ノーマル

ファイルの書き込みや削除の過程で発生した不要な領域を物理的に削除します。

- ・ディープ

ノーマルの実行に加え、確保した空き領域を連続した領域になるよう再配置します。

ディープはドライブの状態により完了まで数秒～数分かかる場合があります。通常はノーマルでの実行をお奨めします。

注意

デフラグの途中では絶対にバッテリーパックを外さないでください。デフラグの途中で電池またはバッテリーパックを外すと、ファイルやシステムプログラムが破壊される恐れがあります。

参考

Fドライブでファイルの書き込みや削除を繰り返すと、次第に空き領域が断片化され、サイズの大きいファイルが格納できなくなったり、起動時間が長くなったりすることがあります。

Fドライブの断片化を防ぐために、以下の点に注意してください。

- ・データはできる限り、一度にまとめて連続したデータとして書込む。
- ・Fドライブに一時的に保存したデータは、終了時に消去する。
- ・一時的に保存しておくようなデータは、なるべくSドライブに書込む。

4-10-5 長期保管：長期間使用しない時の設定

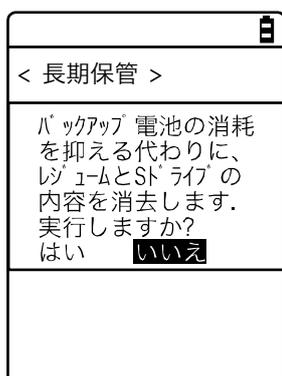
本製品を長期間使用しない場合には、電池の消費を抑える設定にします。

レジュームとSドライブの消去を実行します。

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [5:長期保管]

- ① レジュームとSドライブが消去されます。



実行確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

② 長期保管の準備を完了します。



【ENT】キーを押します。

電源が OFF になります。

参考

長期保管の後に電源を ON した場合、「S ドライブを初期化しました」のメッセージが表示されますが、故障ではありません（「1-2-7 長期保管」(P.52) 参照）。

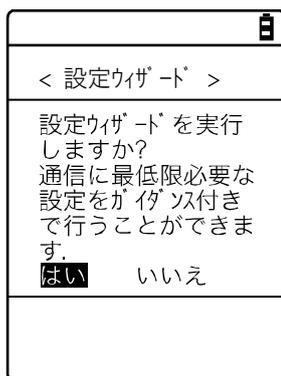
4-10-6 ウィザード：簡単に通信設定ができる画面の起動

本製品を最初に起動した時に実行される設定ウィザードを再度起動することができます。本製品とパソコンとの間で通信するために最低限必要な設定ができます。

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [6:ウィザード]

ウィザードによる設定を実行します。



【はい】 / 【いいえ】 を選択します。

【はい】 を選択すると、WLAN 通信を設定するウィザードが実行されます。【いいえ】 を選択すると元の画面に戻ります。

詳細は、「■設定ウィザードによる WLAN 通信設定」(P.70) をご覧ください。

4-10-7 OS 更新：本製品の OS の更新

本製品の OS を更新します。

あらかじめ OS を F ドライブにダウンロードしておく、以下の手順で OS を更新できます。

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [7:OS 更新]

① OS 更新を開始します。



【F1】 キーを押すと、OS 更新を開始します。

【F2】 キーを押すと、OS 更新を中止します。

② 本製品が再起動され、OS 更新が開始されます。



OS 更新中はバッテリーパックを絶対に外さないでください。

また、全てのキーを押さないでください。

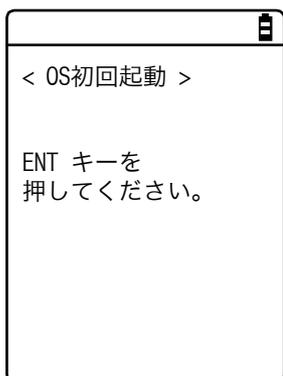
③ 再起動します。



OS 更新が完了した後、いずれかのキーを押します。

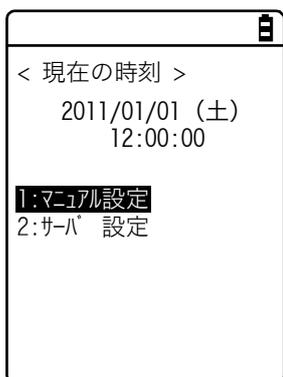
これにより電源が OFF になります。

④ 電源を ON にします (初回起動)。



【ENT】キーを押します。

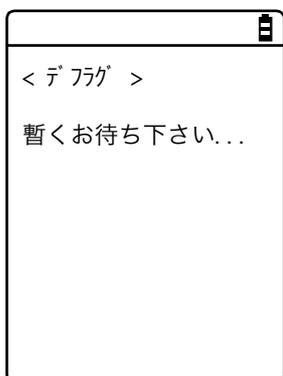
⑤ 時刻を設定します。



時刻設定して、【C】キーを押します。

時刻設定については「4-3-2 時計：時刻の設定」(P.103)を参照してください。

⑥ デフラグが実行されます。



デフラグが実行され、その後電源が OFF になります。

これで OS 更新の手順が完了します。

4-10-8 BHCP：BHCP の設定

弊社独自のプロトコル BHCP (Basic Handy Configuration Protocol) にて、端末のシステム設定や、ファイルダウンロードを自動で行うことができます。

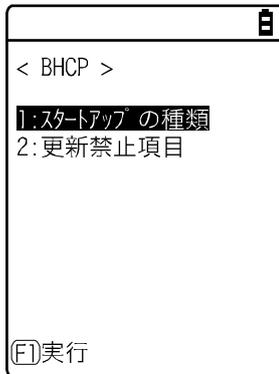
BHCP を実行するために、別売のファイル転送ユーティリティ「BluePorter-L」が必要になります。

BHCP で設定可能な項目の詳細は、BluePorter-L のヘルプマニュアルをご覧ください

操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[8:メンテナンス\]](#) → [\[8:BHCP\]](#)

設定する項目を選択します。



- ・ スタートアップの種類：BHCP の無効/実行の設定
- ・ 更新禁止項目：BHCP で更新を禁止する項目の設定

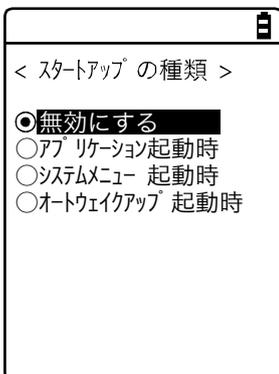
●スタートアップの種類

起動時の BHCP の無効/実行を設定します。

操作手順

[\[システムメニュー\]](#) → [\[8:メンテナンス\]](#) → [\[8:BHCP\]](#) → [\[1:スタートアップの種類\]](#)

スタートアップの種類を設定します。



- ・ 無効にする
起動時に BHCP は実行されません。
- ・ アプリケーション起動時
アプリケーションソフトが実行される前に BHCP が実行されます。
[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行] でアプリケーションソフトが選択されている場合、本製品起動後、アプリケーションソフトが実行される前に BHCP 機能が実行されます。
なお、システムメニューの [5:ファイル] でアプリケーションソフトを起動した場合は、BHCP は実行されません。

- ・システムメニュー起動時
システムメニュー起動時に BHCP が実行されます。
- ・オートウェイクアップ起動時
オートウェイクアップ起動時に BHCP が実行されます。

注意

[システムメニュー] → [3:ネットワーク] → [2:DHCP] → [1:スタートアップの種類] で、DHCP のスタートアップの種類が「無効にする」以外に設定されている場合は、警告が表示され BHCP のスタートアップの種類を設定することはできません。

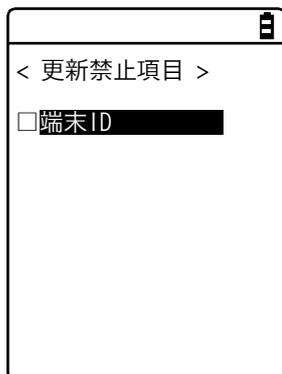
●更新禁止項目

BHCP 機能実行時に、指定した端末固有の情報を変更しないように設定することができます。

操作手順

[システムメニュー] → [8:メンテナンス] → [8:BHCP] → [2:更新禁止項目]

更新禁止にする項目を選択します。



< 更新禁止項目 >
 端末ID

更新を禁止する項目をチェックします。

- ・ 端末 ID

4-11 テスト：ハードウェアデバイスのテスト



ハードウェアデバイスを動作させ、状態をテストします。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト]

テストするデバイスを選択します。



次の項目から選択します。

- ・ WLAN：WLAN 通信のテスト (P.[204](#))
- ・ Bluetooth：Bluetooth 通信のテスト (P.[208](#))
- ・ IrDA：赤外線通信 (IrDA) のテスト (P.[209](#))
- ・ バーコード：バーコードの読取りテスト (P.[210](#))
- ・ 画面：液晶画面の表示テスト (P.[211](#))
- ・ キー：キー動作とインジケータのテスト (P.[212](#))

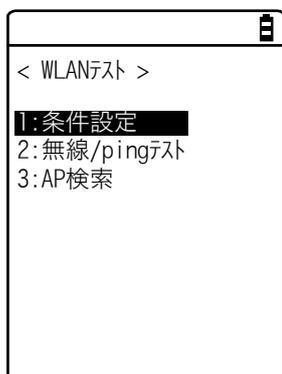
4-11-1 WLAN：WLAN 通信のテスト

WLAN 通信に関するテストおよび IP ネットワークの疎通をテストします。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [1:WLAN]

設定する項目を選択します。



次の項目から選択します。

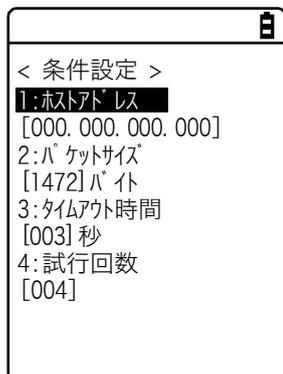
- ・ 条件設定：ping コマンドの実行条件の設定
- ・ 無線/ping テスト：ping コマンドで WLAN 通信テストを実行
- ・ AP 検索：周辺の AP を検索

■ 条件設定

ping コマンドの実行条件を設定します。WLAN 通信テストは ping を行いながらテストします。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [1:WLAN] → [1:条件設定]



WLAN 通信テストの条件を設定します。

- ・ホストアドレス
通信を確認する相手機器の IP アドレスを指定します。
- ・パケットサイズ（デフォルト＝1472 バイト）
送信するデータパケットのサイズ（バイト）を選択します。
設定可能値：32、64、128、256、512、1024、1472
- ・タイムアウト時間（デフォルト＝3 秒）
タイムアウト時間を 1 秒単位で設定します。
設定可能値：1～255 秒
- ・試行回数（デフォルト＝4 回）
ping の送信回数を設定します。
設定可能値：1～255 回
0 を指定すると、【C】キーが押されるまで ping の送信を実行します。

■無線/ping テスト

ping コマンドを実行して WLAN 通信テストを実行します。条件設定で設定したホスト IP アドレスに ping を送信し続けます。表示される内容は ping コマンドの結果、同期しているアクセスポイントの MAC アドレス、通信品質 (LnkQ)、受信した電波の強さ (ASL)、使用チャンネルです。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [1:WLAN] → [2:無線/ping テスト]

```

< 無線/pingの実行 >
① Host=192.168.1.1
② Time < 000.000msec
③ No.004 1472Bytes
④ LnkQ ■■■■■■
⑤ CH:11
⑥ ASL ■■■■■■
⑦ AP_MAC [00A0F8A8B986]

```

次の情報が表示されます。

- ① ping 送信先のホスト IP アドレスです。
- ② 結果を表示します。
成功時
結果時間を表示します。(単位:msec)
タイムアウト
「ping Timeout」を表示します。
【C】キーによる中断時
「中止しました」を表示します。
- ③ 送信パケット番号 (1 ずつカウントアップ)、および送信バイト数
- ④ LnkQ インジケータを表示します。
LnkQ はアクセスポイントとの通信品質を表示します。
- ⑤ 同期しているチャンネルを表示します。
- ⑥ ASL インジケータを表示します。
ASL はアクセスポイントから受信した電波の強さを表示します。
- ⑦ WLAN 通信しているアクセスポイントの MAC アドレスを表示します。

参考

- ・安定した通信パフォーマンスを得るためには、LnkQ のインジケータが 4 以上であることを推奨します。
- ・PSK (TKIP/CCMP) の場合、認証に失敗するとエラーメッセージが表示されます。
- ・④の LnkQ、⑥の ASL インジケータは電波の強さを正確に表示したものではありません。電波状態の目安としてください。

■AP 検索

本製品に設定されている SSID 設定に一致するアクセスポイントを検索します。

本製品の SSID を「ANY」に設定すれば、周辺の全てのアクセスポイントを検索することができます。

参考

アクセスポイント側の設定で、「ANY」に対して応答する設定になっている場合に限り
ます。セキュリティの観点から、「ANY」に対する応答は無効になっていることがあり
ます。

検索結果として表示される内容は、アクセスポイントの MAC アドレス、チャンネル、SSID です。

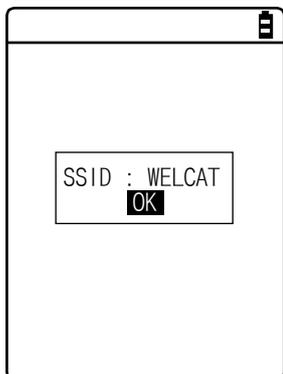
操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [1:WLAN] → [3:AP 検索]



数秒から数十秒後に検索結果が表示されます。

検出されたアクセスポイントの MAC アドレスとチャンネル番号です。



【F1】キーを押すと、選択中のアクセスポイントに設定されている SSID が表示されます。



アクセスポイントを選択すると、確認画面が表示されアクセスポイントに設定されている SSID を本製品に設定することができます。

4-11-2 Bluetooth：Bluetooth 通信のテスト

他の端末と Bluetooth を使って 1 対 1 の通信をします。

Bluetooth 通信実行前に、通信相手となる機器（主局になる機器では従局になる機器または端末、従局になる機器では主局になる機器）をデフォルトデバイスとして設定しておく必要があります。

「4-9-3 Bluetooth:Bluetooth の登録設定」－「**■**リモートデバイス」(P. 171) を参照してください。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [2:Bluetooth]

- ① 本製品が主局か従局かを設定します。



通信する Bluetooth 機器との接続方法を選択します。

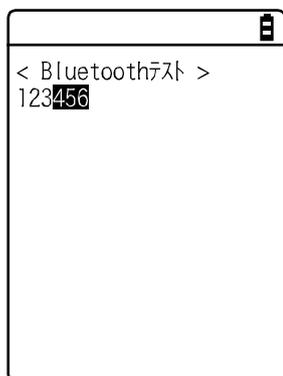
主局は接続における主導権を持ち、従局は主局の指示に従います。主局と従局間でのみ接続できます。

自分が主局であれば他の端末は従局で、自分が従局であれば他の端末は主局でテストを開始します。

なお、主局、従局はあくまでも接続段階における一時的な関係です。

接続後は主局、従局の関係は解消されます。

- ② 通信テストが開始されます。



キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示（ローカルエコー）されます。

データを受信すると、反転表示で画面に表示されます。

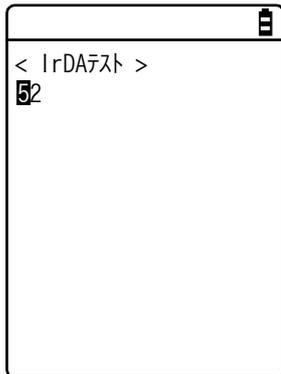
4-11-3 IrDA：赤外線通信のテスト

他の端末と赤外線通信を使って1対1の通信をします。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [3:IrDA]

赤外線通信テストが開始されます。



他の端末と赤外線通信ポート同士を向かいあわせに配置し、他の端末も赤外線通信テストを開始します。

キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示（ローカルエコー）されます。

データを受信すると、反転表示で画面に表示されます。

4-11-4 バーコード

バーコードの読取りテストをします。

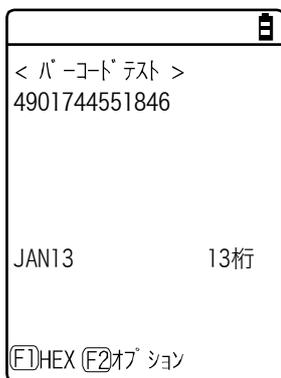
なお、ここでのバーコード入力はトリガモードの影響を受けません。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [4:バーコード]

読取りモードになるので、**[SCAN]** キーまたはトリガキーを押してバーコードを読取ります。

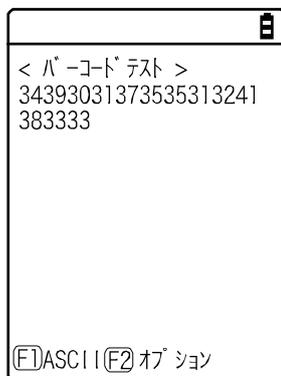
●バーコードの読取り



バーコードを読取ります。

読取ったバーコード、バーコードの種類、桁数が表示されます。

●文字コード変換表示



[F1] キーを押すと、文字コードを変換して表示します。

・ ASCII (デフォルト)

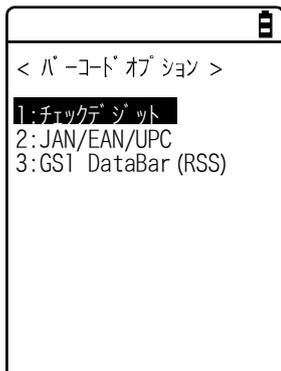
ASCII 文字コードで表示されます。

・ HEX

16 進正数に変換して表示します。16 進変換すると「5」が「35」に、「m」が「6D」のように、1 文字を 16 進正数 2 文字で表示されます。

[F1] キーを押すたびに表示が切替わります。

■バーコードオプション



[F2] キーを押すと各種バーコードオプションを設定できます。

なお、この設定はバーコードテストの間のみ有効になります。

●チェックデジット

チェックデジットをチェックするかどうかを設定します。

- [チェックをします] を OFF にする (デフォルト)
チェックデジットをチェックしません。
- [チェックをします] を ON にする
チェックデジットをチェックします。

●JAN/EAN/UPC

JAN/EAN/UPC のアドオンコードの読取り条件を設定します。

- 禁止 (デフォルト)
アドオンコードを読取りません。
- 許可
アドオンコードの有無を問わず、どちらも読取り可能です。
- アドオンコードのみ許可
アドオンコードのある JAN/EAN/UPC のみ読取り可能です。

●GS1 DataBar(RSS)

RSS Stacked の読取り条件を設定します。

- 禁止 (デフォルト)
RSS Stacked を読取りできません。
- 許可
RSS Stacked の読取りが可能です。

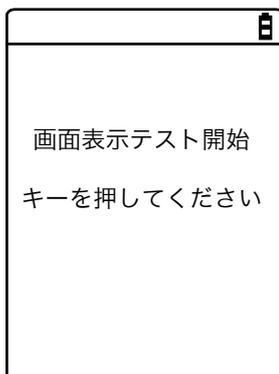
4-11-5 画面：液晶画面のテスト

画面表示に関するテストをします。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [5:画面]

テストパターンが表示されます。



液晶の表示状態をテストします。

【F4】、【PW】キー以外のキーを押すたびに、液晶画面のカラー表示が切替わります。

全ての表示が終わると、1つ前の操作に戻ります。

4-11-6 キー：キー動作とインジケータのテスト

キー入力と同時に、インジケータ（ブザー/バイブレータ/LED）もテストします。

操作手順

[システムメニュー] → [9:テスト] → [6:キー]



キーを押すと、画面中央の区切り線の上に表示されているアイコンが反転表示（【ENT】キーのみ逆）するほか、区切り線の下にはキーに対応したアイコンが表示（ローカルエコー）されます。

また、各キーに連動して、それぞれのキーに対応したインジケータが作動します。

各キーに割当てられているインジケータは次の通りです。

| キー | ブザー | バイブレータ | LED | 音声再生 |
|-------------------------|-----|--------|-----|--------------------|
| [0] ~ [9]、[.] | ○ | × | 緑 | × |
| 【ENT】、【C】、 【BS】、【SF】 | ○ | × | 橙 | × |
| 【SCAN】 | × | ○ | 橙 | × |
| 【F1】 | ○ | × | 赤 | メロディー |
| 【F2】 | ○ | × | 赤 | 会話（バーコードを読んでもください） |
| 【F3】 | ○ | × | 赤 | 会話（バッテリーを充電してください） |
| 【F4】 | ○ | × | 赤 | 会話（エラーです） |
| 【◀】（【F5】） | ○ | × | 赤 | 会話（ゴ） |
| 【▲】（【F6】） | ○ | × | 赤 | 会話（ロク） |
| 【▼】（【F7】） | ○ | × | 赤 | 会話（ナナ） |
| 【▶】（【F8】） | ○ | × | 赤 | 会話（ハチ） |

【C】キーが2回押されるか、全てのキーが押されるとテストを終了します。

参考

全てのキーテストが終了するまで、【PW】キーの操作はできません。

第 5 章

仕様

5-1 製品の仕様

5-1-1 XIT-200-G ワイヤレスハンディターミナル

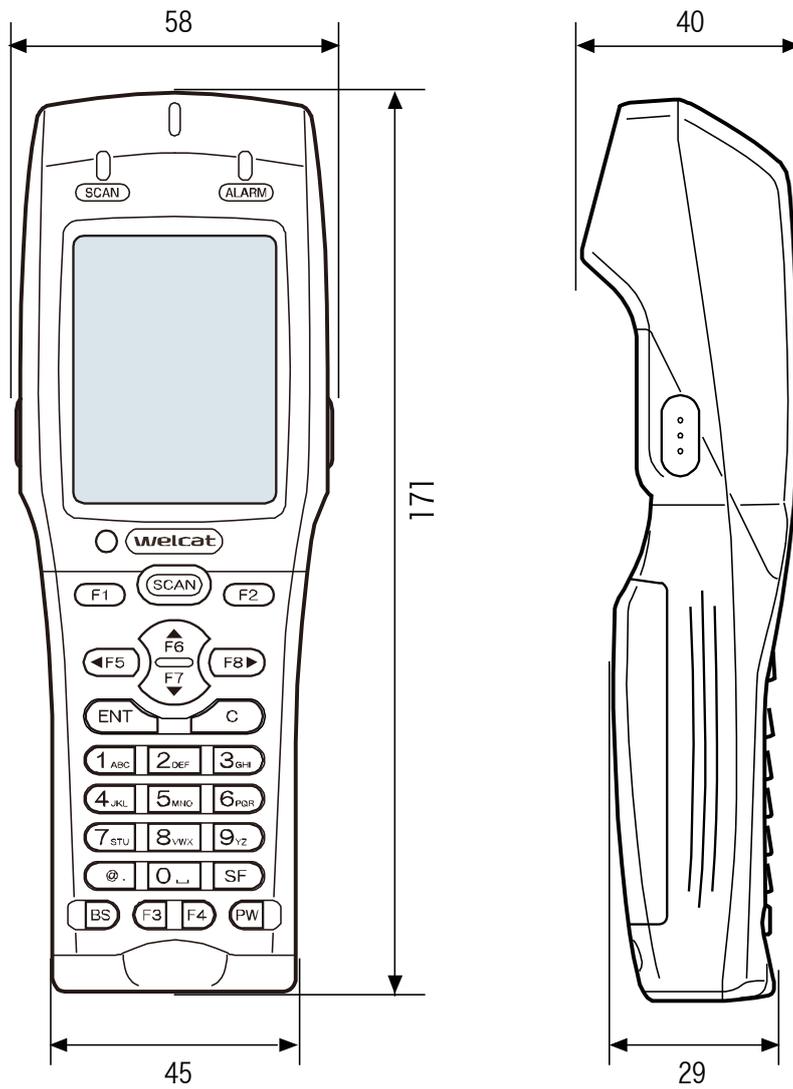
| | | |
|--------------|---------|--|
| CPU | | 32ビット RISC CPU |
| OS | | μITRON |
| メモリ | ROM | 32MB (ユーザ領域 12MB 以上) |
| | RAM | 64MB (ユーザ領域 12MB 以上) |
| スキャナ部 | 読取コード | NW-7, Code39, JAN-13/8, UPC-A/E, インダストリアル 2of5 ITF, Code93, Code128, GS1-128, GS1 DataBar (RSS) |
| | 光源 | 赤色半導体レーザー |
| | レーザクラス | JIS C 6802 Class2 準拠 |
| | 最大出力 | 1mW |
| | 波長 | 650±10nm |
| | スキャン速度 | 100 スキャン/秒 |
| | PCS | 0.45 以上(スペースおよびマージンの反射率70%以上) |
| | 分解能 | 0.127mm |
| 液晶表示部 | 表示素子 | TFT カラーLCD、262,144色 |
| | 表示画素数 | QVGA (320×240) |
| | 画面サイズ | 2.4 インチ |
| | バックライト | 白色LED 輝度調整 5段階 (4段階調整、消灯) |
| フォント | フォントサイズ | 30dot : 半角 16 桁×9 行 24dot : 半角 20 桁×12 行 16dot : 半角 30 桁×18 行 |
| | 表示文字 | JIS 第一、第二水準漢字、ANK、記号、外字 (横倍角、縦倍角、4倍角可能) |
| キー入力部 | キー数 | 27keys (左右トリガキー含む) |
| | バックライト | 橙 |
| 照度センサー | | 有り (LCD バックライト輝度、キーバックライトの点灯制御) |
| バッテリーカバー開閉検知 | | 有り (バッテリーカバーが外されると警告画面が表示) |

| | | | | | | |
|-----------|-----------------------|---|---|-------------|--------------|--|
| 表示 LED | SCAN | 緑/赤/橙 (ユーザ指定、充電状態表示) | | | | |
| | ALARM | 橙 (圏外 LED) | | | | |
| スピーカ | | 音量調整 8 段階 (7 段階調整、OFF) 読取時、各種エラー時に鳴動 (ユーザ指定可能) | | | | |
| バイブレータ | | 有り : 読取り時、各種エラー時に鳴動 (ユーザ指定可能) | | | | |
| 通信部 | Bluetooth | 適合国際規格 | Bluetooth Ver.2.0+EDR 準拠 | | | |
| | | 適合国内規格 | ARIB STD-T66 | | | |
| | | 通信方式 | スペクトラム拡散方式 (周波数ホッピング方式) | | | |
| | | 無線周波数 | 2.4GHz 帯 | | | |
| | | 通信速度 | 最大 1Mbps(理論値) | | | |
| | | 送信電力クラス | Class2 | | | |
| | | アンテナ | 本体に内蔵 | | | |
| | | 通信距離 | 最大 10m *1 | | | |
| | | プロファイル | SPP | | | |
| | WLAN | 適合国際規格 | IEEE802.11b/g | | | |
| | | 適合国内規格 | ARIB STD-T66/RCR STD-33A | | | |
| | | 通信方式 | 直接拡散方式スペクトラム拡散(DSSS) 直交波周波数分割多重(OFDM) | | | |
| | | 無線周波数 | 2.4GHz 帯 | | | |
| | | 通信速度 | OFDM : 54/48/36/24/18/12/9/6 Mbps DSSS : 11/5.5/2/1 Mbps | | | |
| | | チャンネル数 | OFDM : 13ch DSSS : 14ch | | | |
| | | セキュリティ | 暗号化規格 | 認証方式 | 暗号方式 | |
| | | | WEP (40/128) | OPEN、SHARED | WEP (40/128) | |
| | | | WPA-PSK (互換) | PSK | TKIP | |
| | | | WPA2-PSK (互換) | | CCMP(AES) | |
| | | | WPA (互換) | EAP-TLS | TKIP | |
| WPA2 (互換) | EAP-PEAP-MSK HAPV2 | | CCMP(AES) | | | |
| アンテナ | 本体に内蔵 | | | | | |
| 通信距離 | 屋内 : 最大 75m、屋外 : 200m | | | | | |

| | | | | | |
|-----------|-----------------------------|--|----------|---------|--|
| | IrDA | IrDA Ver1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps (SIR) | | | |
| 管理機能 | | SNMP エージェント | | | |
| サポート MIB | | MIB-II (RFC1213)、Welcat Enterprise MIB | | | |
| 外部接続端子 | microSD カード | SD Memory Card Specification, Ver.1.1 | | | |
| 寸法 | | 58 (W) × 171 (D) × 40 (H) mm グリップ部 45(W) × 29 (H) | | | |
| 重量 | | 220g (バッテリーパック含む) | | | |
| 本体充電機能 | | 有り (温度保護機能あり) | | | |
| 電源 | メインバッテリー | リチウムイオン二次電池 *2 | | | |
| | バックアップバッテリー | リチウム二次電池 (メンテナンスフリー) | | | |
| 連続使用時間 *3 | | 約 15 時間 (Typ.) | | | |
| バックアップ期間 | メインバッテリー有り (メインバッテリー満充電) | RAM 保持期間 | 約 19 日 | | |
| | | メインバッテリー無し (バックアップ用電池満充電) | RAM 保持期間 | 15 時間以上 | |
| | バックアップ用電池充電 | RTC 保持期間 | RAM 保持なし | 1 年 | |
| | | | RAM 保持あり | 6 ヶ月 | |
| 充電時間 | | 充電時間 1 日 | | | |
| 時計機能 | 機能 | 年 (4 桁) 月日時分秒/閏年補正あり、タイマー機能あり | | | |
| | 月差 | 約 ±30 秒 | | | |
| 環境 | 使用温度 | -5°C~50°C | | | |
| | 使用湿度 | 20~80%RH (ただし、結露無きこと) | | | |
| | 保存温度 | -10°C~60°C | | | |
| | 保存湿度 | 10~90%RH (ただし、結露無きこと) | | | |
| | 照度条件 | 人工光 4,000lx まで 太陽光 80,000lx まで | | | |
| | RoHS 指令 | 準拠 | | | |
| 耐久性 | 耐落下強度 | 1.5m (コンクリートに 6 面各 5 回落下) *4 | | | |
| | | 2.5m (コンクリートに 1 回落下) *4 | | | |
| | 防滴・防塵 | IEC IP54 (JIS 防塵防沫相当) | | | |

- *1 安定した通信のためには、端末と Bluetooth USB アダプタまたは Bluetooth 通信ユニットの間に障害物がない状態で 2m 以内での使用を推奨します。
- *2 深い充放電を繰り返すと劣化による容量低下で寿命となることがあります。
- *3 連続使用時間は、下記条件下での実力値です。
20 秒に 1 秒バーコード読取り、1 回 WLAN 送受信
LED ON、スピーカ ON、バックライト輝度：レベル 2、バイブ OFF
- *4 試験値であり、保証値ではありません。

■ 外形寸法



5-1-2 QC-006 シングルチャージャ

| | | |
|---------|---------|---|
| 充電部 | 使用温度 | 0~40°C |
| | 使用湿度 | 20~80% (ただし、結露無きこと) |
| | 保存温度 | -10°C~60°C |
| | 保存湿度 | 10~90% (ただし、結露無きこと) |
| | 充電時間 | 約 2.5 時間 ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。 |
| | 外形寸法 | 93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm |
| | 重量 | 225g |
| AC アダプタ | 定格入力 | AC100~240V 50-60Hz 75VA |
| | 定格出力 | DC5.5V 2.5A 13.75W |
| | 重量 | 180g (AC コード含まず) |
| | 外形寸法 | 41.5 (W) × 90 (D) × 28 (H) mm (AC コード、DC コード含まず) |
| | AC コード長 | 1.8m |
| | DC コード長 | 1.8m |

5-1-3 QC-007 マルチチャージャ

| | | |
|---------|---------|--|
| 充電部 | 使用温度 | 0～40℃ |
| | 使用湿度 | 20～80% (ただし、結露無きこと) |
| | 保存温度 | -10℃～60℃ |
| | 保存湿度 | 10～90% (ただし、結露無きこと) |
| | 充電時間 | 約 2.5 時間 ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。 |
| | 外形寸法 | 375.5 (W) × 120 (D) × 106 (H) mm |
| | 重量 | 910g |
| AC アダプタ | 定格入力 | AC100～240V 50-60Hz 150VA |
| | 定格出力 | DC12V 4.6A 70W |
| | 重量 | 300g (AC コード含まず) |
| | 外形寸法 | 58 (W) × 132 (D) × 30 (H) mm (AC コード、DC コード含まず) |
| | AC コード長 | 1.8m |
| | DC コード長 | 1.8m |

5-1-4 IU-004 USB 通信ユニット

| | | |
|-----|------------|---|
| 一般 | 使用温度 | 0～40℃ |
| | 使用湿度 | 20～80% (ただし、結露無きこと) |
| | 保存温度 | -10℃～60℃ |
| | 保存湿度 | 10～90% (ただし、結露無きこと) |
| | 外形寸法 | 93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm |
| | 重量 | 215g |
| 通信部 | USB ケーブル長 | 1m |
| | 赤外線通信 | IrDA Ver.1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps |
| | 外部インターフェース | USB2.0 Full Speed コネクタ：TYPE B |
| | 電源 | USB BUS パワー |
| | 消費電流 | 100mA 以下 |

5-1-5 IU-004C USB 通信/充電ユニット

| | | |
|---------|------------|---|
| 一般 | 使用温度 | 0~40°C |
| | 使用湿度 | 20~80% (ただし、結露無きこと) |
| | 保存温度 | -10°C~60°C |
| | 保存湿度 | 10~90% (ただし、結露無きこと) |
| | 外形寸法 | 93 (W) ×117.5 (D) ×105.4 (H) mm |
| | 重量 | 216g |
| 通信部 | USB ケーブル長 | 1m |
| | 赤外線通信 | IrDA Ver.1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps |
| | 外部インターフェース | USB2.0 Full Speed コネクタ：TYPE B |
| | 電源 | USB BUS パワー * |
| | 消費電流 | 100mA 以下 |
| 充電部 | 充電時間 | 約 2.5 時間 ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。 |
| AC アダプタ | 定格入力 | AC100~240V 50-60Hz 75VA |
| | 定格出力 | DC5.5V 2.5A 13.75W |
| | 重量 | 180g (AC コード含まず) |
| | 外形寸法 | 41.5 (W) ×90 (D) ×28 (H) mm (AC コード、DC コード含まず) |
| | AC コード長 | 1.8m |
| | DC コード長 | 1.8m |

* 通信機能の電源に使用されます。充電は AC アダプタ使用してください。

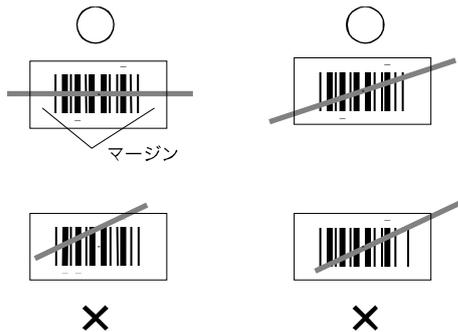
5-1-6 IU-004CL LAN 通信/充電ユニット

| | | |
|---------|------------|--|
| 一般 | 使用温度 | 0~40°C |
| | 使用湿度 | 20~80% (ただし、結露無きこと) |
| | 保存温度 | -10~60°C |
| | 保存湿度 | 10~90% (ただし、結露無きこと) |
| | 外形寸法 | 93 (W) × 117.5 (D) × 105.4 (H) mm |
| | 重量 | 262g |
| 通信部 | 赤外線通信 | IrDA Ver.1.2 物理層準拠 通信速度：最大 115200bps |
| | 外部インターフェース | Ethernet : Version.2.0 / IEEE802.3 10BASE-T / 100BASE-TX コネクタ : RJ45 |
| 充電部 | 充電時間 | 約 2.5 時間 ※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる環境があります。 |
| AC アダプタ | 定格入力 | AC100~240V 50-60Hz 96VA |
| | 定格出力 | DC5V 3A 15W |
| | 重量 | 180g (AC コード含まず) |
| | 外形寸法 | 49.8 (W) × 68.2 (D) × 26.3 (H) mm (AC コード、DC コード含まず) |
| | AC コード長 | 1.8m |
| | DC コード長 | 1.8m |

5-2 読取仕様

5-2-1 バーコードの読み方

レーザ光がバーコードを横切るようにスキャンします。また、バーコード左右の余白（マージン）も照射するようにします。



5-2-2 読取深度

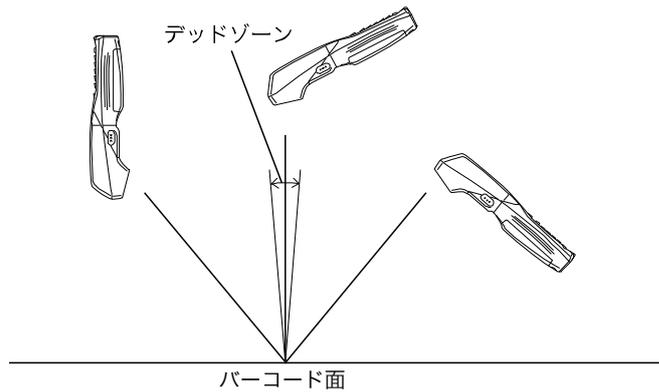
レーザ光がバーコードを横切っても、バーコードからの距離が近すぎたり遠すぎたりすると、バーコードが読取れないことがあります。

読取りが難しい場合は、バーコードと本体の距離を変えて、再度読取ってください。

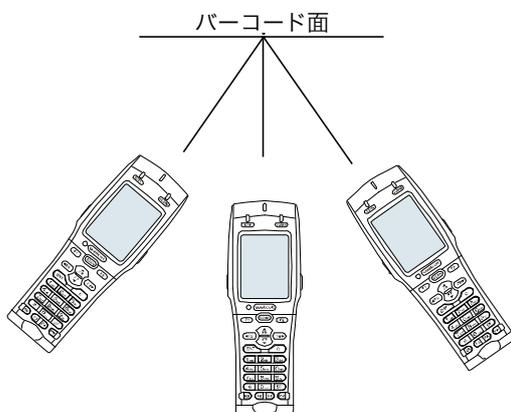
5-2-3 バーコードの傾きと読取り可能角度

バーコードに対して垂直にレーザー光が当たっていると、正反射の影響により読取りにくい場合があります（デッドゾーン）。

上手く読取れない場合は、角度を変えて再度読取ってください。



バーコードに対し、左右斜めから読取ると、読取り難い場合があります。上手く読取れない場合は、角度を変えてバーコードを読んでください。



5-3 画面出力キャラクタ

■全角文字

| シフト JIS | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | A | B | C | D | E | F |
|------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| f040 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| f050 | NU | SH | SX | EX | ET | EQ | AK | BL | BS | HT | LF | VT | FF | CR | SO | SI |
| f060 | DL | D1 | D2 | D3 | D4 | NK | SY | EB | CN | EM | SB | EC | FS | GS | RS | US |
| f070 | (0) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (9) | Ⓜ | Ⓒ | ⓑ | Ⓢ | Ⓞ | |
| f080 | ← | F1 | F2 | F3 | F4 | F5 | F6 | F7 | F8 | F9 | F10 | ⏪ | ⏩ | ⏴ | ⏵ | ⏶ |
| f090 | ↑ | ↓ | ↶ | ↷ | ↸ | ↹ | ↺ | ↻ | | | | | | | | |
| f0a0 | | □ | △ | Ⓢ | ☺ | ☹ | ○ | ⊙ | ⊚ | ⊛ | ⊜ | ⊝ | ⊞ | ⊟ | ⊠ | ⊡ |
| f0b0 | Ⓛ | Ⓜ | Ⓝ | Ⓞ | Ⓟ | Ⓠ | Ⓡ | Ⓢ | Ⓣ | Ⓤ | Ⓥ | Ⓦ | Ⓧ | Ⓨ | Ⓩ | ▶ |
| f0c0 | | | | | | | | | | | → | ↑ | ← | ↓ | ↕ | ↔ |
| f0d0 | | | | | ⇒ | ⇧ | ⇩ | ⇨ | ⇦ | ⇧ | ⇩ | ⇨ | ⇦ | ⇧ | ⇩ | ⇨ |
| f0e0 | | | | | ⇩ | ⇧ | ⇩ | ⇧ | ⇩ | ⇧ | ⇩ | ⇧ | ⇩ | ⇧ | ⇩ | ⇧ |
| f0f0 | J _{AN} | U _{PC} | N _{W7} | I _{TF} | I _{ND} | C ₃₉ | C ₁₂₈ | E ₁₂₈ | M _{RX} | M _{X1} | W _{PC} | I _{NT} | C ₉₃ | R _{SS} | P _{DF} | Q _R |

■半角文字

| 半角 位置 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | A | B | C | D | E | F |
|----------|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | . | . | . | 0 | @ | P | ' | p | . | . | ␣ | ␣ | ク | ミ | . | . |
| 1 | . | . | ! | 1 | A | Q | a | q | . | . | 。 | ア | チ | ム | . | . |
| 2 | . | . | " | 2 | B | R | b | r | . | . | 」 | イ | ツ | メ | . | . |
| 3 | . | . | # | 3 | C | S | c | s | . | . | 」 | ウ | テ | モ | . | . |
| 4 | . | . | \$ | 4 | D | T | d | t | . | . | 、 | エ | ト | ヤ | . | . |
| 5 | . | . | % | 5 | E | U | e | u | . | . | ・ | オ | ナ | ユ | . | . |
| 6 | . | . | & | 6 | F | V | f | v | . | . | ヲ | カ | ニ | ヨ | . | . |
| 7 | . | . | ' | 7 | G | W | g | w | . | . | ア | キ | ヌ | ラ | . | . |
| 8 | . | . | (| 8 | H | X | h | x | . | . | イ | ク | ネ | リ | . | . |
| 9 | . | . |) | 9 | I | Y | i | y | . | . | ウ | ケ | ノ | ル | . | . |
| A | . | . | * | : | J | Z | j | z | . | . | エ | コ | ハ | レ | . | . |
| B | . | . | + | ; | K | [| k | { | . | . | オ | サ | ヒ | ロ | . | . |
| C | . | . | , | < | L | ¥ | l | | . | . | ヤ | シ | フ | ワ | . | . |
| D | . | . | - | = | M |] | m | } | . | . | ユ | ス | ハ | ン | . | . |
| E | . | . | . | > | N | ^ | n | ~ | . | . | ヨ | セ | ホ | . | . | . |
| F | . | . | / | ? | O | _ | o | . | . | . | ツ | ソ | マ | . | . | . |

第6章

よくある質問と回答

6-1 よくある質問と回答

よくある質問やトラブルと、それを解決するために確認する必要のある項目や参照箇所について説明します。

Q：電源が入らない

- 本製品の電極、バッテリーパックの電極が汚れたり変形したりしていませんか？
 - バッテリーパックは正しく装着されていますか？
 - バッテリーパックは充電されていますか？
 - バッテリーカバーは正しく装着されていますか？
 - バッテリーパック再装着後の最初の電源 ON は【PW】キーを2秒以上押ししてください。
-  「1-2 本体の使い方」 (P.34) / 「1-4 お手入れのしかた」 (P.57)

Q：画面に何も表示されない

- 本製品の電極、バッテリーパックの電極が汚れたり変形したりしていませんか？
 - バッテリーパックは正しく装着されていますか？
 - バッテリーパックが消耗していませんか？
 - バッテリーカバーは正しく装着されていますか？
-  「1-2 本体の使い方」 (P.34) / 「1-4 お手入れのしかた」 (P.57)

<上記の項目を確認しても解決できない場合>

次の方法で、システムメニューを起動してください。

1. バッテリーカバー、バッテリーパックを取外します。
2. 10秒待ってから、バッテリーパック、バッテリーカバーを装着します。
3. 【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを2秒以上押します。

Q：しばらく操作を中断したら、電源がOFFになってしまった

■ バッテリーパックが古くなっていませんか？

バッテリーパックには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過したりするにつれ容量が少しずつ低下します。使用できる時間が極端に短くなった場合は、寿命とされますので新しいものをご購入ください。

■ バッテリーパックが消耗していませんか？

 「1-2 本体の使い方」 (P.34)

■ オートパワーオフ機能が有効になっていませんか？---- (P.109)

■ アプリケーションソフトで省電力等の設定をしていませんか？

Q：充電できない

■ 本体はチャージャに正しくセットされていますか？

■ 電源アダプタはチャージャに正しくセットされていますか？

■ 充電は周辺温度が0°C~40°Cの範囲で行っていますか？

 「1-2-4 バッテリーパックの充電」 (P.43)

<上記の項目を確認しても解決できない場合>

バッテリーパックの故障の可能性があります。

弊社営業までお問合せください。

Q：日時を確認したい、修正したい

「4-3-2 時計：時刻の設定」 (P.103) を参照してください。

Q：システムメニューが起動しない

■ 強制的にシステムメニューを起動する場合は、【SCAN】キーを押しながら【PW】キーを押します。

 「4-1-2 システムメニューの起動」 (P.93)

■ 常時システムメニューで起動したい場合は

システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で [システムメニュー] のラジオボタンを選択してください。

 「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」 (P.102)

Q：電源を ON にした時に起動するアプリケーションソフトを変更したい

■システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で目的のアプリケーションソフトのラジオボタンを選択してください。

 参照 「4-3-1 自動実行：アプリケーションソフトの自動実行」 (P.102)

Q：別のアプリケーションソフトを起動したい

■システムメニューで [5：ファイル] → [1:F ドライブ] → [1:アプリケーション] を選択し、サブメニューから [実行] を選択してください。

 参照 「4-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など」 - 「■実行：アプリケーションソフトの実行」 (P.154)

Q：バーコードが上手く読取れない

■読取れない可能性があるバーコードについては「6-2 読取りが困難なバーコード」 (P.235) を参照してください。

■アプリケーションソフトの設定に合ったバーコードを読取っていますか？

アプリケーションソフトの設定によっては、特定の種類のバーコードが読取り禁止になっている場合があります。

■正反射が起こっていませんか？

表面がビニールに覆われている、またはラミネート加工されたバーコードではありませんか？⇒正反射の角度でなくても読み難いことがあります。角度を変えてお試しください。

■バーコードを正しくスキャンしていますか？

分解能と読取り距離には規程がありますので、バーコードのバー/スペースの最小幅に合わせた距離でスキャンしてください。

■読取距離は正しいですか？（「5-2 読取仕様」 (P.223) 参照）

■ラベルの品質は良いですか？

・ラベルの品質が悪いと、正しく読取れない場合があります。以下のような場合は、ラベル品質を改善してください。

- ①薄い印字のバーコード（ドットインパクトプリンタで印字したり、複写伝票のようなバーコード）
- ②汚れたり、印刷の欠けたバーコード
- ③バー/スペースの幅が本製品の分解能を超える細さのバーコード
- ④左右の空白（クワイエットゾーン）のないバーコード（バーコードの左右に文字や罫線のあるもの）
- ⑤印刷が滲んだり細ったりして、バー/スペースの幅が不適切なバーコード
- ⑥湾曲したり、しわの入ったラベル

・デコードレベルの設定を変えて再度読取を実行してください。デコードレベルの設定は「4-9-1 バーコード：バーコードスキャナの設定」 - 「■デコードレベル」 (P.165) を参照してください。

■ レーザ光に異常がありませんか？

- ・ 読取り口に汚れやゴミが付着すると正常なスキャンができなくなります。
その場合は、乾いた柔らかい布でフィルタを拭いてください。
- ・ レーザ光が二重になっている場合や輪を描いている場合でも読めなくなることはありませんが、読取りに支障をきたす場合は故障が疑われますので修理をご依頼ください。

Q：ドライブの空き容量を確認するには

システムメニューの [8：メンテナンス] → [4：ドライブ] で確認します。

 「4-10-4 ドライブ：ドライブ情報の表示」 (P.197)

Q：WLAN 通信ができない**■** イーサネット LAN にアクセスポイントが接続されていますか？

アクセスポイントによっては LAN ケーブルが抜けていたりリンクが確立されていなかったりすると WLAN 通信を行いません。

■ SSID はアクセスポイントと同じ設定ですか？---- (P.112 参照)

SSID をアクセスポイントと合わせてください。

本製品が"ANY" (空白) 設定の場合、アクセスポイントの機能で接続できない場合があります。アクセスポイントのマニュアルを参照してください。

■ 認証設定は合っていますか？---- (P. 114 参照)

アクセスポイントの認証方式と合わせてください。

「Shared」の場合、WEP 設定を確認してください。

■ WEP の設定は合っていますか？

WEP 方式は合っていますか？ (無効、40bit、128bit)

WEP の TxKey_ID と WEP キーは合っていますか？ (P.114 参照)

■ 同じチャンネル、または干渉するチャンネルで設定されたアクセスポイントが存在していませんか？

干渉しないチャンネル設定された場合、1 つのエリアで使用できるアクセスポイントの最大数は 4 台です。

■ 障害の原因となる電波が発生していませんか？

WEB カメラ、無線式内線電話、電子レンジ、他の WLAN 通信など障害要因となる機器がないか確認してください。

またパソコンがノイズ発生源となることもありますので、アクセスポイントおよび本製品から 1m 以上離すようにしてください。

■ IP アドレス等 TCP/IP の設定に問題ありませんか？---- (P.129 参照)

Ping 等でパソコンに接続できるか確認してください。

■DHCP が失敗する

ネットワーク管理ツールが起動していない、または一般的な DHCP を利用しており、ポート番号を合わせていない

注意

ネットワーク管理ツールは独自の DHCP のポート番号（8067）を使用します。そのため、本製品のポート番号をそれに合わせる必要があります。

Q : Bluetooth 通信ができない**■接続先リモートデバイスは起動していますか？****■ 接続先リモートデバイスがデフォルトデバイスに設定されていますか？**

システムメニューの [7 : デバイス] → [3 : Bluetooth] → [2 : リモートデバイス] で設定してください。

■ 接続先リモートデバイスとセキュリティ設定は同一ですか？

 「4-9-3 Bluetooth : Bluetooth の登録設定」 (P.169)

■ BluePorter などの通信ソフトウェアは正しく動作していますか？**Q : BluePorter-V の COM ポートがオープンできない****■BluePorter-V を組込んだ PC で、弊社の WL7-KEY というソフトを使用していないですか？**

WL7-KEY が Ver1.02 以前ですと COM ポートが占有されてしまいオープンできません。恐れ入りますが、弊社営業までご連絡願います。

Q : 赤外線通信 (IrDA) ができない**■ USB ケーブルが抜けたりしていませんか？****■ USB 通信ユニット (IU-004/004C) の USB ドライバソフトが接続するコンピュータにインストールされていますか？****■ 転送ユーティリティ BluePorter-V が接続するコンピュータにインストールされていますか？****■ コンピュータ画面タスクバー右側の通知領域に BluePorter-V のアイコンが表示されていますか？**
表示されていないと BluePorter-V がインストールされていても起動していません。**■ 本製品および USB 通信ユニット (IU-004/004C) の赤外線通信ポート (窓) が汚れていませんか？**

 「3-4 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」 (P.81) / 1-4 お手入れのしかた」 (P.57)

Q : WLAN 通信と Bluetooth 通信を同一環境で同時使用したい

同時使用は可能ですが、無線の相互干渉により通信の遅れが生じる場合があります。

Q：ファイルの送受信中に「書込みに失敗しました」と表示された

■ Fドライブの空き領域が少ない場合などに表示されます。

Fドライブ、Sドライブ、Rドライブのファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトです」と表示された

送信または受信待ち状態のまま一定時間が経過すると表示されます。

■ パソコンのネットワーク管理ツールは起動していますか？

■ 通信設定は正しく設定されていますか？

■ 本製品とパソコンは正しく接続されていますか？

 「3-2 WLAN 通信環境の構築」(P.68)、 「3-3 Bluetooth 通信環境の構築」(P.77)、 「3-4 赤外線 (IrDA) 通信環境の構築」(P.81)

■ パソコンのリソースが不足していませんか？

通信ソフト (ネットワーク管理ツールまたは BluePorter-V) のアプリケーションソフトなどが起動している場合、パソコンのリソースが不足することで、ファイルの送受信に失敗することがあります。通信に必要なアプリケーションソフトは、できるだけ終了してから再度通信してみてください。

Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された

■ WLAN 通信の設定は正しく行われていますか？---- (「4-4 WLAN：WLAN 通信の設定」 [P.112](#) 参照)

■ パソコン上で FTP サーバは起動していますか？

■ アクセスポイント (弊社推奨品) とパソコンは LAN 回線上で正しく接続されていますか？---- (「4-4 WLAN：WLAN 通信の設定」 [P.112](#) 参照)

■ FTP の設定は正しく行われていますか？---- (「4-5-3 FTP：FTP の設定」 [P.134](#) 参照)

■ Bluetooth で目的のリモートデバイスとは異なるリモートデバイスに接続していませんか？

■ Bluetooth でセキュリティ設定はリモートデバイスと同じですか？

■ Bluetooth でリモートデバイスは正しく設定されていますか？

■ パソコン側で同じ名前のファイルを使用 (エディタで開いていたり、データベース関係でファイルがオープンされていたりなど) していませんか？

 「4-8 端末 ID：端末識別用 ID の設定」(P.161) / 「4-9-3 Bluetooth：Bluetooth の登録設定」(P.169)

Q：本製品の IP アドレス等の設定をパソコンから一括設定したい

■ WebGlider 統合サーバ (別売) に付属のネットワーク管理ツールの DHCP サーバを使って本製品の

設定を自動化することができます。

Q：アプリケーションソフトの起動やファイルの送受信ができない

■ バッテリーパックの電圧が低いと、一部の機能が操作できなくなります。バッテリーパックは充電されていますか？

 「1-2-4 バッテリーパックの充電」 (P.43)

Q：ファイルが壊れている

■ ファイルの書込み中（データ交信中、ファイル受信中、バックアップ中等）またはデフラグ中に、バッテリーパックを取外したり、誤って落としたり、強い衝撃を与えて電源が切れてしまった場合は、ファイルが壊れる恐れがあります。

ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。この処置を行っても正常に動作しない場合は、故障が疑われますので修理をご依頼ください。

 「4-7 ファイル：ファイルの実行・送信・削除など」 (P.150)

■ アプリケーションソフトによっては電源を切る時にデフラグ処理、バックアップ処理をするものがあります。バッテリーパックを交換する時は、必ず電源が切れていることを確認してください。

Q：本製品のシステム設定が初期化されている

■ 設定はレジストリファイルに保存されていますので、上記のようなファイル破損が発生した場合、初期化されることがあります。

Q：電源を入れたら「Sドライブを初期化しました」というメッセージが表示された

■ 動作中にバッテリーパックや電池を外したり、落下等衝撃で電源が切れてしまった場合は正常な終了処理がされないため、Sドライブのバックアップが行われません。

■ 購入後、初めて電源を投入した時にも同様のメッセージが表示されます。

Q：電源を入れたらシステムメニューが起動する

- システムメニューの [1：システム] → [1：自動実行] でアプリケーションソフト名 (*****. OUT) を選択していますか？
 - ・選択していない場合、アプリケーションソフトが自動実行されません。

Q：「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

- システムプログラムがエラーの原因を特定できなかった場合に表示されます。ハードウェア、システムプログラム、アプリケーションソフト等の障害、強度の静電気のような外部要因などの原因が考えられます。システムエラーメッセージが表示された場合、【PW】キーを押すと電源が切れます。次回起動時に可能な限り自己復旧します。再度電源を ON してください。

Q：microSD カードにアクセスできない

- 本製品は SDHC 規格には非対応です。動作確認済みの microSD カードをご使用ください。動作確認済みの microSD カードについては「1-2-3 microSD カードの取扱い」(P.38) を参照してください。

Q：BHCP を行うには？

- BHCP を実行して端末の各種設定を行うには、別売の BluePorter-L が必要になります。
- BluePorter-L の詳細については「BluePorter-L ヘルプマニュアル」を参照してください。

6-2 読取りが困難なバーコード

次のようなバーコードは、読取れない場合があります。

●薄いバーコード

推奨 PCS 値は、0.25 以上です。



●かすれたバーコード

・全体にかすれたバーコード



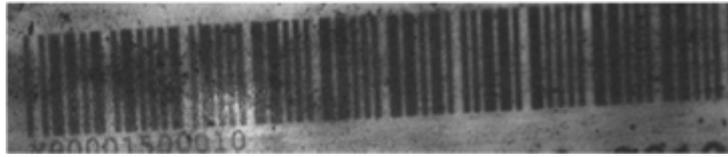
・高さ方向に斜めのすじが入ったバーコード



●バーの欠落したバーコード

バーが1本以上欠落したバーコード



●汚れたバーコード**●クワイエットゾーン不足のバーコード**

使用するバーコードの規格を参照してください。

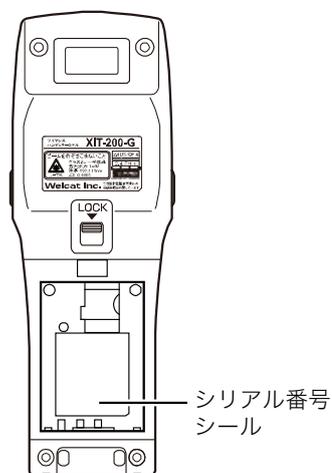
枠や罫線が近すぎてクワイエットゾーンが不足



製品保証

■製品保証について

1. 製品の無償保証期間は弊社出荷日より1年となります。ただし、無償保証期間内でも、次のような場合は有償となることがありますのでご了承ください。なお、本製品に保証書の添付はございません。
 - シリアル番号の無いものおよび確認できないもの（出荷日の管理が不可能なため）
 - マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取扱いによる障害
 - 故意または重大な過失による障害
 - 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
 - 許可無く、改造または他機器の接続、取付けを行ったことによる障害
 - 災害、地震、水害等の天災地変による障害
 - お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
 - 使用上避けられない消耗による障害・部品交換（消耗品交換）
2. 製品の内容は、改良やバージョンアップなどにより、予告無く変更することがあります。
3. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てに關しての責任を負いかねますので、ご了承ください。



消耗品

■保守について

安心してご使用頂けるように、購入時に「保守契約」を締結されることをお奨めしております。

保守については、弊社ホームページの「カスタマサポート」の「アフターサービス」でご案内しております。

■修理について

修理のご依頼は、弊社ホームページの「カスタマサポート」の「アフターサービス」にある修理依頼票フォームをご利用ください。

<http://www.welcat.co.jp/support/>

■消耗品

消耗品（消耗部品）は、本製品を使用し続けることで性能が低下してきます。製品の使用環境や使用頻度により性能低下までの期間は異なり、使用状況によっては弊社の保証期間より短い期間での交換（有償）が必要になることがあります。

- 操作キー（押しボタン）
- バイブレータ（振動モーター）
- レーザスキャナ（バーコード読取装置）
- 電極板（本体充電、バッテリーパック充電用電極とバッテリーパック端子）
- バッテリーパック
- バックアップ用電池
バックアップ用電池はメンテナンスフリーですが、深い充放電を繰り返すことにより、容量が大幅に劣化する場合があります。この場合は、バックアップ用電池を交換する必要があります
- バッテリーカバー

などが消耗品となります。



ご使用が終わりましたバッテリーパックの取扱いは、バッテリーパックの取扱説明書、「使用済みバッテリーパック（BP-004）について」（P.7）を参照してください。

付録

付録-1 出荷時設定一覧

| 設定項目 | 設定可能範囲 | 出荷時設定値 |
|---------------------------|---|----------|
| 自動実行プログラム | システムメニュー任意のアプリケーションソフト | システムメニュー |
| 電源管理 レジューム | 有効にする 有効にしない | 有効にしない |
| 電源管理 オートウェイクアップ | 毎日、毎週、毎月 | 未設定 |
| 電源管理 オートパワーオフ時間 | 0000 または 0060～3600 秒 | 0600 秒 |
| パスワード | 4～30 文字の英数記号で大文字/小文字を判別 | 未設定 |
| SSID | 32 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | XIT |
| ローミングレベル | Slow、Normal、Fast | Normal |
| 省電力タイムアウト | すぐ、1 秒、3 秒、なし | 1 秒 |
| セキュリティ 暗号化 方式 | 無効にする、WEP (40bit)、WEP (128bit)、TKIP、CCMP (AES) | 無効にする |
| セキュリティ 暗号化 WEP TxKeyID | KEY-1、KEY-2、KEY-3、KEY-4 | KEY-1 |
| セキュリティ 暗号化 WEP Key 設定 | KEY-1～KEY-4 それぞれに 16 進文字(0～9、A～F、a～f) で構成された文字列で WEP 40bit の場合は 10 文字固定、WEP 128bit の場合は 26 文字固定 | 未設定 |
| セキュリティ 暗号化 PSK(TKIP/CCMP) | ASCII コードなら 8～63 文字、16 進文字(0～9、A～F、a～f) なら 64 文字固定 | 未設定 |
| セキュリティ 認証 方式 | Open、Shared、EAP | Open |
| セキュリティ 認証 EAP 認証 | ELP-TLS、EAP-PEAP-MSCHAPv2 | ELP-TLS |
| セキュリティ 注意表示 | 表示する、表示しない | 表示する |
| 詳細設定 送信速度 | 11b Auto、11bg Auto、11g 9M、11g 6M、1M、2M、1 or 2M、5.5M、11M | 11b Auto |

| 設定項目 | 設定可能範囲 | 出荷時設定値 |
|---------------------------|---|-----------------|
| TCP/IP IP アドレス | IP アドレス形式の任意値 | 000.000.000.000 |
| TCP/IP サブネットマスク | IP アドレス形式の任意値 | 000.000.000.000 |
| TCP/IP デフォルトゲートウェイ | IP アドレス形式の任意値 | 000.000.000.000 |
| TCP/IP MTU | 0064~1500 | 1500 (オクテット) |
| DHCP スタートアップの種類 | 無効にする、アプリケーション起動時、システムメニュー起動時、オートウェイクアップ起動時 | 無効にする |
| DHCP 更新禁止項目 | IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、端末 ID (複数選択可) | 未設定 |
| DHCP サーバポート番号 | 00001~65534 | 08067 |
| FTPサーバアドレス 指定方法 | IP、ホスト名 | IP |
| FTP サーバアドレス IP | IP アドレス形式の任意値 | 000.000.000.000 |
| FTP サーバアドレス ホスト名 | 62 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | 未設定 |
| FTP ユーザ名 | 18 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | 未設定 |
| FTP パスワード | 20 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | 未設定 |
| FTP 詳細設定 サーバポート番号 | 00001~65534 | 00021 |
| FTP 詳細設定 モード | Passive、Active | Passive |
| FTP 詳細設定 フォルダ カレントフォルダ | / (ルート)、/ (ユーザ名)、/ (指定) | / (ルート) |
| FTP 詳細設定 フォルダ 指定フォルダ | 62 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | 未設定 |
| DNS プライマリ | IP アドレス形式の任意値 | 000.000.000.000 |
| DNS セカンダリ | IP アドレス形式の任意値 | 000.000.000.000 |
| DNS 詳細設定 サーバポート番号 | 00001~65534 | 00053 |

| 設定項目 | 設定可能範囲 | 出荷時設定値 |
|------------------------------------|---------------------------|-------------------|
| DNS 詳細設定 タイムアウト時間 | 01～99 秒 | 03 秒 |
| DNS 詳細設定試行回数 | 0～9 | 1 |
| SNMP コミュニティ (R/Only) コミュニティ名 | 16 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | public |
| SNMP コミュニティ (R/W) コミュニティ名 | 16 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | private |
| SNMP 詳細設定 エージェントポート番号 | 00001～65534 | 00161 |
| SNMP 詳細設定 Trap ポート番号 | 00001～66534 | 00162 |
| 端末 ID | 000～999 | 000 |
| バーコード トリガモード 読取りキー操作 | ノーマル、ダブル、リリース、オート | ノーマル |
| バーコード トリガモード パワーセーブ | フルセーブ、クイックセーブ、ノーセーブ | フルセーブ |
| バーコード トリガモード レーザ照射時間 | 1～60 秒 | 20 秒 |
| バーコード デコード レベル | レベル：1～5 | レベル：4 |
| バーコード 反転 | 禁止、許可 | 禁止 |
| Bluetooth ローカルデバイス デバイス名 | 30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | XIT-200 |
| Bluetooth ローカルデバイス 認証 | 有効にする、有効にしない | 有効にしない |
| Bluetooth ローカルデバイス PIN コード | 16 文字までの 16 進文字 (0～9、A～F) | 未設定 |
| Bluetooth リモート デバイス 1～7 デバイス名 | 30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別 | 未登録 |
| Bluetooth リモート デバイス 1～7 BD アドレス | 12 文字固定の 16 進文字 (0～9、A～F) | 00:00:00:00:00:00 |

| 設定項目 | 設定可能範囲 | 出荷時設定値 |
|--------------------------------|---|--------|
| Bluetooth リモートデバイス 1~7 認証 | 有効にする、有効にしない | 有効にしない |
| Bluetooth リモートデバイス 1~7 PIN コード | 16 文字までの 16 進文字 (0~9、A~F) | 未設定 |
| Bluetooth リモートデバイス検索オプション | 1~9 | 9 |
| 画面 自動調光 | 有効にする、有効にしない | 有効にする |
| 音バيب ボリューム | レベル：1~8 | レベル：8 |
| 音バيب キークリック音 | なし、クリック音、クリック音+音声、音声 | なし |
| BHCP スタートアップの種類 | 無効にする、アプリケーション起動時、システムメニュー起動時、オートウェイクアップ起動時 | 無効にする |
| BHCP 更新禁止項目 | 端末 ID | 未設定 |

付録-2 サンプルバーコード

注意

印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

●JAN13**●JAN8****●UPC-E****●CODE39 (C/D あり)**

●CODE39 (C/Dなし)



●NW-7 (C/Dあり)



●NW-7 (C/Dなし)



●NW-7 (HEX)



●ITF (C/Dあり)



●ITF (C/Dなし)



●ITF (標準バージョン ITF-14)



●ITF (拡張バージョン ITF-16)



●ITF (アドオンバージョン ITF-6)



●CODE128 (コードセット A)



●CODE128 (コードセット B)



●CODE128 (コードセット C)



●EAN128 (コードセット A)



●EAN128 (コードセット B)



●EAN128 (コードセット C)



付録-3 用語集

本マニュアルで使われている用語の意味を説明しています。

Fドライブ

アプリケーションソフト、データベースマスターファイルなどを格納するための領域です。パソコンからダウンロードしたアプリケーションソフトは、Fドライブに保存されます。

Sドライブ

アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル（テンポラリファイル）を格納するための領域です。

Rドライブ

ファイルを格納するための外部拡張領域（microSDカード）です。

システムプログラム

本製品に搭載されているOSです。

システムメニュー

システムプログラムの機能进行操作するプログラムです。

デフォルトデバイス

システムメニューのリモートデバイスリストに登録されたBluetoothデバイスのうち、デフォルトに設定されたデバイスです。システムメニューでは、常にデフォルトデバイスに接続します。

バッテリーパック

充電式のリチウムイオン二次電池です（BP-004）。

バックアップ用電池

バッテリーパックを外した時や、バッテリーパックの残量が少なくなった場合、内蔵時計のデータやファイルの一時保存をするための電池です。

リモートデバイス

ローカルデバイスの接続先となるBluetoothデバイスです。

ローカルデバイス

操作中のBluetoothデバイスを指します。本製品を操作している場合は、本製品がローカルデバイスになります。

ワイヤレスハンディターミナル
XIT-200-G
ユーザーズマニュアル

2015年8月 第10版発行

Copyright 2011 Welcat Inc.

株式会社ウェルキャット

<http://www.welcat.co.jp/>

info@welcat.co.jp